思ふが、勢激するところ如何とも爲し難い點もあらうと考へる。然るに我々は政黨とは第三者の關係にあるので、自由の立場に立つて黨弊に拘束せらるゝ事なく批判をなし得る立場にある。故に甚だ僭越ではあるが、兩黨の幹部諸君並に縣當局諸賢の御來臨を乞うて、之れ等の事について隔意なき意見の交換を願つて、縣下教育・產業の爲め協調一致を圖りたいとの意味から今日御會合を願つた次第である。

と參集を求めた主旨を述べたるに對し、平山代議士並に高木第四郎其の他の諸氏より、贊同の挨拶があり、胸襟を披いて懇談を重ねた結果、更に民・政兩黨の幹部は十二日午後二時から熊本電氣會社樓上に於て、紫藤・赤星・上田・長野の四氏と會見して、教育・產業其の他の事について隔意なき意見の交換を行ひ、成るべく超政黨の問題は黨派を超越して協調を保つて、其の振興發達を圖らうといふことに意見の一致を見たが、赤星氏は

縣教育會のことについては縣當局者及び縣下中、小學校職員間に教育會を民間團體として活動せしめたいとの意見があるが、之れは平素から自分等の持論とせる所である。而して之れが實行上經費捻出の必要を感じ、各自の俸給の幾分かを醵出せんとするの運動が起つて居り、教育改善の氣運を促進してゐる。此の際、超政黨的に官民一致して、此の目的の達成に努力することは最も必要と思ふ。兩黨の諸君も贊同盡力を願ひたい。

と、前日の主旨を敷衍するところあり、一同之れに贊成し、眞面目に目的達成に努力することを申合

せ、更に產米改良蠶絲改良等につき意見の交換を行ひ、產米改良については特に三津家傳之氏より產米改良協會につき詳細の說明があつたが、先づ第一着手として教育會の改良問題に力を傾注することにし熊本縣教育會長には、義に赤星典太氏を推したが、同氏は之を辭退したけれど、是非同氏を推したいとの意嚮が教育界に起つてゐるから、赤星氏の承諾を乞ひたい、細川侯は現在名譽總裁であるが眞の意味に於ける總裁として總べての統帥をお願ひしたいとの意見出で、滿場一致して贊意を表し之れが實現を期することを申合せ、なほ此の種の會合は必要に應じ時々參集して行ふことにし、出席者の人選は紫藤氏外三名に於て詮衡せらるゝこととし會食して散會した。當日の出席者は紫藤章・赤星典太・上田萬平・長野友博四氏の外平山岩彥・山田珠一・深水清・高木第四郎・中野猛雄・三津家傳之・大塚勇太郎・山隈康・古閑又五郎・小見山七十五郎・上塚秀勝・江藤繁雄・三善信房・坂田道男の諸氏であた。

代表者の會合

內外の機運いよ〳〵熟したのを見た朝比奈課長は、縣內教育關係の代表者として永島意之助・法政雄・津幡隆・堀一雄・堀川義人・一木重馬・加賀山與定・松下武彥の諸君及び私を集めて、縣內教員の輿論を述べ、

その輿論の希望する教育會改造は、之を如何にすればよいか、自分は何も意見を述べないか

ら、諸君は自由の立場に於て何等の牽制拘束を受くることなく、縣教育將來のため縣教育會定款の改正案と、其の基礎を鞏固にする基本金造成案を作製してはどうだ。

といふ話があつた。

六月十三日前記の人々は明麗館に集合し、朝比奈學務課長・高尾視學官の臨席を請ひ、午前中大體の打合せを濟ませ、午後は前記の代表者ばかりで立案に取りかゝつた。其の日は薄暮まで研究を續け、翌日は更に早朝から會合して協議を重ね、正午漸く成案が出來た。

其の日は午後一時に、縣は各支會長の職にある人々を招集してあつたので、右の案を提出して意見を求め、支會長は夫々支會の實情に照して互に腹藏なき意見の交換が行はれ、これならばと相談はうまく纏まつた。

併しその後なほ少し不備の點が見出されたので、六月二十三日更に支會長の集會を求めて相談があり、其の案を原案として進むことになつた。それから猶今後の方策を定むる爲に、朝比奈課長・永島・福田・法の三副會長・木原・伊藤の兩視學、それに私も加はつて種々協議をなし、七月十四日に縣は本會評議員の職にある人々を明麗館に招集して從來の經緯を述べ、且、案を示し

周到な準備工作

て議を遂げた。

支會長・評議員の意見も纏まつたので、今度は前以て此の案に就て一般會員の諒解贊成を求めて置く必要があるので、定款改正案・基本金蓄積に關する趣意書及び其の方案・熊本縣教員互助會と合併案・各支會員會費負擔額現況調等を全會員に悉く一葉づゝ配付し、各學校長に於て會員の贊否の意見を問ふことになつた。

全員贊意を表す

偶々縣は八月二十一日から九月五日まで、教員臺帳整理のため一郡市毎に小學校長會を明麗館で開くことになつた。そこで各校長は自校在職の會員が嚢に配付を受けた諸案に對する贊否につき記名調印した書類を取纏めて校長會に出席の際縣に提出することになつた。ところが小學校在職の會員は一名も漏れなく贊成といふ結果を得、中央支會（中等學校在職の會員を以て組織する支會）の方は七月十七日中等學校長會の際に、全會員から贊成を表示する書類が提出せられた。

產婆役たる縣廳、端的に言へば朝比奈學務課長の非常なる熱心と努力とによつて、七千近くの會員が悉く贊成といふことになつたので、縣は定款改正案及び其の他の諸案を本會に渡して、『輿論はきまつたから、之から教育會の仕事に移し、定款の示す正規の手續きによつて進行せよ。』

といふことであつた。それで本會は數回の幹部會を開き、九月九日に顧問會、十一日には常委員會、十三日に臨時評議員會を開いて原案の通りに可決したので、いよ〳〵九月二十一日に臨時總會を開くことゝなつた。

臨時總會

本會改造の大問題を議すべき臨時總會は、九月二十一日午前十時熊本市公會堂に於て開かれた集まるもの一千三百名。國歌合唱・勅語奉讀はいとも嚴かに行はれて直に議事に入る。會長缺員のため永島副會長議長席に着き

開會

會長が不在中でありますから、副會長の一人と致しまして私が會長に代つて開會の御挨拶を申上げます。本日本會の臨時總會を開催致しました所、先程調査になりました所に依りますれば前例以上の多數會員の御出席を得て居り、洵に衷心喜びに堪へない次第であります。斯く臨時總會を開くに至りました事情に就きまして、一言議事に先だつて申上げたいと思ふのであります。

熊本縣教育會は明治二十五年の創立でありまして、今日迄三十八年といふ長い年月を經過して居ります。此の間、時に多少の盛衰を見た事であらうと思ひますが、大體に於て順調に而も健實なる發達を遂げて今日に至つて居ります。大正四年には大正天皇の御即位御大典の記念事業と致しまして、會員の出費に依つて教育會館即ち明麗館を建築致して居ります。又一昨年の今上陛下御即位御大禮の記念事業と致しまして、之又會員の醵金に依りまして、會館の增築を初め其他の事業を擧行致しました

事は、今尙各位の記憶に新なる事であると存じます。然るに本年は御承知の通り、教育に關する御勅語御下賜滿四十年に相當致して居ります。苟も教育に關係をして居りまする全國あらゆる團體におきましては、それ〴〵盛大なる記念式を擧げるは勿論、適當なる記念事業を計畫致して居ります。本會におきましても此の點に就て長い間愼重に考慮をめぐらしたのでありますが、幸ひに縣當局並教育に理解のある有力者の方々の御熱心なる御援助を得まして、こゝに本會改造を立案し之が實現を期するに至つたのであります。教育に關する御勅語の御下賜に就きましては、我が熊本縣の大先輩である元田永孚先生・井上梧蔭先生が明治天皇の御信任を受けられて、滿腔の赤誠を捧げられました事は隱れたる事實と致しまして、諸君の御承知の通りであります。此の事に就きましては德富蘇峰先生が來月の下旬態々御歸縣になりまして、親しく御講演して下さる計畫になつて居ります。各位も直接に御聽講の機會を得られる事と存じて居ります。兎に角教育勅語御下賜と我が熊本縣とが、格別の緣故を有つてをります事は、本縣教育者の忘れてはならぬ事であります。我々は此の格段の名譽を擔ふと共に一層責任の重大を感じ、一致團結して御聖旨の普及徹底を計り、教育振興の爲に邁進するの大覺悟がなければなりません。本會はこゝに大いに鑑みる所があつたのであります。

卽ち本會は其の基礎を一層鞏固にし、內容を充實し事業を振興し、教育を社會化し以て教權の確立を圖り尙會員共濟の實を擧げ且つ子弟の教育に對しても、各々其の志を得しむる等の根本的意見の下に、こゝに定款改正・基本金蓄積・互助會との合併の三件を立案し、本日の臨時總會に提出するに至

つたのであります。而して特に臨時に總會を開催致しました理由は、來る十月二十六日に擧行致しまする定期の總會に於ては教育勅語御下賜滿四十年の記念式を盛大に擧行する計畫であります。此の定期總會迄に定款改正の手續を終了し又基本金の蓄積も開始致しまして、所謂新陣容の下に此の記念すべき定期總會を擧行し、教育革新の第一歩を踏み出したいといふ切なる希望に出たのであります。願はくば會員各位よく此の間の事情を御諒察下さつて、愼重に御審議を遂げられ、更に滿場一致の御賛成を得て、本會の面目を一新する事を得まするならば、本會の幸福之に越すものはないであらうと思ひます。議事に入ります前に蕪辭を述べまして開會の言葉に代へます。

と述べて第一號議案を附議す。それが可決せらるれば順次に第二號議案・第三號議案と進む。その議案は次の通りである。

議　案

第一號議案

本會定款ノ一部ヲ別紙朱書ノ通リ改正ス（定款條文を略す）

（議案は一枚の紙に現在定款を黑刷、改正すべき部分を赤刷の二度刷とし、一見して改正の要點が明かに分る樣にしてある。）

第二號議案

本會ハ左記方法ニヨリ基本金ヲ蓄積ス

記

一　豫定額　金貳拾萬圓以上

二　方　法

1　小學校教員竝補習學校教員幼稚園保姆等ノ職ニ在ルモノハ三箇年間毎月月俸額ノ百分ノ一ヲ醵出ス

2　中等學校竝官廳等ニ勤務スル會員ハ三箇年間毎月月俸額ノ二百分ノ一ヲ醵出ス

3　會員中前二號ニ該當セサルモノハ適當ノ金額ヲ醵出ス

4　新ニ入會シタルモノハ其ノ身分ニヨリ夫々前三號ニ準シタル金額ヲ醵出ス

三　前項ノ方法ニヨリテ蓄積スル金額ハ之ヲ現在ノ基本金ニ繰入ルヽモノトス

四　基本金蓄積ハ昭和五年十月ヨリ開始シ開始後五箇年間據置クモノトス

第三號議案

本會ハ社團法人熊本縣教員互助會ト合併スルヲ可トス

此カ實行ニ關スル一切ノ事項ハ之ヲ會長ニ一任ス

改造成る

議案の朗讀は私が之に當り、福田副會長が之を說明する。固より數ケ月前から至れり盡せりの準備工作が行はれ、會員全部が賛成してゐる案であるけれども、各議案ともに二三の質問があり

津幡隆・石田市彌太・赤城安熊・五島法眼・井島政吉・井上健三郎などの諸氏から熱烈な贊成演說があつて三案とも原案通り可決せられた。終りに來賓として臨席せられた谷學務部長の祝辭があり、永島副會長の音頭で　天皇陛下萬歲三唱・熊本縣教育會萬歲を三唱して解散した。

赤星會長就任

臨時總會で滿場一致を以て三大事業が可決せられ、定款の改正は十月十八日付で認可の通知があつたから、二十二日臨時評議員會が開かれた。その日は會員一同が久しく熱望して止まなかつた赤星新會長が就任せられ、太田評議員(女子師範學校長)は一同を代表して會長歡迎の辭を述べ、それより新定款による役員選擧・追加更正豫算案の議決などがあり、玆に本會は全く其の面目を一新して活動すべき第一歩を踏み出した。

記念總會

越えて十月二十六日、教育勅語御下賜四十周年を記念する本會總會が熊本市公會堂で開かれたこの日天よく晴れて氣亦淸し。定款を改正して陣容を新たにせる初總會だけに、定刻前より參集する會員は刻々に其の數を增して正に三千を超え、さしもに廣い大廣間も殆ど收容しきれぬ未曾有の盛況を呈し、來賓は特に文部大臣の代理として派遣せられた龍山督學官を始め、縣內の有志

未曾有の盛況

百名近くであつた。

會の順序は例年と大差はなかつたが、赤星會長の告辭は會員といはず來賓といはず孰れも傾聽して本會改造の趣旨をよく諒解した樣であつた。田中文部大臣・安達內務大臣・本山熊本縣知事山田熊本市長・小見山熊本縣會議長・本山大阪每日新聞社長の祝辭に次いで細川侯爵・淸浦伯爵其の他本縣出身有志からの祝電數十通の披露などがあつて後、總會を一時中止して熊本縣教員互助會創立十周年記念の總會に移つた。

互助會記念式

先づ福田互助會長登壇して式辭を朗讀し、教員互助會創立主唱者古泉貞治氏を始め功勞者に對し感謝狀及記念品を贈呈し、縣知事の祝辭(谷學務部長代讀)龍山督學官・赤星縣教育會長・會員總代內尾眞澄氏の祝辭・縣內外よりの祝電披露・感謝狀受領者總代として古泉貞治氏の感懷深き謝辭があり、次いで熊本縣教育會と合併の議案を急轍の如き拍手を以て決議して會を閉ぢ、引續き互助會の祝賀會が催ふされた。

午後一時教育會總會を再開す。本日の講師として態々來縣された德富蘇峯氏は『教育勅語の本義』といふ題下に、約一時間半に亘る大講演をなして會員一同に深き感激を與へられ、之に對し

て赤星會長の謝辭が終ると、鹿本郡山鹿小學校長津幡隆氏は起立して發言を求め

兩先生顯彰

今、德富先生の講演を聞き更に感激を深うしたるにより、熊本縣教育會は元田・井上兩先生顯彰の方法を講ぜられたし。

との希望を述ぶれば、宇土郡松合小學校長野口龜氏贊成の意見發表があり、滿場の會員も亦拍手を以て贊成の意を表示したから、會長は適當の時期に何等かの方法を講じて希望に副ふべき旨を答へ、最後に渡邊綠村氏の吟咏があり、極めて感況裡に閉會した。

改造の趣旨

當日赤星會長の告辭は本會改造の趣旨を明示してあるから、左に其の全文を掲ぐる。

告辭

皇國教育ノ大指針タル教育勅語御下賜四十周年ノ聖キ記念ノ日ヲ近ク迎フル本日ヲトシ茲ニ組織改造成立ヲ見タル我熊本縣教育會會長トシテ諸賢ニ見エ所懷ノ一端ヲ披瀝スルノ機會ヲ得タルハ余ノ最モ欣快トスル所ナリ

抑モ今回組織改造ノ擧タルヤ本縣教育會ノ實狀ニ鑑ミ之レヲ改善スベキ幾多ノ理由アリタルニ基ク

曰ク政爭劇甚ノ餘波ハ延イテ神聖ナル我教育界ニ浸潤シ其弊漸ク甚シカラントシ教育者ハ常ニ脅威ト壓迫トヲ蒙リ倒確乎タル信念ヲ以テ斯界ニ終始セント欲スル有爲ノ士アリト雖趦趄逡巡其ノ所信ニ勇

往邁進スルノ精神氣魄ヲ失ヒ甚シキハ阿附迎合以テ策ヲ得タルモノトナシ國家百年ノ大計タル教育ノ根本義ヲ誤レル者尠シトセザルニ至レリ此ニ於テ識者先ヅ此寒心スベキ黨弊ノ浸潤ヲ廢除シ教育者ヲシテ超然トシテ政爭ノ外ニ立脚シ眞ニ地位ノ安固ヲ保チ以テ自己ノ信念ニ基イテ教權ノ確立ヲ期セシムルニ非ラズンバ國民教養ノ大任ヲ托スルニ足ラザルコトヲ痛感セリ之レ改造ヲ要スルニ至リシ理由ノ一ナリ

曰ク縣ノ爲政者ハ政變ニ伴フ毎ニ移動ヲ生シ易キヲ以テ地方文化ニ即シタル教育上ノ方針ヲ確立シ之ニ準據シテ施設經營ヲ爲スノ擧ニ出ヅル能ハズ從ツテ教育者ハ常ニ其ノ據ルベキ所ヲ知ラズ又守ルベキ所ヲ失フノ憾アリ加フルニ爲政者亦往往ニシテ政黨ニ掣肘セラレテ自己ノ所信ヲ遂行スル能ハザルノ感ナキニシモアラズカクテ國家百年ノ大計タルベキ教育ノ方針ガ爲政者ノ移動ニ依ツテ朝令暮改セラルヽノ弊ニ陷ルハ最モ見易キ所ニシテ之又大ニ憂フベキ所タルナリ之ニ於テカ一ニハ肥後教育ノ方針ヲ確立シ之レガ據ル所ヲ知ラシメ一ニハ爲政者ノ變動ニ依ツテ其ノ向フベキ所ヲ謬ラザラシメントス之レ改造ヲ要スルニ至リシ理由ノ二ナリ

曰ク教育會ハ宜シク縣民ノ輿論ヲ尊重スルト同時ニ又之ヲ善導スルノ機關タラザル可カラス然ルニ從來ノ教育會ハ其ノ組織上唯縣當局並ニ教育家ノ輿論ノ機關タルニ過ギズシテ廣ク一般有識者ノ輿論ヲ窺フコト能ハズ而モ當局ノ移動ハ頻繁ニシテ眞ニ擧縣一致ノ輿論ヲ作興シ以テ所謂肥後教育是ナルモノヲ樹立スルノ域ニ達セザリキ此ニ於テカ縣ノ爲政者一般有識者教育者ノ三者ヲ打ッテ一丸ト爲シコ

丶ニ公明著實ナル輿論ヲ作興スルノ必要ヲ認メタリ之レ改造ヲ要スルニ至リシ理由ノ三ナリ
之レヲ要スルニ有識者ハ教育者ヲシテ政爭政派ノ外ニ超越シ安ンジテ其ノ天職ヲ全ウスルヲ得シメン
トシ教育者ハ自ラ覺醒奮起シテ自立的ニ教權ノ確立ヲ計リ以テ國民教養ノ大任ヲ果サントスルノ氣運
近時著シク醸醸シ加フルニ縣ノ當局モ亦自ラ進ンデ此ノ氣運ノ促進ニ努力セラレカクテ三者ノ渾然
融和一致ヲ見コヽニ改造ノ成立ヲ告グルニ至レルナリ之レヤガテ本縣教育界ノ前程ヲ照ス曙光ニシテ
肥後教育ノ名ヲ天下ニ輝カサンコト期シテ待ツベキナリ之豈慶賀祝福ノ至リナラズヤ
顧ミテ現今社會ノ風教ヲ察スルニ教育勅語下賜セラレテ既ニ四十周年ニ及ブト雖我ガ國民精神ノ眞髓
タル忠孝ノ道果シテ能ク徹底シツヽアリヤ採ツテ以テ範トナスニ足ル幾多ノ外來思想果シテ能ク咀嚼
セラレツヽアリヤ國體ノ尊嚴ヲ冒瀆スル輕佻危激ノ徒ヲ時ニ見ルガ如キ誠ニ恐懼ノ極ミナラズヤ本ヲ
失ウテ末ヲ追ヒ頽廢ノ氣横溢セルガ如キハ現今社會ノ實情ナリ嗚呼勅語ノ聖旨ヲ奉戴シテ之レガ運用
ノ妙徹底ノ實ヲ擧ゲシムルモノハ果シテ誰ノ任ゾヤ教育者ノ使命重且大ナリト云ハザルベカラズ
更ニ現時ノ教育制度ヲ見テ之ヲ時運ノ進展ト世相ノ推移トニ對照センカ正ニ其ノ行詰リノ極ニ達セル
ヲ知ルベシ現狀ニ善處スルノ道ヲ講ジツヽ速カニ此レガ對策ヲ樹テ以テ教育ノ使命ヲ謬ラザラントス
ル之レ亦教育者ノ最モ努ムベキ所ニ非ズヤ然リ而シテ我ガ肥後ニ於ケル教育ハ如何
由來教育ヲ誇トナスト雖モ其ノ誇ルベキモノハ何ゾ之ヲ過去ニ徵スルニ肥後ノ文教ハ實曆マデハ未ダ
其ノ燦然タル光ヲ放ツニ至ラザリシガ舊藩主細川靈感公ニ至リ政治ノ基礎ヲ德教ニ置イテ擧藩一致此

レガ實行ニ努メシヨリ以來文教欝然トシテ起リ肥後ハ九州ニ於ケル人材ノ淵叢トナリ遠ク笈ヲ負ウテ
來リ遊ブ者多ク肥後獨特ノ文化ヲ產ミ以テ今日ニ及ベリ今ヤ諸般ノ行詰レル時ニ當リ縣內外ノ識者ガ
教育者ト共ニ立チ共ニ携ヘテ正義ノ基調タラシムベク教育會ヲ改造シタル其ノ擧縣一致ノ精神ハ實曆
ノ古靈感公ノ著意實行セラレタルト正ニ其ノ軌ヲ一ニスト謂ツベシ卽チ曩ニハ名君靈感公ガ中心トナ
リテ肥後人心ヲ纏メ今ハ衆智衆力ヲ集メテ教育會ヲ改造シ正ニ實曆ノ盛運ヲ昭和ニ見ルノ感アリ吾人
ハ宜シク肥後文化ノ特色ヲ攻究シテ肥後人士ノ嚮フベキ方向ヲ定メテ各人ノ天賦ノ性能ニ應ジテ此レ
ガ適性教育ヲ施スベキナリ
更ニ文化ノ向上ヲ圖ランニハ一村一鄕ニ中心タルベキ善士養成ニ努メザルベカラズ善士ニ依ツテ其ノ
一村一鄕ヲ薰化シ以テ全國ニ波及スルニ至ラシメンカ國家ノ隆盛ハ期シテ待ツベキナリ我ガ教育會ハ
此ノ適性教育善士教育ヲ標榜シテ此レガ指導ノ任ニ當リ以テ肥後ノ文化否世界ノ文化ニ資スル所アラ
ントス
余、今諸君ノ推選ニ依リテ會長ノ名ヲ辱カシム正ニ全力ヲ盡シテ此ノ改造ノ主旨ヲ貫徹シ教育會ノ使
命ヲ全ウスルコトニ努メントス諸君亦和衷協同斯道ノ爲メニ大ニ盡瘁ノ勞ヲ惜ムコト勿レ
聊カ所感ヲ述ベテ告辭トナス

昭和五年十月二十六日

熊本縣教育會長　赤星典太

赤星會長

會員の待望久しかりし赤星會長の就任は漸くにして實現した。その赤星會長とはどんなお方であるか、私の管見を少しく述べて見よう。

赤星典太氏は明治元年、純忠菊池氏の同族肥後藩士赤星家に生る。熊本師範學校附屬小學校・熊本中學校・第五高等學校を經て、帝國大學法科を卒業し直に大藏省に入り、司稅官・稅務管理局長・司法省參事官・書記官・農商務省參事官・書記官・行政裁判所評定官を歷任して敏腕の聞え高く、大正二年六月初めて地方長官として鄕關に錦を飾り、爾來山口・長野・長崎の各縣知事として良明府の名を擅にし、今現に錦鷄間祗候の顯位に居り、歷史愛好家で教育尊重者である。

長野縣の人達は

私が始めて氏の名前を知つたのは本縣知事の時分であつたが、當時一訓導の私などは固より何の關係もあらう筈がなく、唯我等の長官として仰いでゐたに過ぎぬ。ところが大正十年春長野縣に學事視察に行つた時、私が熊本縣人であるが故に到る所の學校で赤星知事の消息を尋ねられ、且、同縣に於ける功績と共の德を頌するので、鄕を同うする一人として肩身の廣い思ひをしたことがある。その後全國聯合教育會などで長野縣の人に逢ふと、逢ふ人每に赤星知事の話をする。又、長野縣から本縣に學事視察に來た人は、必ず赤星會長の宅を訪うて敬意を表するのが常であ

る。

教育界の尊敬

長野縣に於ける赤星知事の治績の一々は知らぬが、それ等の人々から聞いた片々の話を綜合して見ると、赤星會長が同縣知事時代、教育界に大きな問題が起つたさうであるが、知事は平素抱懷する教育尊重の大精神を發揮し、教育者の味方となつて善處解決したのが、いたく同縣教育界の尊敬を集めたと同時に、教育にかけては全國一といふ矜恃を持つ縣民の信賴畏敬を深うしたといふことである。又、往年文部省で高等學校增設の議起るや、赤星知事は東奔西走よく當局を動かして長野縣に誘致されたのが、即ち現在の松本高等學校であることや、當時まで等閑視され勝ちになつてゐた實業教育の振興に意を注ぎ、巨費を投じて模範的縣立工業學校を設置したことなど、教育上數々の功績が殘されてゐる。

千曲川の改修

今一つ縣治上大きな偉績は千曲川の改修である。この事業は遠き藩政時代から數百年間に亘り幾度か計畫されたが、いつも復雜な事情に遮られて立消えとなつてゐた。併しこの川の氾濫の爲に每年蒙むる損害は實に甚大なもので、長野縣民が持つ最も大きな惱みであつた。

赤星知事が縣民の休戚を思ふ烈々たる至情は遂に一大勇猛心を起し、敢然として之が斷行を決

意した。何しろ信州上田から越後の國境まで延長二十里に亘る河川改修で、總經費二千萬圓を要する全國に類例稀なる大事業である。國庫補助其の他種々の問題で本省との折衝、利害錯綜する縣民の統制、それは〳〵一方ならぬ苦心であつたらしいが、誠を遮ぎる何物もない譬への通り、本省でも知事の熱誠を汲み事業の必要に稽へ、遂に第二期河川工事の第一位として認可を與へ、一時逆睹すべからざる形勢であつた縣會も滿場一致を以て之を可決したので、十個年の繼續事業で着手し、さすがの大事業も先年漸く竣工し、兩岸數千町歩の不毛荒蕪の原野は、墾田沃土と化して豐穰の秋を迎へ、關係縣民は抃舞鼓腹して赤星知事の德を稱へてゐるとのことである。此の改修工事こそ實に我が國土木工事史・開墾事業史に特筆せらるべき大事業であるといふことである。

抃舞鼓腹

その當時赤星知事には地方長官として異數の榮轉說が再三起つたけれども、いつも縣民の留任運動に阻まれ、知事も亦民意を汲みて留まること七年の長きに亘つた。地方長官更迭の頻繁な世に、實に珍しいことである。

さてこの赤星氏は挂冠後直に鄉里熊本市に歸り、縣民指導の中心人物として仰がれてゐられた

のを、今回改造當初の會長に戴いた譯である。人格高潔にして識見高邁、敏腕にして經綸に富みなど言つたところで、それは月並な言葉に過ぎぬが、私は眞にさうだと思ふ。そして『教育第一』を信ずる人である。

知る人ぞ知る

一體えらい人の會長は、概ね名譽會長として敬遠され、實務を視ることの少いのが世の常である。然るに我が赤星會長に限つて決してさうでない。教育會の會議といへば未だ曾て一度も缺席されたことがなく、會の運營經理に就ては事の大小を問はず悉く之を總攬し、特に就任後間もなく降りかゝつた互助部の危機に遭逢しては、縣教育界の救濟主として心身を碎いて之が圓滿解決に努め、又教員俸給寄附問題・兩師範合併問題・教權の確立・教員の身分保障その他縣教育の發展に盡された或は盡されつゝある努力は知る人ぞ知るで、私は今玆に詳述することを遠慮するが多くの會員には、恐らくはこの會長の苦心はよく知れまいと思ふ。私は信ずる。この會長の苦心努力の結果は、後年必ずや我が教育界に顯現して、教育家は勿論縣民の齊しく感謝する日のあるであらうことを。

改造後の教育會は事務の激增を來たし手不足を感ずるに至つたので、昨年五月本會主催で開い

た九州沖繩八縣聯合教育會以來、改造前後の事務を手傳つてゐた藤本辰四郎君が、昭和六年七月十七日付で書記に任命された。同君は明治四十年の師範學校出身、永く飽託郡・熊本市の小學校に奉職してゐた人である。事務も良く捌けるが、理化學に關する趣味深く、且、手器用な人であるから、事務以外に頗る調法な人。特に寫眞術に至りては既に素人の域を脱してゐる。

基本金蓄積開始

基本金蓄積

熊本縣教育會基本金蓄積の大事業は臨時總會で議決した通り昭和五年十月一日から開始した。七千人近くの會員が、その俸給額により一人々々に異なつた金額を醵出するので、其の取扱はなか〳〵面倒であり、且、金錢のことであるから別して事務の正確を期せねばならぬ。そこで此の事務の擔當者としては詮衡の結果、本縣學務課勤務の合志屬に白羽の矢が立ち、九月三十日付で來任を見ることゝなつた。そして直ぐ準備に取り懸つた。

合志三平君は玉名郡伊倉町の出身、玉名郡小學校長・玉名郡役所學務主任書記などを經て、佐賀市役所・福岡縣廳などを務め上げて本縣屬となつた人である。だから、世の中の酸いも甘いもかみ分け、萬事にかけて如才なく事務も亦よく捌ける。基本金蓄積に關する規程・內規などの制定、臺帳其の他帳簿の作製など、創業の諸準備に目まぐるしい多忙の二旬は矢の如く過ぎて、早や俸給日の二十一日を迎へた。早速翌日から醵金が殺到するといふ好況である。

出發點好調

朝比奈學務課長を始め本會役員・地方委員（校長の職にある會員）の努力と會員の奮起とで、基本金蓄積の出發點は頗る好調であつた。蓄積を開始してから半年後の昭和六年五月八日、宮崎市で九州沖縄八縣聯合教育會主事會が開かれたので私も出席した。その時沖縄縣教育會から提出した議題に『各縣教育會ノ基本金額及ビ其ノ蓄積方法ニツキ承リタシ』といふのがあつた。何れの縣教育會でも最も頭を惱ましてゐるのは財源である。仕事はしたいが財源がない。その財源として基本金を欲しいといふのが、共通の希望であるが、それがなか〳〵容易に出來るものではない。私は本會の蓄積計畫と現狀とを話した。すると皆その計畫の結構であることを賞讃した。併し口にこそ出さぬが『計畫はよいが、果してうまく行くか知ら?』と危ぶむ氣配は充分に認められた。

見よ、此の團結力と實行力とを

昭和四年の暮頃から經濟界の變動により全國に亘る町村財政不振の餘波は、直に小學校教員の俸給寄附問題を惹起したことは、別項に述ぶる通りである。かゝる逆境に置かれても基本金蓄積の成績は少しも低下しなかつた。その後間もなく減俸令に逢つても、びくともしなかつた。一旦決議した豫定額の蓄積に向つて驀進するのみである。磐根錯節に遇はずんば何を以てか利器を別

たん。見上げたるかな、我が親愛なる會員諸君。

拾七萬六千圓

蓄積開始後直に醵金を始めた會員は、昭和八年九月を以て滿三年を迎へて義務完了となつた。其の時の成績は豫定を超過すること正に六千圓の多きを示し上々の成績である。私は高らかに叫んで天下の人士に告げたい。『見よ、我等教育家の團結力と實行力とを。』と。

昭和十年九月三十日。この日はこれまで滿五ヶ年間粒々辛苦蓄積した基本金据置期間滿了の日である。其の日までの蓄積總額は拾六萬七千六百六圓六十一錢で、豫定額を超過すること壹萬壹千參百七十壹圓六拾壹錢に達するの好成績を示し、之に蓄積開始前からあつた基本金や其の他の九千七拾貳圓五錢を合すれば、實に拾七萬六千六百七拾八圓六拾六錢となる。而してこれより生ずる利子は、先づ御親閲記念事業費に充つること〳〵なつた。今後意義深い有益な多くの事業が企畫される其の費用は、皆この基本金の利子を以て支辨することになるであらう。

私は寡聞にして未だ他府縣教育會に斯くの如き基本金蓄積法のあるを聞かない。而も利子は消費しても元高は本會の有らん限り未來永劫に亘つて年々に增加する仕組である。將來の會員は先輩が拂つた尊い犧牲によつて限りなき恩惠を受けるであらう。唯愼しむべきは家貧うして孝子現

はれ財寶餘つて禍生ず。暖衣飽食は安逸に陷り易い。後進のものは互によく之を戒め、この財的基礎の上に立つて一意教育の聖職に精進すべきであらう。

天時不如地利　地利不如人和

互助部の更生

互助部の前身

熊本縣教育會互助部の前身たる熊本縣教員互助會は、大正四年三月以來宇土郡網田小學校長古泉貞治氏の熱心なる主唱により、大正九年四月一日に創設して玆に十年の歳月を閲し、昭和五年十月二十六日には創立十周年祝賀式を擧げ、且、其の日熊本縣教育會に合併の決議をなしたものである。

特醵金

そして創設當初は會費を月額五十錢とし、別に會員の希望により本會成立當時（大正八年十一月二十九日）の俸給月額百分の二に在職年數を乘じたる額を特醵額とし、大正九年四月以降滿二箇年以内に納付する者は、互助會創立前の在職年數の二分の一を在會年數として加算するといふ全國中他に類例なき特制を設け、會長には陸軍中將鑄方德藏氏（熊本師範學校出身）を煩はし、經營僅かに一個年で會費月額を壹圓に增加して互助金も二倍とし、更にその翌年四月より會費とを倍加して貳圓なし、之に對する互助金を當初の四倍となして經營を續け、昭和六年度末までに

弔慰金・慰籍金・還付金を寄贈又は交付したる人員は五千四百二十八人で、其の金額は百拾四萬六千九拾壹圓二十錢に及んでゐる。

前に述べたとほり、熊本縣教育會と熊本縣教員互助會とを合併することは、兩會のそれ〴〵の機關で議決したので、教育會は翌六年三月十五日臨時總會を開いて、從來互助會の定款にあつた關係條項を其のまゝ定款に組み入れ、同年五月八日文部大臣の認可を經たので、兩會は共に合併に關する事務を進めた。

教育會では合併後の互助部事務に當るべく法政雄・一木重馬の兩氏に幹事を囑託し、津田平藏氏を書記に任命した。法氏は明治二十八年の師範學校出身で、暫く下益城・飽託兩郡の小學校に奉職、拔擢せられて師範學校訓導たること數年、偶々熊本市の教育熱勃興に際し新設の山崎尋常小學校の校長に迎へられ、それより白川小學校長を經て碩臺小學校長となり、一校を經營する外常に市教育は勿論縣下初等教育界の進展に努力し、斯界の指導者と仰がれ聲望頗る高く、又推されて熊本縣教育會及び熊本縣教員互助會の副會長の要職にありて會員の團結・事業の振興に努めてゐたが、先頃功成り名遂げて教育界の第一線を勇退された人である。

法・一木兩氏

一木氏は法氏より二年遲れて京陵の學舍を出で、阿蘇郡小學校長として成績を收め、郡視學に榮進し、再び阿蘇郡內牧小學校長に轉じ、更に縣內第一の大きな學校である葦北郡水俣小學校長となり、職員の統督に兒童の教育に、將た又社會教育に大なる功績を收め、一面熊本縣教員互助會副會長に推されてゐたが、後進に途を開くために過般職を退かれた人である。

法・一木の兩氏が今回幹事に囑託されたのは、兩氏が共に從來互助會副會長として互助事業に精通してゐるので、此の際教育會で始めて互助事業を開始するには、是非とも經驗と識見とを併せ有し、且、信望ある人を要したからである。津田氏も同じく明治四十三年の京陵出身、上益城郡の小學校長を經て菊池西部實業學校に奉職してゐたが、家事の都合で退職して閑地にあつたのを起用されたのである。默々として事務に專念する人である。これ等の人々によつて互助部の陣容は整ひ引繼の日を待つてゐた。

監査會

互助會の方では教育會に引繼ぐべき事務が整理されたので七月十日監査會が開かれた。教育會では遠からず引繼を受くべき事務であるから、成るべくよく其の內容を知つて置きたいと、赤星會長・佐野監査及び私が傍聽のために列席した。書類により河田互助會專任幹事から一通りの說

明が終ると、赤星會長は佐野監査と共に別室に退いて私を呼ばれた。

暗影

赤星會長の話によれば、『互助會の内容は從來聞き及んでゐたのと甚しく違つてゐる。現在の狀態では到底之を經營して行く見込はつかぬ。』とのこと、佐野監査も亦全然同感である。會長の胸中を忖度すれば『この儘で引繼ぎを受けたくない。』といふことであるらしい。そこで本問題に直接關係ある谷學務部長・朝比奈學務課長の至急來會を求め、會長から互助會の前途憂慮に堪へざる趣の話があつた。谷・朝比奈の兩氏も初めてこの事を知り鳩首凝議、花々しく幕をあけた教育會改造の一隅から、豫期せざる大きな暗影が掩ひかぶせられた。

しかしながら、兩會合併のことは既に天下に公表せられ、今や縣教育會は社會注視の的となつてゐる矢先、もしこの事が知れ渡つて會員に不安の念を起さしむるやうな事があつては、これまでの苦心は水の泡と消え失せて仕舞ふのである。會長の苦心は實に玆にある。

會長の決意

赤星會長は數日熟慮の結果であらう。敢然として引繼を受け合併の實を擧ぐることに決心せられた。其の決意の存するところ、恐らくは次ぎの通りであらうと想像する。

互助會は全く危機に直面してゐる。昨年十月創立十周年記念式の時は基金拾參萬圓と聞いたが、精査

して見れば、それは基金ではなくて運用資金であつた。今の如く多數の退職者に今の如き高率の利子を附した還附金の交付を繼續すれば、幾何もなく資金の缺乏を來たし、遂に破綻の止むなきに至るは極めて明かである。若しさうなつたとすれば、それは實に恐るべきものを招來する。縣下教員の團結は忽にして破壞され、折角組織を改めて躍進しようとしてゐる教育會にもひゞが入るばかりか、今後如何なる事業をなさうとしても、會員が羹に懲りて膾を吹いてゐては何一つ出來るものではない。會員七千の團結心は支離滅裂して歸一する處を失ひ、教育の振興どころか容易ならざる事態を惹起せぬとも限らぬ。誰か起つてこの難局を打開する者がなければ、縣教育の將來を奈何せん。よし、身を挺して此の危機を救はう。

合併式

杞憂にあらず

赤星會長の肚はしつかりきまつた。七月十五日資産及び事務假引繼の爲、本會監査會が開かれ七月十七日には教育會及び互助會は各別に評議員會を開き、教育會は互助部新設に必要なる豫算を議決し、互助會は教育會に引繼ぐべき資産其の他につき報告と協議をなし、午後兩會合併式が行はれた。そして同月二十七日いよ〳〵事務の假引繼が行はれ、法幹事は互助事業を、一木幹事は被服事業を擔當することゝなつた。然るに其の後の情況は、どうぞ杞憂に終ればよいがと念願してゐた甲斐もなく、不幸にして豫想は適中し、時日を經過するに從ひ益々互助費支出の增加を

來たすばかりで、豫算編制後僅かに二個月で支出不能に陷つた。そこで九月二十五日評議員會を開いて豫算更正を決議するの止むなき狀態に立至つた。

調査委員

會長は問題勃發の當初から、現行定款では到底經營の不可能なるを充分に察知し、其の善後策に必要なる研究資料の蒐集調査を命ぜられた。材料が略ぼ揃つたから、會長は調査委員を囑託して研究調査をなさしむる積りであつたが、目前に陸軍特別大演習を控へ奉迎準備のため各方面共に多忙を極めてゐるので、一時委員の囑託を見合せてあつた。ところが大演習も滯りなく濟んだので、十一月二十八日、朝比奈策太郎・佐野直喜・中津熊太郎・坂田貢・濱田松次郎・澤村武雄堀一雄・津幡隆の八氏に定款改正調査委員を囑託し十二月九日に委員會が開催せられた。其の頃の互助部の經營は日に日に急迫を告げつゝあつたので、會長は事の重大性に鑑み十二月二十日本會役員總會を開いて之に研究調査を委託せられた。

特別委員

役員全部が調査委員となつて色々の意見を出し合せた揚句、それ等の意見を參酌して研究を進むるには、小委員設置の必要があるといふことになり、坂田貢・濱田松次郎・澤村武雄・內尾眞

澄・堀一雄・津幡隆・西田匠の七氏を小委員とし、法・一木の兩幹事と私とは參與としてそれに加はることゝなり、十二月二十三日最初の會合を開いて研究の結果、更に澤村武雄・津幡隆・西田匠の三氏を特別委員として立案を煩はすことゝなつた。

師走も押詰つた十二月二十九日第一回特別委員會が開かれた。三人の委員はそれ〴〵研究の分擔を定め方策を練り、過去十年間の實績を最も有力なる參考資料とし、それに將來部員增減の豫測等につき調査を進め、來年早々各自で研究した案を持ち寄ることにし、昭和六年は不安のまゝに暮れた。

籠城

明けて一月九日、三委員は第三學期の始業式を濟まして直に會合、持ち寄りの案について研究に取りかゝつた。數日間は明麗館を會場にしてゐたが、こゝでは面會人があつたりなどして到底仕事が捗らぬので、特別委員・參與は一月二十八日から三十一日まで、市內櫻井町司旅館の一室に閉ぢ籠り、早朝から夜遲く迄寸暇を惜んで、それこそ一心不亂で研究調査に當つた。生憎私は風邪に侵されて引入つてゐた爲に、この司旅館籠城に參加することが出來なかつたのを相濟まぬことであつたと思ふてゐる。

特別委員・參與が不眠不休連日の努力の結晶として、甲乙丙丁の四案、その各案に又二三種づつの案が添うてゐるから、合計十數種の精細なものが出來上つた。それで二月十九日小委員會を開いて特別委員から各案につき報告があつたが、更に研究を要するので二月十二日から二十三日まで五回の特別委員會を開き、二月二十四・五の兩日を費して調査委員總會（役員總會と同じ）が開かれることになつた。私は講師の都合で延期されてゐた地理科巡回講習會を、一月から二月にかけて各郡市に開くことになつたので、委員會の間々には講師北垣恭次郎氏の案内などで大分忙しい思ひをした。

改正の要點

特別委員會が立案した互助部立直しの爲の定款改正の要點は

一　熊本縣教員互助會創立ノ精神ヲ存續シタルコト

二　健全ナル經營法ヲ講ズルト共ニ解散資金ヲ漸次累積スル精神ニ據リタルコト

三　從テ弔慰金・還付金ノ率ヲ低下シタルコト

などで、小委員會・調査委員總會も異議なく之を可決して會長に報告した。會長も之を採納して二月二十五日午後常委員會・評議員會に諮問し、滿場一致の可決を得、それを臨時總會に提案す

出張して諒解を求む

ることゝなつた。そして臨時總會は三月十日とすること、それまでに豫め全會員の充分なる諒解を求め置くこと、その爲には特別委員が各支會に出張して校長によく説明し、校長は各部員に説明納得せしめ置くことなどの相談が纏まつた。そこで直に互助部創立計畫根本概念・定款改正の議案及びこの議案の基礎となるべき十七枚の調査表（何れも大型の紙に細く數字を列記した綿密なもので、印刷費六百七十八圓三十錢を要した。）を印刷し、全會員に一揃づゝの數を各學校に配送した。三月二日を皮切りに特別委員・幹事は手分けして各支會に出張、擔當視學の臨席を請うて議案に就て説明したが、だいぶん皮肉な質問もあつたらしい。私は支會に出張する時間の餘裕がなかつた。

不安の情報

その内に總會に出席し難い部員の委任狀が續々到着する。開會前日までに到着した委任狀の數は四千六百三十七通、これは皆原案贊成の意志表示である。

然るに情報の齎すところによれば、『下益城・玉名兩郡の部員中には原案不贊成の聲あり、特に下益城郡の松本壽君は自ら研究した案を縣下多數の會員に配付して、原案に不贊成を表すべく慫慂し、上益城及び宇土郡の會員は既にこの松本案に贊成してゐる。』などの風聞さへ頻りに聞え

てゐた。それかあらぬか、下益城郡から出た委任狀は僅かに四枚に過ぎぬ。

臨時總會

熊本縣教育界の大問題である互助部立直しの定款改正の議案が附議せらるゝ三月十三日、午前十時からの開會であるのに、早くも八時頃からそろ〳〵會員の顏が見え出した。そのところに一通の電報が配達された。其の文意は

我が校在職の會員は皆松本壽君に委任する。

といふのである。これは無論本會提出の議案に不贊成で、松本案に贊成だからであらう。發信人は上益城郡では名の知れた校長である。其の人が今日になつてこの電報を發するからには、上益城郡全部の空氣は略ぼ察知される。

開會前の空氣

開會時刻は迫つて來た。出席者も百四五十名だらうと思はれた頃二階の議場に行つて見ると、喧々囂々、その中に天草郡から出席した林田義勝君が起立して、大きな聲を張り上げて何か頻りに辯ずれば、話の間々には勢のよい拍手を送るなど、開會前既に容易ならざる形勢を示し、教育會の會合では未だ曾つて見たことのない空氣が漂うてゐる。互助部の事務室では法幹事と松本壽

君とが何か頻りに話合つてゐる。

午前十時半開會、赤星會長議長席につき、左右に今日の說明役たる特別委員の三君その他役員が着席すれば、議長は徐ろに開會を告げ、續いて本日この臨時總會を開かねばならぬことになつた互助部の現狀と、これが救濟策を講ずる爲に深甚なる研究を重ね、漸くにして更生の途を見出した苦心の一伍一什を、諄々として嚙んで含める樣に話された。議事係から議案の朗讀や說明をした。（部員は充分承知してゐる筈ではあるが）

質問の矢

すると先づ第一に質問の矢を放つたのが浦本畔造君で、それから松本壽・林田義勝・高宗强・村上市八・荒木松衞などの諸君が、次ぎ〳〵に質問やら意見やらを出して議場は刻々に緊張の度を增す。その意見の重もなるものを擧ぐれば、

○　原案よりも自分の案がよいから、それを議題にして貰ひたい。

○　解散して現在金は國防費にでも献納したい。

○　もつとよい案はないか。

○　どうにかならぬものか。

○　條件附で議決したい。

○　議決を延期したい。

などで發言者の大部分は原案不贊成である。甚しいのになると法を無視すると思はれる說さへあつた。この意見なり質問なりに對し、會長や特別委員又は幹事から懇切詳細に答辯するが、ちよつと纏りさうに見えぬ。

弱點はないか

その內で最も私の注意を惹いたのは、桑田淸君が質問の爲に起立したことである。桑田君は天草中學校數學擔當の教諭で算數に關する造詣深く、特に生命保險などのことに就ては極めて精通してゐることは私はよく知つてゐる。その桑田君が質問するからには、必ずや原案の弱點を握つてゐるに違ひあるまいと思ふた。桑田君は簡易保險のことや、其の他一二の質問をしたので、恐らくは後刻肯綮に中る意見が出るだらう。あれだけ研究してあるのに、どの條項に弱點を見出したのかと思ふてゐる內に、桑田君の姿は議場から消え去つた。

空腹も何のその

時刻は遠慮なく進んで、正午となり一時となつても意見續出、容易に納まりさうに見えぬ。だが大部分の會員は空腹もものかはの勢である。赤星會長は少しもあせらず、言はせるだけ言はせ

諄々として誨へて倦まざる態度である。發言する會員は僅かに數名で、同じことが何度も何度も繰返へされるばかり。傍で聞いてゐるさへくどいと思ふのに、如何に會の爲とはいへ、會長はなか〳〵辛抱强い。若し『では俺は知らぬ。よい樣にしろ。』と言はれたらどうする積りかと、はら〳〵思ふばかりである。併し會長は燕雀安んぞ鴻鵠の志を知らんやといふ面持ちで、動ぜざること山の如く、頃合を見計らつて

動ぜざること山の如し

この改正案が議決されたからといつて、いつまでも不變固定とすべきものではない。研究の結果更に良案を見出したならば、又改正するには決して吝ではない。けれども差迫つた今日である。而も半歲の日子を費し、心血を注いで研究した結果、現在のところ此の案に據るより外に途はない。今日の難關を乘切る策としては此の案が唯一無二であると信ずる。猶本案が議決せられ本省の認可を得た後は、直に常設調査機關を設けて善處する積である。

と說示された。

空氣緩和す

今まで强硬に反對意見を述べた諸君も會長の熱誠に感應したのか、或は改正案の趣旨がよく諒解されたのか、議場の一隅から稍々緩和された空氣が流れて來た。卜部義高君の條件つきの贊成

などがあり、堀一雄・今村武彦・赤城安熊などの諸君が相次いで賛成意見を發表し、今まで反對意見を述べ續けた人達の中からも『赤星會長の人格に信頼して賛成する。』といふ聲も聞え、暫く揉み合つて最後には滿場一致可決といふ目出度い幕がおろされた。時に午後四時半。

尊い議決

しかゝ議案を讀みもしないので滿場一致の原案可決はあつけない事もあるが、堂々六時間に亘り、晝食ぬきで一分間の休憩もなく、眞劍に討議の結果の原案可決は實に尊い議決である。

さすがさすが

これは閉會後他の役員から聞いた話であるが、先刻から私が不思議に思うてゐた桑田君は、午前十一時ごろ或る人に向ひ、

今日は外の要事で熊本に出たが、途中で互助部の定款改正の總會があるといふことを聞き、先日會から通知のあつたことを思ひ出して出席した。ところで現行定款と改正定款とを比べて其の得失は直ぐ分つた。併し念のため一二の質問をして見たが、特別委員はよく其の點を精査把握してゐることがうなづかれた。して見れば現行定款を議案の如く改正するのは當然なことで一言の文句はない。それで自分は要事はあるし席を立つたのだ。

と語つて、さつさと歸つたさうである。さすがは違つたものだと感じた。

認可申請の大役

無事閉會でほつとしてゐるところに、定款變更認可申請のために上京の大役を命ぜられた私は直に文部省普通學務局庶務課首席屬須田機策氏と次席屬の岡田計介氏とに『近く上京するから宜しく頼む。』といふ意味の電信を發し、同時に議案五部を郵送して、認可申請書類の立案に取りかゝつた。南美代治君が速記した六時間に亘る議事錄の復文整理は容易でない。同君が夜に日をついで十六日中にやつと出來上らしたのが、五百三十二字詰の原稿用紙百十五枚の多きに達してゐる。知事の副申を貰つて十七日午後の急行で上京の途についた。出發の前夜は澤村武雄君を煩して、文部省に說明する要領などに就き深更まで相談した。

出發の際更に文部省出頭の日時を須田屬に電信し、車中は側目もふらず一心に改正案說明の順序要領を整理した。いつもなら食ふか眠るか讀むかの外に仕事のない車中も、今度は幅廣い表を何遍も擴げては讀む。讀んではたゝみ、同乘者も定めて怪訝に思うたであらう。

文部省に出頭

十九日文部省普通學務局庶務課に出頭して須田屬・岡田屬・加藤課長（先年天草支廳長たりし加藤精三氏）に來意を告げ、便宜を與へらるゝよう懇談した。それといふのも法人の認可申請、特に社員に直接利害關係ある定款變更などは、一個月以上の日子を費さねば認可はないのが普通

である。文部省の調査は實に精細丁重である。たゞの時でさへさうなのに、今は年度末まで僅かに十餘日しかないといふ、各官廳いづれも大多忙の時である。然るにこちらは、どうしても三十日までの日付で認可を得、其の認可指令を會長代理の委任を受けてゐる私が受取らねばならぬ。でなければ面倒な事になつて態々上京した甲斐がない。

說明

三氏に挨拶が濟むと須田氏の紹介で丁子・神麻・倉田の三氏と別室で逢ひ、先づ互助會創立の沿革から、過去十年間に於ける經營狀況につき一通り說明して後、縣教育會改造の精神・兩會の合併・合併後の狀況・定款變更を必要とする理由・變更案作製の根據となる研究調査資料及び研究の過程・臨時總會議事錄等につき說明した。其の日は土曜日であつたけれども大勉强で午後一時半まで打通しに說明を聽いて貰つた。明日と明後日とは休日であるから、二十二日再會を約して宿に歸つた。

質疑應答

二十二日から主査の倉田更衣氏との間に質問應答が始まつた。さすがは主任だけに微に入り細を穿つの質問にぶつゝかり、これなら縱橫いづれの方面から尋ねられても大丈夫と思うてゐた私も、たぢ〳〵の場面が少くない。その部分に就ては宿に歸つて、ゆつくり考へて翌日補足する。

誤報

曲りなりにも大體の說明が濟むと、倉田氏は他府縣教員互助會の定款を私に示して『熊本のは還付金が高利すぎてゐる。これでは改正すべきは當然であらう。ではあるが、さて今回の改正案が果して當を得てゐるか否かゞ、之からの研究だ。』といつて、更に『調査上時々質問することもあるから、今後暫く毎日出頭して貰ひたい。』とのことであつた。

それで朝は九時から午後の四時まで、毎日應接室に控へてゐると、時々倉田さんが來て不審の廉を質す。全く用事のない日もあつたが、かといつて何時用事が起らぬとも限らぬ。讀書はしても不安の心持で讀む本は頭に入らぬ。退屈な數日を暮すうちに既に二十五日となつた。今日も又應接室で新聞を讀んで居ると、中島熊本縣師範學校長の免官の記事がある。はてなと驚いて尋ねて見たら、本家本元の文部省のことであるから、誤記だといふことが分つた。即ち太田女子師範學校長の免官で、其の後任は澄田福松氏といふことである。宿に歸つたら中島君のことを心配された赤星會長の電報が着いてゐた。熊本の新聞もさうであつたかと返電を出して夕飯を濟ましてゐるところに、小佐井豐喜君が之も中島君のことが氣懸りでやつて來た。同君は遲くまで天理教の話をして歸つた。

小佐井君は舊姓內藤。京陵の同級生で在學中から極く懇意な交際を續けてゐる。同君は初め小學校に奉職してゐたが、志を立てゝ熊本高等工業學校の夜學で土木科を修め、卒業後は教職を辭して熊本市技手となり、熊本市上水道敷設の基礎測量に從事した人である。養父に事へて至孝、市長から表彰を受けたこともある。其の後全家を擧げて北海道に移住し、野付牛で開墾農業に勵むこと數年、それから北海道廳技手となり、東京に歸つて會社に勤務してゐたが、今は天理教を信奉し、本鄉教會で布教に從事してゐる。

氣が氣でない

話は横道に這入つたが、改正定款の調査は容易に濟まぬ。加藤課長や須田屬に毎日お願ひする倉田氏も事情を聞いて特別の勉强ぶりである。日時は迫つたが生憎二十七日は日曜でどうにもならぬ。二十八日晝頃、やつと調査が濟んで認可の立案をするといふ情報を得て、ほつと胸なでおろしたものゝ、餘す所は僅かに二日である。其の內に上局にどんな支障が起らぬとも限らぬ。二十九日漸く庶務課長や文書課長の回議は濟んで次官の決裁を受くるばかりになつて其の日は暮れた。今日は愈々認可決裁のある日だ。萬一今日をはづしたら大變なことになる。氣は氣でない早朝から文部省に出頭して樣子を窺へば次官は大臣官邸で會議中とのことである。それを待つ間

認可指令

の待ちながさ。書物を手にしても讀む氣になれぬ。食堂に行き晝食をとつて應接室に歸ると倉田さんが『今決裁が濟んだ。すぐ指令を手交する。』との話に、いよ〳〵安心して大役を無事に濟ました喜びがこみ上げて來た。

久しぶりに

三十日午後二時定款一部變更の認可指令を受取つた。その頃の文部省から九段郵便局までは、急げば十五分間もかゝらぬ程の短距離に過ぎぬが、今日は歩いてはもどかしい。門前でタクシーを拾つて駈け付け、會長・兩副會長・法幹事・澤村・津幡・西田の三委員に認可のあつた旨を電信した。間もなく會長と法幹事とから懇電を頂戴した。上京後十數日、久しぶりに晴々とした氣持で夕食の膳についた。

翌日は改めて加藤課長以下課員諸君にお禮を述べて午後の特急から歸任の途につき、四月一日午後一時すぎ明麗館に歸り着いた。幸ひ赤星會長もお見えになつてゐたから經過の概要を報告した。

前にも述べた樣に、今度は庶務課長が曾て天草支廳長の時代によく見知つてゐた加藤精三氏、首席屬の須田機策氏は大正十四年以來の舊知、次席屬の岡田計介氏は福岡縣出身で前から知合つ

てゐたので餘程心強く、其の上に種々の便宜を與へられたことを衷心から感謝した。人は何時何處で、どんな人にお世話になるか分らぬ。過去に暗い影を持たず、世の中は廣く渡るべきものだと感じた。

世の中は廣く渡れ

定款變更後の互助部は特別委員が研究計畫した通りに進み、一時危ぶまれた新入部員の減少もほんの杞憂に過ぎないで豫定を遙に超ゆるの好況、諸般の事項は定款改正案の根幹をなす基礎案に立脚して確實な經營を續けてゐるので悉く順調に進んで日に日に基礎の堅きを加へつゝある。臨時總會の議場で會長が言明された通り、其の後直に常設調査機關を設け、少くとも年一回以上業務の狀態について反省研究を續けてゐるから、今後は決して又とあんなことは有るまい。否、斷じてあつてはならぬ。あらせもしまい。

何故に

然らば何故に互助部の經營が斯樣に行詰つたかといふ疑問は誰も懷くことであらうが、それには先づ第一に過去十年間に於ける役員の間に、毛頭不正の點のなかつたことを明かにして置かねばならぬ。創立の初めより定款の示す所に從ひ、毎年二回づゝ毎回二日乃至三日間に亘り、評議

員會で互選した五名の監査によりて精密な監査が行はれ、毎年の評議員會にも其の結果を報告して異議なく承認され、其の都度會長初め役員一同が定款に違背することなく忠實に業務を執行し來つたことが確認されてゐる。役員一同は極めて熱心に、努めて冗費を省き節約を旨とし、互助會本來の目的達成を念願しつゝ經營を續けて來たのである。それになぜあんな狀態になつたのか述べられぬこともないが記述が面倒になる。又、今更述べたところで詮なきわざ。玆には唯その頃二三年間の實狀を表記して、定款改正の一日も忽にすべからざる危機に瀕してゐた情況を窺ふことにしよう。

危機の表

年度	收入 互助會員數	收入 會費年額	支出 互助金交付人員	支出 互助金交付額	支出 一人平均	收支比較
昭和四年度	五、五九八	一三四、三五三円	六五〇	一三六、七五一・七六円	二一〇・三六円	不足 二、三七九・七六円
同　五年度	五、六四六	一三五、五〇四	五五一	一三八、八一一・二四	二五一・九三	不足 三、三〇七・二四
同　六年度	五、五一二	一三三、二八八	六五八	一九四、七三二・九八	二九五・九五	不足 六二、四四四・九八

1　部員數ハ毎年九月末日現在ヲ示ス、一年中ニハ多少ノ增減アルベキモ之ヲ一個年ノ平均數ト見テ大差ナシ

2　收入ニ於テハ別ニ蓄積金ヨリ生ズル利子アルモ事務所費・會議費・支部交付金等ノ支出ヲ要シ此ノ利子ノミニテハ不足ス

3　互助金交付ノ一人當リ平均額ガ年々激增スルハ最モ注意ヲ要スル事項ナリ

4　昭和六年度ハ九月十八日現在ニ於テ既ニ互助金拾六萬三千三十八圓十四錢ヲ支出シ一個年會費見積額（五、五一二人分）拾參萬二千二百八十八圓ヲ超過スルコト三萬七百餘圓ノ多キニ達セリ半年度分ニシテ既ニ然リ定款改正ガ焦眉ノ急務ナルハ自ラ首肯セラルベシ

創立以來昭和四年迄には會費を以て弔慰金・慰籍金及び事務費を支拂うて猶年々四千圓乃至三萬二千圓の殘金を生じ、累計拾參萬三千五百餘圓の剩餘金を有してゐたが、五年から六年にかけて前記の如き收入以上に多額の支拂を要し、この儘に押移つては有金殘らず支出しても、猶足りないといふことが明かに見えて來た。その頃の會長や役員一同の心配は口や筆では述べ盡されぬ一日も早く定款を改正して立直さねば、昨年互助會と合併したばかりに、教育會までも諸倒れの厄に逢はねばならぬ羽目に立至るのである。それが會長初め役員・委員諸氏の努力と部員一同の

相濟まぬ思ひ

理解とによつて圓滿に解決したのは誠に芽出度いことであつた。

私は玆で是非とも一言して置きたいことがある。昭和四年八月二十三日熊本縣教員互助會評議員會が開かれた。それは會長以下役員全部が任期滿了になつたので、改選のための評議員會である。先例により熊本市選出評議員法政雄氏が議長となり先づ會長の選擧が行はれた。開票の結果は滿場一致を以て熊本縣立熊本中學校長福田源藏氏が當選した。すると評議員中から『本日開會中に福田氏の出席を請うて、就任の挨拶をして貰へたら、我々一同も安心するから、左樣に取計はれたい。』といふ希望が出た。私は當時視學として學務課に勤務してゐたが、互助會の幹事としてその會に出席してゐた。それで法議長・河田專任幹事は私に『今から熊本中學校に行つて、福田校長に評議員會の模樣を話して就任の內諾を得、都合が宜しければ同行して來て呉れ。』といふことであつたから、私は自動車を飛ばして熊中に赴き委細を相談した。福田君も始めの程は固辭されたが、遂に承諾することにして、共に會場に赴き就任の挨拶があつた。評議員一同は大いに之を歡迎した。

それから一年餘を經て教育會と合併することに就もて色々と心配をかけ、加ふるに合併後思ひ

掛けない互助部の經營難に遭遇したので、前會長として一方ならぬ心配をかけた。私は先年熊中で相談する時に『決して心配をかける樣なことはないと思ふから。』と無理に就任を勸めた手前、互助部問題發生以來實に相濟まぬと思うた。その頃同君に逢ふことは誠につらかつた。いよいよ定款變更の認可もあり、難局打開の道もついたので、歸京の翌々日私は熊中に福田君を訪うて陳謝の挨拶を述べた。

雨降つて地固まる

以上の如く危殆に瀕した互助事業は、雨降つて地固まるたとへの通り更新の實が擧り、特別委員の研究になる基礎案はいよ〳〵確實性を認められ、この分ならば大丈夫といふ見込がついたので、これを機會として法・一木兩幹事は本會を退かれた。兩氏が互助部の危機に遭遇して、晝夜兼行の努力と其の功績とは實に大いなるものがある。

佐藤君

兩氏の後任を得ることは容易なことではない。本會の慣例によつて數次詮衡會を開いた結果は葦北郡水俣小學校長兼水俣實科高等女學校長として重きをなす佐藤新吾君を煩はしたいといふことになつた。佐藤君は鹿本郡平小城村の產、明治三十八年の師範卒業生で郡內小學校に奉職し、

特に補習教育に於ては稀なる成績を擧げ、當局に認められて同郡社會教育主事となり、更に葦北郡視學に進み、大正十五年六月郡役所廢止の際も選ばれて視學として縣廳に入り、後に天草支廳勤務となり苓州教育の振興に全力を注いでゐたが、再び初等教育實際界に返り咲き、宇土小學校長として居ること數年、偶々井上水俣校長が視學となつて天草支廳に轉じたので、其の後を襲うたのである。君を招聘するために私は命ぜられて水俣に行つた。谷川旅館の一室で詳細事情を述べて本縣教育界の爲に奮起を懇請した。義氣に富む同君は快く承諾して呉れた。

思慮緻密、精勵恪勤。事をなすに當り苟も忽にせず、創業の才も人に勝れてゐるが、更に優れるは守成を全うすることであらう。克明に事務を處理して澁滯することなく、互助事業もめきめきと成績を擧げ、被服事業の如きも、開始の當時資本金として互助事業費より一萬六千圓を借入れ、爾來十數年間少しも返還することが出來なかつたのを、佐藤君は就任後未納被服代の整理に着手し、片山五藏君の後任として縣書記から轉じて來た大槻正年君と力を協せて大いに努めた結果顯然たる成績を見せ、既に一萬貳千圓を返却し、殘り四千圓も昭和十一年度內には返濟の見込み充分である。之が爲に一個年六百四十圓の利子を支拂ふ必要もなくなつて、益々部員に便宜と

實益を與へるであらう。

互助部の立直し、顧みれば實に危い機みではあつた。

鳴鶴陰に在り、其の子之に和す。

濱口内閣と緊縮政策

俸給寄附問題

昭和四年七月二日田中内閣瓦解して大命は民政黨總裁濱口雄幸氏に降下した。濱口總裁は拜命後僅かに八時間といふ前代未聞の敏速度で閣員を揃へ、即夜親任式を行はせられたことは、國民の齊しく驚異するところであつた。

濱口内閣は井上準之助氏を藏相とし組閣と同時に十大政策を掲げ、金解禁を聲明し緊縮政策を標榜した。そこで全國津々浦々の子供に至るまで『緊縮』を口にするやうになり、政府の政策として、これ程國民に徹底したことは少なかつたであらう。

減俸問題

この緊縮政策に起因したのかどうかは知らぬが、不景氣の風が捲き起り、米價低落して農村の頽廢衰微を來たし、我が國經濟界は急激なる變化を招き、財界不況の聲は到る所に叫ばれ、官吏減俸問題の擡頭に伴うて、小學校教員の減俸も問題化して來た。そこで帝都に於ける教育尊重の有志間には『教育第一』を目標とする教育擁護運動が起り、帝國教育會は官吏減俸案反對決議を

官吏減俸案否決

した。

併し政府は飽くまで官吏減俸を斷行すべき方針で、調査を進め案を練りつゝあるとの噂が新聞に出ると、官吏減俸反對の聲が嵐の如く起り、就中司法官側では絶對反對を表明し、其の勢ひ頗る猛烈なものであつた。それにも拘らず政府は着々減俸案の作製を急ぎ、昭和四年十月二十二日の閣議に提案するに至つた。減俸案の閣議。その成行に就ては官吏は勿論國民一般の視聽を集めたが、閣僚も國民の輿論に顧みてか遂に之を否決した。

教員俸給寄附問題の端緒

減俸案が否決されたから、當然小學校教員減俸問題も消え去つたかと思ふて安心してゐたら、それも束の間、今度は形を變へて小學校教員俸給寄附問題となつて、勢ひ鋭く攻め寄せて來た。

小學校教員寄附問題の端緒は之を長野縣に發したと聞いてゐる。長野縣は蠶業縣であるから、曾て大正六七年頃の生糸暴騰時代には全國一の好景氣を呈し、之に煽られて縣の産業は養蠶業に偏倚して農業は蠶業に單一化されたさうである。ところが今度は生糸の暴落に逢ひ、殆んど生産費さへ得られない狀態に陷つたから、前とは反對に不況の苦難も倍加して襲來した。そこで或る村の小學校教員は、村財政の窮乏を坐視するに忍びず、それこそ眞の同情心から、何等の强要指

寄附問題の具體化

嗾を受くることなしに、全く好意の寄附が行はれたと言ふことで、長野縣としては有りさうなことである。そのことが新聞に發表されると、一般社會から小學校教員の美擧として賞讃された。まことに美擧である。私も當時長野縣教育家の麗はしい行爲に感心した一人である。後日之れを惡用する例にならうなどゝは、ゆめ豫想することなしに。

これが導火線となつて、小學校教員俸給寄附問題はだん〳〵に波及し具體化して、全國町村長會の議題となり、各府縣町村長會の議題となり、容易ならぬ形勢が窺はれる樣になつた。そこで昭和五年四月二十四日、全國聯合教育會は東京市に代議員會を開いて對策を協議し、更に都下二十團體と聯合して教育擁護大會を開き、次ぎの決議をなして天下有識の士に訴ふると共に、政府當局・貴衆兩院・各政黨に對し實行運動に着手した。

決　議

小學校教員をして安んじて其の職に盡さしめ、以て國民教育の振興を圖り國礎を安固に確保し、同時に市町村の財政を救濟せんがため、小學校教員俸給の全部を速に國庫の負擔とすべきものと認むる。

全國の一般狀況は前述の通りであるが、さて本縣の情勢は如何。町村長會は縣下一律に一割寄附の要望を議決したとか、或る町村では既に一割寄附の承諾を得たとかの噂とり〴〵で、遂に縣會の問題となつた。

縣の聲明

頻々として耳に入る情報は、孰れも教育に非なるものばかりである。郡教育支會長と郡町村長會長との折衝も、町村長と校長との相談もなか〳〵纏まらぬ。町村長側では議決を楯に一割强要を主張して一歩も引かぬといふ噂が頻りに傳はり、暗い影が刻々に掩ひかぶさつて來る。そのうちに縣は町村長代表者に向つて、次ぎの聲明書を發表した。

目今問題トナツテ居ル町村長會ノ決議ヲ以テ各町村ガ總テ一律ニ教員俸給ヲ一割減額シテ豫算ヲ編成スルガ如キハ穩當ヲ缺キ國民教育ノ將來ニ禍根ヲ殘シ又行政官廳トシテ町村ヲシテ豫算ノ增額計上ヲ餘儀ナクセシムルニ至ルガ如キ事態ヲ招來セザルヤト深ク憂慮シテ居ル次第デアル

縣トシテハ町村ノ窮狀ヲ默視スルコトガ出來ナイカラ六年度教育費豫算ハ緊縮方針ニ則リ教員給・雜給・備品費・消耗品費・修學旅行費並ニ其ノ他ノ諸費ニツキ合理的節約ヲ行ヒ以テ教育能率ノ低下セザル範圍ニ於テ徹底的ニ町村民負擔ノ輕減ヲ圖ルヤウ夫々指導ヲ加ヘテ來タ次第デアルカラ此ノ點町村長各位ニ於テモ篤ト諒承セラレ前述ノ擧ニ出デラレザル樣衷心ヨリ熟望スルモノデアル

次ニ小學校教員俸給ノ寄附問題ニ就テハ昨冬縣會ニ於テ明言シタ通リデアツテ小學校教員ガ町村ノ窮狀ニ同情シ任意應分ノ寄附ヲ申出ツルコトハ洵ニ美德デアツテ斯カル向ニ對シテハ決シテ之ヲ阻止スベキモノデナイコトハ勿論デアル然シ乍ラ團體ノ決議等ニ基キ一律ニ寄附ヲ要請スルガ如キハ贊同シ難キ次第デアル

以上ノ趣旨ニ則リ町村當事者ト教育者トハ互ニ胸襟ヲ開キテ談合シ和氣藹々裡ニ此ノ難局ニ善處セラレムコトヲ望ムモノデアル

縣教育會長の通牒

時は二月、來年度豫算編成期である。縣の聲明書通りに行けば問題はないが、事實はそれに副はぬらしい。そこで本問題について、ずつと以前から頭を惱ましてをられた赤星熊本縣教育會長は遂に六月二十六日永島副會長と私とを伴ひ、菊池郡大津町役場に本縣町村長會長宇野忠吾氏を訪ひ、俸給寄附問題につき懇談せられた結果、左の通知を各郡支會長に發し、本縣の小學校職員は之に準據して寄附問題に處すること、なつた。

熊教第一二四號
昭和六年二月二十六日

各支會長殿

熊本縣教育會長　赤星典太

學校教員寄附問題ニ關スル件

本件ニ關シテハ曩ニ本縣知事ヨリ町村代表者ニ對シ說示ノ次第モ有之候處各町村ノ實情ハ夫々其ノ趣ヲ異ニスルヲ以テ實際ノ處理ニ就テハ極メテ愼重ナル考慮ヲ要スル儀ト被存本日本職ハ永島副會長奥田幹事ヲ帶同シ宇野本縣町村長會長ト菊池郡大津町役場ニ於テ會見種々懇談ヲ重ネ候處同會長ト本會トノ意見ハ全然一致シ且ツ同會長ハ本縣教育ノ將來ニ關シ多大ナル考慮ヲ致サレ居候段欣快ノ至リニ候尙各町村長ハ過日支會長會議ノ際縣當局ヨリ說明アリタル知事說示ノ趣旨ニ則リ各町村個別的ニ各學校ニ協議懇談アルヘキモノト被存候條爲念左記事項貴支會內各學校ヲ通シテ會員ニ至急御傳達相成度此段及御通知候也

記

一　町村長會ハ學校教員ニ寄附ヲ要求シ若クハ縣下各町村一律ニ寄附ヲ希望スルカ如キ申合ヲナシタルコトナシ

一　町村ハ夫々其ノ事情ヲ異ニスルヲ以テ若シ或ル町村ニ於テ其ノ財政頗ル急迫セリト認ムル場合學校教員カ之ニ同情シテ自發的任意寄附ヲナスハ洵ニ美德ナリトス

一　前項ノ場合ニ於テモ其ノ寄附額ハ教員各個人ノ經濟狀態・俸給ノ多寡等ニヨリ自ラ其ノ割合異ナルヘキヲ以テ縱令同一學校ノ教員ト雖モ同一律ノ寄附ノ申合ヲナスカ如キコトナク眞ニ任意ノ寄附タルヘシ此ノ點ニ就テハ學校長ノ深甚ナル考慮注意ヲ要スヘキモノナリ

一　仍テ學校長ハ其ノ町村ノ實情ヲ知悉シ之ニ即シテ町村長ト胸襟ヲ開キテ談合シ願クハ寄附等ノ要

全國聯合教育會臨時總會

ナクシテ本問題カ和氣藹々裡ニ解決セラルヽハ最モ望マシキコトヽ思惟ス

全國聯合教育會では本問題に關し全國の情勢を調査してゐたが、大體の樣子が分つたので昭和六年三月十六・十七の兩日東京市に於て緊急總會を開催して、市町村立小學校教員寄附强要・俸給不拂・義務教育費國庫負擔法等の數件につき協議することになつた。本縣からは鹿本郡支會長津幡隆氏と私とが出席した。

會場は未だ曾て見ない緊張ぶりを示し、各縣からの出席者は自縣の實情報告とそれに對する所感を述べ、町村長側の橫暴を罵るものがあるかと思へば、縣當局の無能や文部省の無力を嘆ずるものもあつた。さうしてゐるうちに

○　教育ハ蹂躪セラル兩君ノ御奮鬪ヲ祈ル

○　斯道ノ爲ニ御奮鬪ヲ請フ

○　目的達成ニ努力ヲ望ム

○　貴下ノ背後ニハ二十餘萬ノ教員ガ控ヘテキル奮鬪ヲ祈ル

物凄い光景

など、各地からの電報が舞ひ込み、それを讀み上げる度毎に熱狂の拍手が起るなど、物凄い光景であつた。それも其の筈、寄附强要・俸給不拂・初任給低下・住宅料年末賞與諸手當の減廢など忌まはしき事例が頻々として起り、益々其の範圍を擴大するの傾向があり、教員生活の不安は愈々深刻を加へ、教權の維持は到底之を保し難く、國家の前途眞に憂慮に堪へないからである。その時天下に發表して同憂の士に訴へた宣言は次ぎの通りである。

宣　　言

今や地方の財政は、依然として多難窮乏の狀態にあり、その結果として、市町村立小學校教員の俸給未拂ひ、延拂ひ、或は減額支給、更に甚しきに至つては、任意と稱して寄附を强要するが如き、惡風猖獗として底止する所を知らず、これが爲に、全國二十餘萬の教員に向つて、一大脅威を與ふるは寔に座視するに忍びざるものあり。今日の如き經濟國難に際しては、何人も異常の覺悟あることを要すべきも、唯斯の如く獨り我義務教育の擔任者たる小學校教員のみ、此の苦難を體驗せざるを得ざるが如きは、吾人の斷じて看過し能はざる所也。

若し夫れ之を現狀のまゝに放任せんか、延いて國民教育の發達を阻害するや言をまたず、之を即今の思想的危機に際し教育者の重責に鑑み猶帝國の將來を想ふ時は、誠に寒心に堪へず。吾人は天下同憂の士と共に、萬難を排して、これが對策を講じ、一日も早く教育者の不安と生活の動搖とを救はざるを

可らず。

惟ふに此の事たるや、決して教育者一身の休戚に止まるべきものにあらず、これ實に我國民教育の擁護に關する重大問題なるが故に速かにこれが善後の措置をとるべきものと信ず。

右宣言す。

昭和六年三月十七日

第十六回全國聯合教育會臨時總會

實行委員會

越えて四月、全國聯合教育會は曩の緊急總會の議決に基き、常置員及び十五縣教育會代表者を以て組織する實行委員會を十五・十六の兩日東京市に開くことを通知すると共に、九州の代表者を福岡縣と熊本縣に指定し、熊本縣よりは私に出席するやう指名して來た。福岡縣が指定されたのは、常置員たる小壷主事が居るので當然なことであるが、熊本縣を指定したのが如何なる意味を有するかは讀者の推察に任する。私は此の代表者たることを、頗る本縣の不名譽であると痛感しながら出席した。

不名譽

會議の模樣を詳述するの煩を避けるが、要するに全國の情勢を察して、如何にしてこの難局を打開するかの實行方法を協議した。全國の趨勢は去る三月に會合した時よりも、稍々緩和されつ

ゝあるを認めた。

第一日の午後五時から教育會館の大廣間で、文部當局・文政審議會員たる貴衆兩院議員・政黨本部・各新聞記者等を招いて晩餐會が開かれた。開會前待合室で政友會代議士植原悅二郎氏と聯合教育會側の二三の者との間に意見の衝突があり、激論を戰はしたなどの珍談もあつた。その節文部省の小笠原學務課長も

文部當局談

文部當局も決して本問題に冷淡ではないが、地方財政の疲弊から來てゐる問題だから、文部當局だけの努力では解決不可能である。この際官民一致教育擁護に當ることが最も緊要である。これが爲には、文部當局も從來の義務教育費國庫負擔金交付に關する法規を改正すべしとの議論さへ省内に起つて來たから、法規の改正に就ては愈々研究に取りかゝる事になつてゐる。

と大膽に當局の讓歩的態度を表明するに至つた。猶その際出席した實行委員の報告による各縣の狀勢は、次ぎの通りであつた。

各縣の狀況

縣名	俸給延滯	寄附狀況
兵庫	ナシ	二十三郡ハ寄附ヲナス　市部及五郡ハ寄附ナシ
福岡	ナシ　曾テ一漁村アリタルコトアリ	全縣下ナシ
高知	約十校	不詳
秋田	百四校	五校
千葉	三校	寄附ナシ
岡山	ナシ	全部一割
富山	不詳	大部分寄附アリ
島根	不詳	ナシ
宮城	十箇村	三箇町村
長野	二校	九郡寄附　三市七郡寄附ナシ
山口	二三箇村	ナシ
愛知	山間二箇村	ナシ

俸給豫算減額率と町村數

以上が表面に現はれた本問題經過の概要である。然らば本縣に於ける事實はどんなであつたかを檢討して見ねばならぬ。先づ昭和六年四月末の調査による昭和六年度小學校教員俸給豫算に現

はれた減額率及び町村數を擧ぐれば（縣下町村數は四百四十九であるけれども組合村は一箇村と見て三百二十八箇町村となる）

俸給減額率	町村數
一割以上	四八
一　割	八五
九　分	一〇
八　分	一七
七　分	一七
六　分	一五
五　分	一五
五分未滿	五八
不　明	三一　此ノ内ニ幾何カノ減額ヲナシタル町村ノ若干アルハ勿論ナリ

教育費大削減

の慘狀を呈し、前年同樣のものは二十七箇町村で、增額したのは僅かに五箇町村に過ぎない狀況である。其のうへ此の外に住宅料支給や年末賞與を廢し、需要費・旅費・雜給等の大削減をなし甚だしきに至りては極端なる學級整理・補習學校專任教員給の削除なども行はれたなどの話も聞

いた。

次に教員俸給の減俸・寄附・延滯に關する調査の他の一面を親へば

減俸豫定町村數	九七
寄附豫定町村數	二五七
俸給支拂延滯町村數	二三

九州沖繩各縣の狀況

の數を示してゐる。なほ之等の問題につき九州沖繩八縣の狀況を比較すれば

縣名	俸給延滯町村數	寄附豫定町村數	寄附額
長崎	一七	〇	〇
福岡	一	〇	〇
大分	〇	市部ヲ除キ殆ンド全縣 〇	〇
佐賀	五	〇	五分
熊本	三八	二五七	〇 最モ多數ナルハ一割ニシテ一割以上ノモノ及ビ五分以下ノモノアリ
宮崎	不明	縣下約四分ノ一ノ町村 〇	〇
鹿兒島	二一	〇	三分乃至四分　伊佐郡ハ一割
沖繩	五	〇	〇

となつて、熊本縣が他の七縣に比して如何なる狀況であるかは一目瞭然である。曩に述べた實行委員に、本縣教育會が九州の代表者として指定された理由も、直に領かるゝことゝ思ふ。

眞僞は保證の限りでないが

次ぎに其の頃の私が耳にした一二のことを述べて見よう。但しその眞僞は保證の限りではないが或は事實に近からんか。

1　俸給寄附の名目は任意と稱するも其の實は要請である。
2　寄附承認書を謄寫版刷にして記名捺印させられた。
3　承諾書に捺印することを拒絶したら、捺印するまで俸給は支拂はぬといつてまだ受取らぬ。
4　俸給延滯の上に一割以上も引去られて何で生活が出來るか。
5　寄附問題で村長と意見が合はなかつた爲に左遷の憂目を見た校長もある。
6　本村では寄附を要するまでに逼迫してゐないが、町村長會の決議だから仕方がない。惡く思うて呉れるなと氣の毒がりながら寄附を受ける町村長もある。
7　寄附は受けたくないが、他町村並に一應出して貰ひたい。後では返すからと言つて受くる町村長もある。
8　本村では先生方の寄附など一切頂戴しない。金が不足すれば別に方法を講ずるから教職に安住して呉れといふ町村長もある。

9　豫算には計上したが、其の實は要請しない町村もある。
10　新聞記事に煽られて寄附を要請せられた。新聞はニュースの取扱に今少し考慮して貰ひたい。

私の卑見

次ぎに私の卑見を述べて見たいと思ふ。由來本縣は教育縣として自他共に許してゐることゝ思ふ。古き昔はいざ知らず、寶曆以來肥後藩の文化は燦然として全國に輝き、彼の時習館の如きは其の名天下に普く、遠く他藩より來り學ぶ者多く、又他の藩學にして範を時習館に採りたるものも二三に止まらずと聞いてゐる。彼の明治の文勳元田・井上兩先生を出したのも我等の誇りであり近くは地方長官會議の際、本縣知事に對し屢々教育のことに關し御下問あらせられたるやに漏れ承り、縣民は何れもこの光榮に感激し、教育縣の矜恃を益々强からしめたことゝ思ふ。

教育縣とは

然らば教育縣といふ名稱の內容は一體どんなものであらうか、之は人によつて夫々見方を異にするものであらうから、總べての條件が必ずしも一致するものとは言はれまい。けれども『縣民が教育を尊重する念に厚い。』といふことは最も重要なる條件の一つであらうと思ふ。若し此のことが肯定されるとしたら、當時この教員俸給に關する諸問題に處した縣民の態度は、果して教育

縣たるの名を辱かしめなかつたか。靜かに考へて見たい。

本縣はその尤なるもの

全國といはず、先づ之を九州各縣と比較して見よう。俸給寄附のあつたのは大分・鹿兒島・熊本の三縣で、他の五縣には少しも其の事實を認めない。而も三縣の中で其の程度の最も深刻であつたのは遺憾ながら我が熊本縣であることは、前に掲げた表を見れば一目で分る。寄附問題ばかりでなく俸給豫算減額率の高いことも俸給延滯町村の多いことも本縣はその尤なるものである。

疑問とするところ

然らば彼の俸給寄附のなかつた福岡・佐賀・長崎・宮崎・沖繩の諸縣に比して、本縣の縣勢は甚だしく劣勢であり、各町村の財政も彼に比して貧弱なものであらうか、私は諸種の統計より見て必ずしも劣勢貧弱なりとは思はない。そして又俸給寄附を受けた町村は、その總べてが寄附を求めなければ實際立ち行かぬまでに財政逼迫してゐたのか、これは甚だ疑問である。

極めて少數の町村はいざ知らず、大部分の町村は何か遣り繰りがついたらうにと思はれる。若し夫れ之を全國的に見れば、寄附額の高率なるに於て、其の範圍の廣汎なるに於て本縣は屈指の地位を占めてゐる。九州沖繩八縣に就て見ても全く寄附の事實のなかつた縣が半數以上になつてゐるではないか。彼に全くなくして我に斯くの如く多きは何故であらうか。私は其の理由を發見

縣民諸君に一言したい

するに苦しむ一人である。

私は縣民諸君（寄附等の事實のなかつた町村を除く）に一言したい。諸君は市町村立小學校教員俸給の約五割一分（町村によると殆んど其の全額に近い額）が國庫より交付せられつゝあることを知るや、知らずや。又全國の官吏・軍人・教員其の他俸給生活者中、比較的薄給であると言はれてゐる小學校教員のみが、俸給の一部を割いて寄附をせねばならぬ理由はいづくにあるか。先づそれを尋ねて見たい。

單なる財政問題に止まらず

それから諸君は小學校教員俸給寄附問題を唯單なる町村財政問題としてのみ見る嫌ひはなきや若しさうだとすれば、それは大きな錯誤ではあるまいか。俸給寄附其の他教育費問題は、他の費目とは全然その趣を異にする。即ち本問題は直に諸君が最愛の子供の精神界に影響し、子供の一生を支配する重大な問題である。少しばかり景氣が惡いからといつて、直ぐ教育費をせしめようとする樣な、そんなに教育を輕んずる所に何で眞の教育が行はれようぞ。如何に教師が一所懸命に努めたからとて、教育を重んじない雰圍氣の中に育つ子供には自らそれが感受される。子供とはいへ人である。人は生れながらにして靈感の所有者である。教育を重んじない雰圍氣の中では

木に緣りて魚を求むるの類

教權は確立しない。教權の確立しない所に眞の教育を望むは、恰も木に緣りて魚を求むるの類である。少しばかりの金の代りに、大事な子供はどうなつてもよいと思ふか。諸君が多年困苦缺乏に堪へ勤儉産を治めて蓄へ得た財寶も、跡繼ぎの子供の心掛け一つでは、一朝にして之を消費するであらうことに氣付かないのか。諸君が求めた寄附額を調査したところによれば、一戸平均年額約四十五錢となり、月額で三錢七厘、一日僅かに一厘二毛となる。年額四十五錢。一年中に卷煙草三袋か酒三合を節約すればその金は浮く。固より之は平均額であるから、之より多い人もあらうが、又遙かに少い人もある。寧ろ少い人が多からう。諸君はこの僅少の金を得んが爲に大切なる子供を失つてよろしいのか。後日『針を拾はんが爲に杖を失うた。』と譏られても遁辭はあるまい。一枚の瓦を惜んで棟の腐れ果てるのに氣付かないのは愚の至りではあるまいか。幕末の儒者佐藤一齋の言を藉れば『世を涉るの道は唯得失の二字にあり。得べからざるを得る勿れ。失ふべからざるを失ふ勿れ。唯此の如きのみ。』と。諸君は何を得て何を失はんとするか。世の中のことは局部的に見るものではない。

一枚の瓦を惜んで

更に諸君の一考を煩はしたいことがある。歐洲大戰後我が國が未曾有の好景氣を呈した時、農

過去の忍苦

家は一俵の米を二十三圓に賣り、商工業者は過分の利益に潤うて成金風を振り廻し、高等小學校を卒業したばかりの子供上りで、易々と日給壹圓五拾錢の高給を得てゐたのに、一校の校長で僅かに月に米貳俵、若い訓導などは米壹俵代をも酬いられず、小學校教員の生活が窮迫のどん底に陷つてゐたことは、恐らくは諸君も少し位は感づいてゐたことであらう。その時諸君はこれが增俸を叫び、或は自發的に給與の道を講じたか、どうか。寡聞にして私は遂にそんな殊勝な聲を聞かなかつた。

小學校教員は家計甚しく窮迫せるも默して語らず、忍ぶべからざるを忍び、堪ふべからざるに堪へ、唯一念、諸君の子供を思ひ諸君の子供を愛し、常に足らざるを憂ひ及ばざるを懼れつゝ、忍苦の限りを嘗めながら職務に勵精してゐたのである。

それが今漸く酬いられて、どうやら人並らしい生活が出來やうかとすれば、それはならぬと寄附や減俸で押し縮める。諸君は今の小學校教員を經濟的に餘裕あるものと誤認してゐるのではないか。試みに思へ。人一倍子供の教育を尊重する小學校教員中、親讓りの恒産を有する二三の特例を除き、借錢なしに我が子を中等學校に入れ進んで高等專門の教育を受けさしてゐるものが

幾人あるか。人の子ばかりを育てゝ我が子を育て得ざる親としての苦惱煩悶は、恐らくは諸君には分るまい。僅かの俸給から一割を削がれた上に、所によりては二個月も三個月も俸給が貰へないのに、猶それを忍んで自已の職務に勵精しつゝあるのは、獨り我が小學校教員ばかりであらうそれは決して腑甲斐ないからではない。諸君の子供が可愛いゝからである。諸君は靜かに此の點を考へて貰ひたい。

諸君の子供故に

旱害と教員

猶更に一言したい。昭和九年縣下一圓に亘る旱害の際、縣下教育者が執つた態度を知るや否や旱害の甚しいことを聞いた赤星熊本縣教育會長が、現狀視察のうへ支會長會を開いて其の狀況を報告するや、支會長達は即下に義捐金醵出を議決した。誰からも一言の慫慂要請を受けることなしに。即ち全縣下の學校教員は職を被害町村に奉ずると奉ぜざるとに拘らず、同年九月から十年二月まで六ヶ月間に亘り、俸給の一部を割いて醵出した壹萬五千圓を提供して同情の誠意を表したではないか。それこそ一人と雖も一錢たりとも不足することなしに醵出した。本縣下多くの團體中、我が教育者の團體ほど多額の金員を義捐したことを聞かぬ。諸君は之を何と見るか。社會の事象はあらゆる角度から見て貰ひたい。望むらくは大所高所から見て貰ひたい。

大いなる收穫

私は前に述べた小學校教員俸給寄附問題に直面して大いなる收穫があつた。曾て私は或る先輩から、

熊本縣民は附和雷同に傾き易いから、之を是正することに留意せねばならぬ、それには明純な理性と鞏固な意志を養ふことが大切である。

熊本縣民は他人の所存に氣兼ねして、善い事とは思ひながら之を斷行する氣象に乏しい。眞の勇氣を養成せねばならぬ。

といふことを聞いたことがある。私はしみ〴〵と此の觀察が適中してゐることを感じた。當時の問題に處した縣民の態度は、この短所を白日の下に暴露した感がある。『自ら反して縮くんば千萬人と雖吾往かん。』の氣骨を養ふことは、本縣教育上の大きな問題であると思ふ。縣民諸君以て奈何となす。

快心事

最後に一つ申したいことがある。それは縣内の狀況が上述の如き中にあつて、熊本市と球磨郡だけは寄附問題が起らなかつた。熊本市は姑く舍き、球磨郡が他郡に附和雷同せず、信念に基いて動ぜなかつたのは、さすがは七百年來長養した相良文化の底光りを發揚したものとして嬉しか

つた。それと共に下益城郡當尾村長緒方末喜氏は、三重縣で開かれた全國町村長會に於て、將た又鹿兒島市に於ける九州沖繩八縣町村長會で、教員減俸・寄附問題などが議題となつた時、敢然として起つて教育擁護の爲に熱辯を揮ひ、反對の所信を表明せられたと聞く。私は斯くの如き明識正義の士が縣内に在ることを力强く思うた。

銀も金も玉もなにせむに
まされる寶子にしかめやも

天覽成績品係

陸軍特別大演習

昭和五年十一月岡山縣下で行はせられた陸軍特別大演習が濟むと間もなく、昭和六年の大演習は熊本縣下で行はせらるゝことが發表せられた。この吉報を得た百四十萬の縣民は、三十年振りに　天皇陛下の御幸を仰ぐ光榮に感激し、縣廳は直に奉迎の準備に着手し、六年三月には陸軍特別大演習事務分掌が告示せられ、私も天覽成績品係の委員を囑託せられた。係長は本縣社會教育課長福士繁吉氏で、天覽に供すべき品目は次の通りと定められた。

一　學校生徒兒童・青年訓練所生徒ノ書方・圖畫・手工・裁縫・手藝・實習成績品・學術研究物及發明創作品。
二　學校及青年訓練所職員ノ學術研究物・發明創作品及縣カ指定シタル特技者ノ製作シタル繪畫。
三　學校及青年訓練所職員生徒兒童ノ製作シタル標本及篤學者ノ生物學ニ關スル學術研究物。
四　縣内ヨリ採集シタル動・植・鑛物。
五　特別陳列品（古人ノ書畫・刀劍・勤王家先哲ノ遺墨品等ニシテ本縣ニ因緣深キモノ）

天覽品の陳列場は大演習御講評場たる熊本縣立商業學校と定められ、福士係長は周密な計畫を立て、委員一同は係長の指揮に從ひ、各所屬の事務に鞅掌して遺漏なきを期してゐた。

小宮屬の來訪

ところが八月四日、本縣商工水產課勤務小宮孝君の來訪を受けた。そして其の要件は

今秋陸軍特別大演習終了後、縣廳に行幸の際、知事が縣勢を言上されることになつてゐるから、その言上書の立案を賴みたい。

といふことであつた。この話を聞いた瞬間私が『自分は、そんな大切な役に當る柄ではないが、しかし千載の一遇、出來ることなら、やつて見たいものである。』と思うたことは、私の詐らざる告白である。苟も自分の立案したことが一言半句でも叡聞に達することになれば、それこそ無上の光榮で願つてもないことである。斷るのはまことに惜しいことであるが、と、いつて承諾するには自信がない。さて、どうしようかと考へた末、大膽にも『會長の許しさへあればお請けする。』と返事をして置いた。ところが翌々日次ぎの書面が屆いた。

大膽にも

昭和六年八月六日

熊本縣知事　本山文平

熊本縣教育會長　赤星典太殿

大演習事務委員囑託ノ件

今秋本縣下ニ於テ行ハセラル、陸軍特別大演習ニ際シ言上書起草方貴會幹事奥田末吉氏ニ御依頼致度候ニ就テハ委員ヲ囑託致度候ニ付御承諾被下度此段得貴意候也

宮廷係兼務

早速書面を携へて赤星會長に伺つたら『そんな機會は又とない。會の方は何とか都合をつけてお請けすることにしたら宜しからう。』といふことで、會長は書面を以て承諾の旨を回答せられた。すると折返し陸軍特別大演習事務委員宮廷係兼務囑託の辭令と、石川內務部長から私宛の依賴狀とを受領した。

資料蒐集

さていよ〳〵となつて、長澤宮廷係長（知事官房主事）や小宮屬の話を聞いて見ると、知事が口頭で言上される時間は僅かに十分間で、詳細なことは『熊本縣勢概要』と題する冊子に錄し、宮內大臣を經て奉呈されることになつてゐるとのことである。

それで先づ順序として、縣勢概要の編纂を終へて、それから口頭言上書の立案にかゝらねばならぬ。取あへず縣勢概要に記載すべき事項・排列順序など大體の編纂方針を定め、その資料を縣

廳各課各廨に求むるため、調査事項を掲げて各課長宛九月五日までに回答を得たい旨の照會を出して貰つた。

それを待合する間に總說として管轄・地勢・沿革などの立案に着手した。所謂概要であるから冗長贅漫に流れぬ樣に、簡潔で要領を得たものでなくてはならぬ。元來地理・歷史は私の最も不得手とするところで頗る知識に乏しい。圖書館から關係の書籍を借り出して何遍も繰返し〳〵讀んで、漸く一通りの概念を得たから、それを記述して角田政治先生に御示敎を願つた。先生は懇切に熱心に何かと御指導を賜はつたから、更に稿を改めて幾度も御批正を願つた。

角田先生の示敎

曩に照會して貰つた各課からの資料提供は、九月五日になつても中々揃はぬ。回答を得たのは僅に四五課に過ぎぬ。各課とも大演習事務に忙殺されてゐる時であるから無理もないことである幾度か催促して貰つて略ぼ出揃うた。けれども其の材料が課によつて精粗の差があるばかりでなく、記述の內容・體裁も亦多種多樣である。初めの程はそれによつて記述して見たものゝ、暫くして之は一先づ各課の提出事項を其の儘に寫し取つて、それに就て取捨選擇することが第一の仕事であらねばならぬといふ事に氣付いたから、同僚の藤本辰四郎・津田平藏の兩君を煩はして全

部寫し取つて貰つた。

知識乏し

原文を取捨することは何でもない樣なものゝ、實際となると容易のことではない。と、いふのは敎育關係以外のことについては全然知識の持合せがないからである。知識があり識見があつてこそ初めて取捨もあれば、選擇も出來るといふもの。知識のない者には到底それが出來る筈はない。そこで今度は讀むことにした。原文を何遍も繰返して熟讀味得することゝし、傍ら關係の參考書などを調べることに努めた。

統一

けれども玆に困つたことは、各課から貰つた材料は殆んど總べてが他の各課と相關的のものであるのに、それが課によつて數字が違つたり、意味を異にしたりしてゐることである。それを一々文書で照復してゐては時間と手數を要するばかりでなく、到底こちらの要望を完全に滿たすことが出來ないから、各課を廻つて尋ね歩くことにしたが、それに十日以上の日子を費した。特に產業統計の如きは昭和四年度のものであつたり、五年度分のものであつたり、課によつては同一事項に兩者を混入したりしてあるので、全篇の統一を期する爲に、統計係について精密に調査した。一門・上田の兩君が多忙中にも拘らず、親切に敎へて呉れたお蔭で、數字に就ては大丈夫と

いふ確信を得た。

氣象記事

次ぎに氣象のことであるが、これまで私が見た氣象記事は、殆んど了解の出來ぬ專門的のことばかり書いてある。雨量何粍、風速何米、最高溫度が何度で最低溫度が何度といふ風に、たゞ數字を並べたばかりのものが多い。それが其の土地の人に如何なる影響を及ぼすか、產業とはどんな關係があるか、そんな氣候ならば住民は平素如何なる注意を要するか、日本では何處の氣候と似てゐるかなどといふ樣な點には少しも觸れてゐないから、素人が見ては分りもせねば興味も湧かぬ。私はこれまで氣象記事を見て常に飽き足らず思うてゐた。ところで今度は氣象のことも書かねばならぬから、農務課から出た氣象材料は一瞥したばかりで、熊本測候所に靑木所長を訪うて敎へを乞うた。さすがは專門家だけに、同所長から本縣氣象の特異性や、產業に及ぼす影響などについて色々と懇切に話して貰つた。

一所懸命

晝は本務に追はれてゐるから、夜自宅で立案することにして書きかゝつて見ると、次第に興味も湧けば熱も加はり九月二十日頃から每晩午前二時頃まで執筆した。こんなことが殆んど一ケ月も續いた。病氣にでも罹つたら申譯がないから攝生にも注意し、會の方には事情を話して一時間

ばかりの遲刻を默認して貰ひ、朝は遲くまでゆつくり眠ることにした。或る晩の如きは思索の最中に、ひどい耳鳴がしだしたから、時計を見たら已に三時半になつてゐた。今から思へば、よくも體が續いたものである。

十章四十九節

總說・地方行政・社寺宗敎及史蹟名勝・兵事・敎育・社會事業・產業・交通及土木・警察・衞生の十章に大別し、更に之を四十九節に分ちて叙述した。第一稿の出來たのが十月四日である。完成までには漸く半分の行程に過ぎない。然るに年に一度の大役である本年度の敎育會總會もあと一週間に差迫つてゐる。

教育史の編纂發行のことに就ても一方ならず頭を惱ましてゐる時で、晝間はそんな事に忙殺され、この方に手を出す餘裕はない。期日は遠慮なしに切迫して來る。第一稿を自分で淨書してゐては、どう考へても期日までに間に合ひさうでない。それで法輝雄君に筆耕を賴んだ。

第三稿

法君が淸書して呉れる第一稿を加除整理すると、法君が又之を淨書する。私は更に推敲を重ねる。幸ひ敎育史編纂の爲、每日明麗館で執務中の橋本留喜・東寅喜の兩氏があるので、結構や語

句・文章などについて、何かと相談にも乗つて貰ひ、又色々と教へも受けた。かくして漸く第三稿を得たから文法・假名遣ひ・文字などについては、女子師範學校教諭藤村定吉氏に校閲を請うて漸く脱稿した。

それから口頭言上書の立案である。一昨年の茨城縣のを見ても、昨年の岡山縣（これは事項を羅列してあるばかり）のを見ても、縣勢概要を縮圖にしたに過ぎない。なるほど言上としてはそれも宜しからう。慥に良い方法形式の一つであると思うたから、初めはそれを參考して立案したそして別に今一つの形式として、縣勢概要の縮圖法を採らず、特に叡聞に達したいと思ふ縣民性竝に思想問題・産業・阿蘇國立公園の三項を主として言上さるゝことに立案し、この二案と縣政概要の案とを長澤宮廷係長に提出したのが、十月二十二日午後四時頃であつた。その日は早目に歸宅して此のことを話したら、母を始め家族のものも皆喜んで呉れた。

印刷まで

宮廷係では知事の決裁を得た上に、それ〴〵それを清書して、一つは知事が口頭言上の際に之を用ひ、一つは冊子となして奉呈されるといふことであつた。ところが萬事質素にとの有り難き御思召で『縣勢概要の方は必ずしも毛筆で淨書しなくても、印刷してよろしい。』といふ宮内省行

幸事務官の話があつたさうで、之は印刷することになつた。折角のことに印刷まで見て呉れ、一切のことを委せるからとの相談があつたから、それも引受けた。

冊子の型は四六倍版とし、活字は明朝四號の二分組、紙は特製鳥の子紙を用ふることにした。そして其の序に、大演習のため御下縣遊ばさるゝ宮様方や、要路大官に差上げらるゝ分として、帳簿紙で五十部を印刷する事になつた。

普通の印刷物とは違つて極めて大切なものであるから、活字・體裁その他に十分の注意を拂はねばならぬ。それで十一月一日から校正などのために、印刷所たる大同印刷株式會社に出張して早朝から夜遅くまで詰め切つた。三校四校を重ね、一人では見落しがあつてはならぬと、同僚の藤本辰四郎君にも見て貰つた。表紙の文字は知事官房秘書係の眞崎君が書いたのを、凸版にして印刷することにした。

白絹大和綴

十一月五日印刷が出來上つたから、表紙には特製鳥の子紙を用ひ、白色絹絲にて二ヶ所大和綴となし、まことに清楚なものが出來上つた。他の五十部には『昭和六年十一月五日　熊本縣』の奥付をつけ、同じく白絹二ヶ所大和綴とし、十一月八日宮廷係長に納めた。

其の出來榮は兎に角として、この光榮ある仕事を滯りなく期日までに完成することを得たのは誠に嬉しかつた。今後又と斯かる有り難い奉仕をなす機會はあるまい。仕事に取掛つてから完成まで丁度九十日間であつた。どうぞ家庭や自身に故障が起らぬやうにと念願してゐたが、幸ひ何の支障もなく、誠心誠意渾身の力をこめて奉仕することの出來たのは非常の喜びであり、絶大の光榮であつた。その間角田先生を初め、藤村教諭其の他多くの人達が、直接間接に大いなる指導援助を賜はつたことを厚く感謝する。

賜饌拜受

非常な喜びと絶大の光榮を感じてゐたのに、更に私はこの言上書を立案した廉により、大演習終了後の賜饌を拜受するの光榮に浴した。私は先年　大正天皇御即位御大禮地方賜饌と　今上天皇陛下御即位御大禮地方賜饌とを拜受し、今又三たび此の賜饌を拜受するなど、數ならぬ草莽の微臣として誠に有り難き極みである。

大演習が濟んで數日後、圖らずも御下賜金を拜受し、更に縣から金一封を交付された。御下賜金は別にして、縣から頂戴した金は何か記念として永久に殘るものにしたいと考へた。

講堂の天井板

之より先、熊本縣師範學校講堂の改築に着手された時、私は中島校長に賴んで元の講堂に使つ

てあつた天井板の一部の拂下げを受けて置いた。それは私が在學中四年間仰いでゐたあの馬場杉の天井板が、二束三文に賣拂はれて跡形もなくなるのが惜しくて堪らなかつたからである。

一舉兩得の記念

私の住宅は新築後僅かに七年を經てゐたに過ぎなかつたので、まだ何處も修繕する必要はなかつた。けれどもあの天井板で應接室の天井を張替へ、其の工費に縣から貰つたお金を以て充てたなら、一舉兩得の記念事業であらうと考へて、すぐ工事に着手した。

私は毎日天井を仰いでは母校をしのび、大演習を追想して聖壽の萬歲を奉禱してゐる。

『熊本教育』の更新

『熊本教育』とは熊本縣教育會の發行に係る月刊雜誌のことである。私は今、同誌の更新を述ぶる前に、本縣に於ける教育雜誌の沿革について一言して置きたいと思ふ。

本縣最初の教育雜誌

私の知る所では、熊本縣に初めて定期刊行の教育雜誌が生れたのは、明治二十二年一月のことである。即ち熊本普通教育雜誌社から出した『熊本縣教育雜誌』といふのがそれで、當初月一回の發行であつたのが、同年五月の第五號から月二回發行するまでに進んだ。ところが一面熊本高等小學校長坂口元雄氏を初めとし河瀨弘・元松直忠などの先輩及び教育關係有志諸氏は、同年四月十四日熊本市新町忘吾會舍に會合して相談の結果、同志教育懇談會を組織して規約六項を決定し、七月二十一日發會式を兼ねて總會を開き、その機關誌として前記の『熊本縣教育雜誌』を繼承することゝし、第九號から『熊本教育月報』と改題して八月十五日に發行することにした。然るに偶々七月二十八日突發した熊本地方未曾有の大地震に妨げられ、十日遲れて二十五日に至り

熊本教育月報

漸く發行する運びとなつた。

初等教育家の氣魄

同志教育懇談會開設旨趣は、同誌第九號の卷頭に掲げてあるけれども、長いものであるから玆には省くことゝするが、要するに唯一片教育を熱愛する同志の至情が凝つて生れたものである。隨つて其の會の運營資金は、悉く會員の出資を以て之に充つることゝし、多きは貳拾圓、少くとも五圓以上の額を義捐してゐる。今でこそ五圓であるが、熊本市内の旅館が三食二十五錢内外の宿料であつた時代の五圓の貨幣價値は想像するに難くない。當時初等教育家の氣宇が如何なるものであつたかの一端が窺はれ、そゞろ敬意を表する次第である。

その『熊本教育月報』は順調に生育し、讀者の數も漸次增加して五年の星霜を經、號を重ぬること殆んど五十、いよ〳〵これからだといふ時に好事魔多し、現職の教員が雜誌を編輯發行するは穩當を缺くとかいふ理由で縣當局の嚴達に逢ひ、遂に廢刊の已むなきに至つたさうである。この時この雜誌の廢滅を悲しむ人があつて、電光石火の早業で直にその後を引受け『九州教育雜誌』と銘打つて再現した。その最初の同誌に特別社告として

九州教育雜誌

凡教育雜誌の必要なるは素より申迄もなきことなるが、廣き我九州に於て、未だ此必要を充す程の

好雜誌なきは、識者の夙に遺憾とする所なり。我熊本縣に於ては是迄縣下唯一の教育雜誌、教育月報の發行せらるゝありて、閲歴已に五星霜、號を積む殆ど五十、其間大に我普通教育に向て、光明を發射する處ありしに、命なる哉、遂に廢刊の已むを得ざるに立至りしと聞く。人誰か之を哀惜せざらむや。余輩は該雜誌の讀者諸君と共に、深く今回の厄運を悲むなり、啻に該社の爲に是を悲むのみに非ずして、實に我教育社會に一雜誌を失ひしことを悲むなり。轍ち是を悲むが故に、奮然茲に九州教育雜誌を發兌して、一には九州教育の爲に氣焔を吐き、二には本縣下普通教育小學教育の忠僕たらんことを企望するに至る。天下の教育者諸君特に元教育月報の讀者諸君、幸に此意を諒して、渥く本誌に同情を寄せられんことを望む。

頃忽の際充分の準備を成すの隙なく、元大江雜誌社と相談の上、題號社名體裁及社員の組織等に改正を加へ、敢て本號を發兌するに至れり。記事杜撰誠に識者の嗤を恐る。（以下略）

九洲之教育

といふのを載せてあるが、之を讀めば『教育月報』廢刊の經緯が言外に窺知せられ、『大江雜誌』との關係も自ら了解される。そして其の際奮然として起つた其の人は梶原保人氏であつたと聞き及んでゐる。この雜誌は其の後次第に隆盛に赴き、明治二十八年五月誌名を『九州之教育』と改め、言論界に重きをなしてゐたが、遂に明治四十年に至つて惜しくも廢刊となつた。

熊本教育雜誌

之より先、明治三十年六月には別に『熊本教育雜誌』が創刊されたので、一時は縣内に二つの

教育雜誌を有するの盛觀を呈し、各々其の特長を發揮してゐた。そして此の『熊本教育雜誌』は熊本縣教育會が機關雜誌として發行せしめてゐたもので、發行者は毎年若干の金（明治四十一二年頃は年額百五十圓）を縣教育會に納むることになつてゐたのである。

熊本縣教育會報

ところが別項で述べた通り明治四十二年の秋、縣教育會は組織の變更をなしたので、これを機會に教育會自ら雜誌を發行することゝなり、翌四十三年二月十一日紀元節の佳辰を卜して『熊本縣教育會報』と題し其の創刊號を出した。隨つて『熊本教育雜誌』は自然廢刊となつた譯である新たに生れた『熊本縣教育會報』を編輯する爲に專任一名を置くことゝなり、これまで『熊本教育雜誌』の編輯者であつた安藤丑熊氏がそれに任ぜられ、直江・兒崎の兩理事が之を董することになつた。然るに安藤氏はその六月病氣の故を以つて辭退したので、師範學校の植村・岡坂兩教諭が編輯に當ることゝなり、それ以來十數年間、本誌の編輯は皆學校其の他に本職を有する人達に委囑してあつた。

熊本教育

『熊本縣教育會報』は大正十年一月號から『熊本教育』と改題しても、それを編輯するものは矢張り他からの兼務であつた。これではならぬと十一年五月末に安田市太郎君が專任として入會

したが、此の人も居ること一年半で他へ轉出して、再び元通りの兼務となつた。元來毎月一回の定期刊行をなし、會員に相當の滿足を與へようと思ふならば、どうしても編輯專任の人が必要である。世の中が進めば進む程本務が忙しくなるのは當然のことである。それにこちらの雜誌編輯まで力を割いて貰ふことは、その人になつて見れば迷惑千萬なことである。こんなことを考へると他に依賴することは誠に氣の毒で堪らず、暫くの間專ら私が編輯することにした。

いつまで待つても

けれども文學方面に最も不得手な私がやつてゐたところで、いつまで待つてもそれらしいものが出來る氣遣ひはない。それに昭和五年十月教育會改造後は、教育會の社會的地位が向上するに伴うて多忙は加はるばかり、加之互助部の更生・大演習などの大きな事件が次ぎから次ぎに起つて來るので迚もやり切れない。實を言へば、辛うじて形ばかりのものを出して、會員諸君に對しまことに相濟まぬといふ自責の感に充たされながら、その日を送つてゐたに過ぎぬ。

編輯主任設置の提議

そこで私は屢々編輯主任設置の提議をして見たが、先立つものは金で『金さへあれば贊成だ。』とは、いつも達する結論であつた。で、私は其の經費捻出の大體方策を立てゝ又提議して見たら今度は『では研究して見よう。』といふことになり『熊本教育』改善策の調査委員が設けられた。

調査委員會では同誌改善に關する各種の意見が交換されたが、編輯主任の設置は重要な一要件として決議された。

昭和八年三月の通常評議員會に提案された編輯主任設置の件は無事通過した。そのことが傳はると、すぐ二三人から希望の申込があつた。

何事でもさうであるが、雜誌編輯の如きは特に其の人を得なければ成績の擧がることは望まれない。廣く適材を縣下に求めようとて詮衡委員が設けられ、福富視學官が委員長となりて幾度も會合があつたが、所謂帶に短し襷に長しのたとへできまらない。遂に初めから誰も意中の人であつた阿蘇郡宮地小學校在職の山口經光君を招聘したいといふことになつた。

山口白陽君

山口君は白陽と號し大正六年三月の熊本縣第一師範學校卒業生、當時は前記小學校訓導を本務に縣立阿蘇高等女學校圖畫科教授を兼務してゐた。師範在學當時から文才を以て鳴り、其の後益々磨きがかゝり、九州新聞社募集の『火の國小唄』や、九州日々・九州の兩新聞が聯合で募集した『第六師團行進曲』に孰れも一等當選の榮譽を擔うたばかりでなく、大阪商工會議所主催で商工・農林兩省後援の下に普く全國に募集した『日本產業歌』にも應募して堂々一等の榮冠を贏ち

得て全國に其の名を擧げ、更に大衆文藝として福岡日々新聞に『古代愛慾篇』、サンデー毎日に『杖立騷動』・『死する道』の雄篇が入選登載されたなど、文名甚だ高い人である。

この人ならば此の上なしと決したが、さて來て呉れるかどうか、これは委員一同が尠からず頭を惱ましたところであつた。しかし物は相談、當つて碎けろだ。私が單刀直入の役を引受けて山口君と會見した。同君とは先年宮地小學校に行つた時、ほんの一面識あるばかりであつたが、本縣教育の爲に抵げて出馬して貰ひたいと懇請したら、物の分つた人だけに、あまり手數をかけずに承諾を與へられた。委員は勿論役員一同は安心し、會員も逢ふ人毎に適任者を得たと喜んで呉れた。

趣味と實益

昭和八年九月號から山口君の手に成る雜誌が發行された。同君は文才豐かなばかりでなく、材料の蒐集に編輯の考案に異常の才幹を發揮して面目一新、興味津々として盡くる所を知らず、一度讀み初めたら卷を掩ふことを忘れしめ、趣味と實益とを兼ね備ふるものとなした。これまで餘り讀まれなかつた同誌も、今は到着を待ち詫び爭うて讀まるゝものとなり、全國各府縣教育會から發行する雜誌中、嶄然頭角を現はすに至つた。

文筆による指導者

我が山口君は文藝の才質を豊かに具ふる上に、更に犀利なる批評眼を有し、常識に富んで人觸りもよく仕事に熱心で思想も亦穩健中正、而も繪畫をよくし似顔などは實に手に入つたものである。だから君が編輯する雜誌には、よく君の人格が反映躍動し、上品で體裁よく、堅き柔らかきをうまく配列してあるから、變化ありて趣味に富み、見てよく讀んで爲になる。君はまだ齡不惑に達してゐない。今後益々健闘を續け文筆による教育指導者として任じ、縣教育の爲に活動して貰ひたいものである。

教員服制の復活

過程を述べて見たい

熊本縣小學校教員の制服は制定後二十六年間續いて一旦廢止されたが、その後十四年を經て又復活した。私は今は之を回顧しながら其の變遷の過程を述べて見たいと思ふ。ところで初めて本縣に小學校教員制服の制定された頃は、私はまだ子供の時であつたから、、詳しいことは勿論知らう筈はない。それで時々先輩から斷片的に聽いてゐた話や、朧氣な記憶を辿つて書き綴るのであるから、或は間違つた點や獨斷に陷つてゐることもあると思ふ。この點豫め斷つて置く。

服制定まる

服制の始まりは今から四十年前、即ち明治二十八年の六月であつて、其の法規を掲ぐれば次ぎの通りである。

訓令甲第七五號

郡市役所
町村役場

市町村立小學校教員服制左ノ通相定メ候條執務ノ際ハ必ス制服ヲ着用スヘシ

本訓令ハ明治二十九年十月一日ヨリ實施ス

明治二十八年六月二十八日

熊本縣知事　松平正直

市町村立小學校教員服制

第一條　市町村小學校教員ノ服制ハ左ノ如シ

一　帽子　形式佛蘭斯形色黑ニシテ金色左圖ノ徽章ヲ附シ帽子ノ緣ニ三重ノ黑紐ヲ施ス

一　上衣下衣　形式上衣詰襟背廣形ニシテ色ハ上衣下衣トモ黑釦ハ角ニシテ服地ト同一ノ色ヲ用フ

但夏ハ上衣下衣トモ白色ヲ用フルモ妨ケナシ

第二條　制服ヲ以テ通常禮服ニ換用スルモ妨ケナシ

第三條　准教員ハ當分制服ヲ用ヒサルモ妨ケナシト雖必ス筒袖袴ヲ用フヘシ

註　意匠は中に曲玉二つを巴形に配し、其の周圍に八咫鏡の周を見せ、更に其の

周に草薙劍を放射狀に長短十本を配したもので、徑一寸と規定してある。此の圖案は當時の師範學校教諭重富龜一氏の考案によるものだとのことである。

服制制定前の情況

縣が服制を定めた趣旨は、小學校教員の威容を正し、執務上便利であるからといふことは勿論であるが、其の制定の機運を促進したのは熊本縣教育會が、小學校教員の制服制定要望の建議をなしたことが、與つて大いに力あつたことゝ謂はれてゐる。然らば服制制定前の情況は、どんなものであつたかといふことを一言せねばなるまい。

當時はまだ社會一般に洋服を着用するものが至つて少く、隨つて小學校教員も熊本市に於てさへ和服着用者が半分以上で、郡部に至つては洋服を着る者は極めて少數であつた。師範學校卒業生でも、或る年は申合せて洋服(折襟)を新調したが、或る年はそんなこともなくて師範在學時代の古洋服で濟ますか、さなくば和服といふ有樣であつたと聞いてゐる。

和服で執務、今から思へばまさかと思はれる樣な話だが事實だから仕方がない。體操の時などは、襷十字にあやどり袴の股立ち高くおつとり、さながら昔の敵打ちをしのばする出立ちであつた。職員室の柱には常に幾筋かの襷が掛かつてゐた。これではならぬと熊本市高等小學校では教

濟々黌と師範學校

員達は申合せて、其の學校限りの制服を定めたが、それは詰襟で胸には數條の肋骨(陸軍將校の禮裝に見るが如き)をつけた素晴しいものであつたさうな。現在大江高等女學校教諭山川正氏なども、此の制服着用者の一人であつたとのこと。

ところが明治二十八年六月小學校教員の服制が定められたので、洋服姿が段々に多くなり、翌二十九年十月一日の實施期には、正教員の大部分は洋服となつたが、准教員は猶筒袖袴が許されてゐるので、和服に制帽の人も尠くなかつた樣である。

一面中等學校側では、縣の制定はなかつたけれども、學校限りにきめられてゐたやうで、濟々黌の井芹校長の如きはいつも詰襟の制服で、それ以外の服裝を見ることは極めて稀であつた。唯師範學校だけは早くも明治二十一年十月制服を設け、翌二十二年六月一日より之を着用し、二十三年二月一部の改正をなし、更に小學校のと同じ年の明治二十八年十二月縣訓令甲第一三四號で服制が定められた。之も同じく黑の詰襟、帽子は佛蘭西型で、教諭訓導は平打金線二筋、校長は三筋を纏ふことになつてゐたから、訓導が郡部に模範授業(當時は模範授業といつてゐた)などに出張すると、帽子からして正に鷄羣の一鶴たる觀を呈し、郡部の若い教員などは少からず羨ま

しがつてゐた。

小學校教員服制は實施以來滿一ケ年を經過した明治三十年九月十七日訓令甲第一三四號で左の二箇條が追加せられた。

第四條　新任ノ者ハ任命ノ日ヨリ三箇月間ハ制服ヲ着用セサルモ妨ケナシ

第五條　疾病ノ爲メ制服ヲ着用スルコト能ハザルトキハ其ノ理由ヲ具シテ學校長ハ管理者ニ其ノ他ハ學校長ニ届出ツヘシ

即ち新任者に制服製作時日の餘裕を與ふると共に、着用せざる場合の手續を示したのである。これに據れば學校長は其の届出を管理者にせねばならぬことになつたが、これは小學校教員の身分から考へても都合が惡いと見たのであらうか、明治三十五年三月二十九日訓令甲第四十三號で次ぎの通りに改めた。

明治二十八年熊本縣訓令甲第七十五號市町村立小學校教員服制第五條中管理者トアルヲ「監督官廳」ト改ム

服制改正の建議

服制が制定されてから八年を經過した明治三十六年二月熊本縣教育會は服制の改正補足の建議をなした。即ち

明治二十八年本縣訓令甲第七十五號市町村立小學校教員服制ニツキ建議

本縣市町村立小學校教員服制ハ明治二十八年ノ訓令ニカヽリ爾來年ヲ經ルコト將ニ八ケ年ナラントス而シテ時勢ノ推移ト共ニ改正補足ヲ要スヘキモノヲ認メ曩ニ本會ニ於テ委員ヲシテ調査セシメタル次第ニ有之別紙改正案ヲ以テ事宜ニ適スルモノト相認メ候ニ付御審査ノ上御採納ヲ得度改正案ヲ添へ此段建議仕候也

明治三十六年二月五日

熊本縣知事　德久恒範殿

熊本縣教育會長　住田昇

服制改正案

第一條第一項「三重ノ黑紐」トアルヲ「二重ノ平打金線」ト改ム

第三條削除第四條以下繰リ上ク

第四條「疾病ノ爲制服ヲ着用スルコト能ハサルトキハ」トアルヲ「疾病其ノ他ノ事故ニ依リ制服以外ノ服ヲ着用スルトキハ羽織袴ニ限リ」ト改ム

第五條女教員ハ袴ヲ着用スルモノトス

であるが、改正要望の重もなる點は

1　帽子に金筋を卷くこと

2　服裝上准教員の差別觀を撤廢すること

3　制服着用すること能はざる場合の服裝は羽織袴とすること

4　女教員に着袴せしむること

女教員の服裝問題

等にある。なほ女教員の服裝が問題となつてゐるのが目につく。

此の建議案に對し縣が如何に之を處理するかは小學校教員總ての注目の的となつてゐた。然るに十數日後に縣は

本縣現今ノ狀態ニ依リ考察スル時ハ今俄ニ現行法ヲ改正スルノ必要ヲ認メラレス從テ直ニ建議採納ノ詮議難相成

と、にべなく一蹴したが、三重の黑紐（帽子の飾）では一見高尚の觀がなく、教員の威嚴を具へざるのみならず、あまり地味すぎて不景氣だとの輿論が漸次高まつた。此の輿論の勢を見て取つたのか、明治四十一年二月十五日訓令甲第七號を以て

明治二十八年（六月）訓令甲第七十五號市町村立小學校教員服制第一條第一項第一號中「三重ノ黑紐ヲ施ス」トアルヲ「幅曲尺二分ノ金線二條ヲ纏フ」ト改メ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス

服制の改正

と改正した。これと同日付で內務部長は郡市長に宛て服制取締方につき依命通牒を發した。小學校教員大多數が希望した通りに、帽子は金筋入りに改正せられた。併しそれは既に遲かつた。といふのは二三年前から全國の津々浦々まで、軍歌調の効能宣傳歌を手風琴の音に合せて歌ひながら賣り歩く生盛藥館・一藥館の賣子の帽子に金筋を卷いてゐたので、金筋の威嚴が尠からず低下して、俗惡の氣味さへ覺える樣になつてゐたからである。

黃金色の波

けれども別項に述べたやうに、明治四十一年四月から義務教育年限延長の實施、師範學校卒業生初任給の增額、搗て加へて帽子には金筋を卷くといふやうな調子で、初等教育界は頗る活氣を呈して來た。その年の五月三十・三十一の兩日、縣會議事堂で開かれた熊本縣教育會の總會には、燦然たる黃金色の波が漂うてゐた。私も其の總會に出席して三十一日の終列車で歸つたが、多年乘降してゐた八代驛は、翌六月一日から人吉線開通のため、此の列車を最終として今の八代驛に移ることになつたのを記憶してゐる。（もとの八代驛は球磨川驛と改名して貨物だけを取扱ふ

ことになつた。）

服制紊れかゝる

金筋の制帽で明治時代は過ぎて大正の御代となり、歐洲大戰が始まると何時とはなしに好景氣の前觸れがやつて來た。一面社會人たる小學教員も深淺の差こそあれ、この大勢に動かされたのは辭むことの出來ない事實であつた。折襟がチラホラ見え出した。始めの程は旅行用位にしてゐたのが、後では段々と執務時間にも着る樣になつて來た。郡視學會議などでは度々問題となつた數年前教員の威嚴を增す爲にと要望した金筋も、實施されて見ると有り難くもなかつた。

朝鮮の旦那

餘談ではあるが、大正二年の暮、講習會出席のため上京して、これも菊池郡から上京してゐた本藤藏吉・津幡隆・志垣寛などの諸君と落ち合ひ、或る所を見學に行つたら、客引きの一人が我等一行の制服姿を認むるや、頓狂聲を出して

朝鮮の旦那いらつしやい。忘年會たつた五十錢。

と呼び掛けたのには一同相見て苦笑した。その頃金筋を卷いてゐたのは朝鮮の官吏ぐらゐのものであつたらう。

歐洲大戰の影響

歐洲大戰の副產物としてデモクラシーの思想が澎湃として我が國に押し寄せて來た。民意尊重

機會均等・階級打破・特權撤廢などが頻りに高唱せられ、それが極端な現れとして浮華放縱・無秩序・無責任・享樂頽廢等の氣分が醸成せらるゝに至つた。大正七年八月に富山縣の一角から起つた米騒動は、燎原の火の如き勢を以て全國に波及した。教育界を去つて實業界に馳せ赴くものが踵を接し、日に日に其の數を增すの狀況を呈した。

それかあらぬか、その頃の教員の會合なども節制を失ふて規律なく、服制も廢れ氣味となり、當局の監督制裁も亦極めて力弱しといふ、實に嘆かはしい世相を現出した。その頃であつたと思ふ。內務部長から師範學校長宛に

師範學校訓導が講習會の講師又は授業などの爲に出張するとき、華美な折襟を着用するものあるやに聞き及ぶが、之は小學校教員の制服着用に惡影響を及ぼす虞があるから、今後嚴重に取締られたい。

といふ意味の通牒を發したのは一再に止まらなかつた。

服制遂に廢止

教員の轉任慰留、實業界への轉出阻止に神經を惱ましてゐた校長は、服制のことなどに就て彼此いふ餘裕なきまでに立ち至つた。隨つて制服を着用するものは寥々曉の星の如き有樣となつて

しまつた。この情勢に鑑みてか、縣は次ぎの訓令を以て、制定以來二十六年の歴史を有する服制を廢止した。

熊本縣訓令二一號
明治二十八年六月訓令甲第七五號市町村立小學校教員服制ヲ廢止ス
大正九年四月二十三日　熊本縣知事　川口彦治

なほ師範學校教員服制も同日付訓令を以て廢止となつた。

再び服制問題擡頭す

服制が廢止されて學校教員の服裝は著しく亂れて來た。大きな縞柄、派手なネクタイ、異樣の服型、どんなにひいき目に見ても教員としては相應しからぬ身なりのものも尠くなかつた。心ある人達は窃かに之を憂へてゐた。そこで教員の中にも詰襟制服の昔を禮讃し、何とかして之を復活したい、職服としては詰襟に限るといふ話が出る樣になつた。大正十三年末か十四年の初め頃だつたと思ふが、熊本市内十九校の校長は詰襟着用を申合せて實行し、以て不言の裡に部下教員に詰襟着用を慫慂した。

越えて大正十四年三月十三日に開かれた熊本縣教育會評議員會に、熊本市碩臺小學校長法政雄同市坪井小學校長澤村武雄の兩氏は連名で左の議題を提出した。

一　縣内小學校教員ノ服裝ヲ制定セラレンコトヲ本縣知事ニ建議スル件

先づ提出者たる法評議員が理由の説明をなし、澤村評議員も之に補足し、職務上現在のまゝでは不便なること、華美に流れて教育者たるの品格を失ふのみならず、村落では農民の怨府となるの嫌ひがあるから、教員は大いに反省の必要があることなどを力説した。之に對して贊否兩説、論戰に花を咲かせたが、野口評議員の提言により本問題の重要性に鑑み、更に一年間保留して愼重に考究することゝなつた。

翌十五年三月十一日の評議員會にも持越しの議題として提案され、今度は澤村評議員が説明の主役となつて應酬し、微細な點にまで意見の交換が行はれたが、前年よりも著しく贊成者の數を增したのは、時勢の動向を見るに十分であつた。併し能勢議長は山崎幹事(視學)と何か耳打ちしつゝあつたが、遂に評議員と懇談の結果提出者も納得の上、本議題を撤回することゝなつた。察するに評議員の意嚮は十分縣當局に達したので、形式的に文書を以て建議する必要もなくなつた

詰襟か折襟か

からであらう。

服制の要望は漸次其の濃度を高めて來た。そこで縣教育會は縣内小學校男教員の意嚮を窺ふために、昭和五年二月十三日各支會長に宛て

1　詰襟制服を要望するもの丶數

2　詰襟制服を必要とせざるもの丶數

の調査方を依頼したが、其の結果は殆んど相半ばした。又『九州新聞』は昭和五年二月二十八日から七日間に亘り、

○　背廣か詰襟か。小學校教師の服裝を如何にすべきか。

といふ問題を掲げて投稿を求めた。すると詰襟に一定せよ・服裝も亦進歩する・現狀の儘で・詰襟論・教育上から見た折襟・時代錯誤の詰襟論・形式に拘泥するな等の題下に、各々腹藏忌憚なき意見の發表があつて紙上を賑はした。しかし之とて賛否兩論互角の勢で、強ひて言へば詰襟論に少しの勝目があつた樣である。

之より先、鹿本中學校と第一師範學校附屬小學校では、其の學校限りの制服を申し合せた。孰

國民思想の急轉

れも詰襟である。附屬の方は永續しないで消え去つた樣だが、鹿本中學の方は標準服制定まで嚴守されたと思ふ。

詰襟說が漸次勢を得つ丶あつたとはいへ、折襟論者の勢力も亦侮るべからざるものがあつた。然るに我が國民思想は昭和七年になつて急速度の轉回を示した。即ち八月十八日の滿洲事變の突發を契機として日本精神の復活・國民更生運動・自力更生が高調せられ、異口同音に非常時局を叫び、國民の一致結束・職分精神の振作などが國民間に默契せらるゝ樣になつて來た。教員の服制に就て、常に待機の姿勢をとつてゐた本縣學務當局は、この好機逸すべからず、國民の更生は先づ教育家より其の範を示さねばならぬとし、窃かに制服の形式、實施の方法等につき準備工作を整へてゐたらしい。

昭和七年十月二十六日明麗館で或る會合があつて後、縣からは高田學務部長・早坂學務課長・福富視學官・縣教育會からは赤星會長・中島副會長と私、それに一二の校長が集まつた所に、福富視學官は豫て用意の結襟服と帽子（今の制服型）を示して、之を標準服となすことの可否につ

現行制服着用の先頭第一

き相談があつた。無論一同贊成であつた。帽子の徽章は學校所定のものを用ふるを本體とし、所定のものがない場合は、往年縣が制定してゐた徽章を用ふることゝなつた。福富視學官は率先して翌二十七日から此の見本にこしらへた服を着用し、佛蘭西型の帽子を戴き威風堂々と出勤したとは即ち現行制服着用の先頭第一である。

序に一言したいことがある。實はその事が直接私に關係があるので、差控へるのが當然であると思ふたが、事の經緯を述べるためには之も亦必要であるかも知れないと考へ、手前味噌とは承知しながら附加する。それは帽章のことである。前に述べた樣に學校所定以外の帽章は往年制定されてゐたものを、その儘襲用することゝなつたが、さて廢止後十三年も經過した今日、おいそれと直ぐ手に入る筈がない。心當りの所を探しても中々出て來ないので當惑してゐた。ところが私は大正三年四月、女子師範學校訓導に轉任した時、それまで十一年間、雨の朝風の夕、毎日戴いてゐた帽章だから、貴重な記念品として大切に保存してゐたのがある。それを視學官に提供した。視學官が第一番にかぶつた帽子についてゐる徽章が即ちそれである。物は無暗に捨つべきものではない。

福富視學官

全國に魁けして教員制服を企畫した視學官福富正吉氏は隣縣都城市の出身で、大正四年廣島高等師範學校地理歴史科卒業後、直に本縣鎭西中學校で教育家としての第一歩を踏み出し、一年志願兵を濟まして鹿本中學校に歸つた。父祖の血を享けて劍道四段の猛者、當時の生徒たちには劍道の先生としての印象が深いさうである。

それから一時大阪府高津中學校に轉じたが、熊本との緣が切れず再び第二師範學校教諭として來任、間もなく同校附屬小學校主事・人吉中學校教頭と伸び、佐々木榮太氏の後を受けて同校長に榮進し、次で視學官に拔擢された人である。體軀堂々四邊を壓し、一見近づき難いやうであるが、その實は溫情濃かで親切な良教育家である。敢て邊幅を飾らず實踐躬行、いかに寒い日でも決して外套を用ひず、どんな場合でも詰襟の制服で押し通す人である。私は去る昭和三年四月同氏がまだ附屬校主事時代、大分縣教育會主催の九州沖繩八縣聯合教育會に代議員として共に出席したことがある。固よりそれまで面識はあつたが、別府で同宿の三泊は互に冗談も言ひ合ふ程の親しさにまで結びつけた。

孜々營々として縣教育の振興に努め、尠からざる功績を收めてゐるが、就中同氏が最も力を罩

めた此の教員服制の制定と、次ぎに述ぶる御親閲記念事業とは永遠に本縣教育界に幸ひするであらう。

福富視學官が着初めてから二三日すると、視學全部が着用して範を示し、次いで縣は左の通牒を發した。

學第四〇四八號
昭和七年十一月四日
中等學校長殿
小學校長殿
補習學校長殿
熊本縣學務部長

教職員標準服竝ニ標準帽子制定ニ關スル件

教職員職分精神振作上服裝ノ統一ヲ圖ルハ極メテ緊要ノ事ト被存候ニ付今回左記ノ通リ男子標準服竝標準帽ヲ制定致候ニ就テハ貴職ハ勿論部下職員ニ對シ此ノ趣旨ニ添フ樣御取計相成度此段及通牒候也

記（略す）

明治二十八年服制制定の場合は直に訓令を以てし、實施期までに一年五ヶ月の猶豫期間を設け

標準服

たのであるが、今回のは制服にする素志は十分にありながら、先づ之を標準服として學務部長の通牒に止め置き、徐ろに教員の自發的順應による普及を待つと共に、程なく搦手から十一月十五日の現狀につき報告を求めたなど、巧妙なやり方であつた。

又形式に於ても上衣をホックどめにし、衿、裾廻り其の他數ヶ所に幅一糎半の黑縞緣を施し、帽子にも幅三糎の黑縞緣を附するなど一見高尚なもので、而も折襟では執務・經濟の兩方面から不便を感じてゐた時であつたから、教育界の氣受けもよく、思ひの外早く普及した。

威壓に似た感じ

標準服制定後一個月も經たぬ十二月一日、佐敷町で開かれた葦北郡教育支會總會に私も出席したが、男教員全部（嚴密に言へば、出來合はなかつた爲に餘儀なく折襟を着た二人を除く）が、新調の標準服に威儀を正してゐたのは慥に偉觀であつて、場内嚴肅の氣分が溢れてゐた。臨席の福富視學官が壇上から『威壓に似た感じを受けた。』と言つたのは、あながち一片のお世辭ではなかつたであらう。

それから間もなく十一月二十六日佐賀市で開かれた九州沖繩八縣聯合教育會主事會に出席したが、その時の議題にも『教員の制服について』といふのがあつた。私は熊本縣の狀況を詳しく話し

て置いたが、他縣でも矢張り之が問題となつてはゐるものゝ、まだ手を着けないといふことであつた。

服制制定の準備成る

標準服の制定は見事に成功した。而も今回は中等學校にも及び、私立學校も悉く之を用ふることになつた。國民更生運動の實現的作用の一とも、又は縣内教育家の一致結束の象徴とも見られて喜ばしいことであつた。標準服が斯の如く短時日の間に縣内隈なく普及したのは、教育家各自の職分精神の然らしめたのは勿論であるが、視學官始め視學其の他の學務當局が眞先に之を用ひ躬行實踐以て範を示したのも亦其の一因であつたことゝ思ふ。

本縣の標準服が制定せらるゝや、いたく世の賞讃を博し、他府縣教育界に大なる衝動を與へた其の後之に倣つて制定した府縣も尠くない。とまれ、教員の服裝に就て本縣が先鞭をつけ、天下を指導するに至つたのは嬉しいことである。

標準服で一年有餘を經過し、多大の効果を收めつゝ昭和九年を迎へた。その頃になると、もう此の標準服を制服にしてもよいといふ機運は熟しきつてゐた。偶々神武天皇祭の四月三日、宮城

御親閲を好機として服制制定

大前の聖域に於て、畏くも全國小學校教員代表者に御親閲を賜はることゝなつた。これ實に千載一遇の光榮である。縣内教育家は皆齊しく感激して、願くは制服として御親閲を拜受したいと希望した。縣も此の好機を機會としたのであらう。左の訓令を以て從來の標準服を制服と定めた。

熊本縣訓令第五號　　公立學校

學校男子職員服制左ノ通リ定メ昭和九年四月一日ヨリ施行ス

昭和九年三月二十七日　　熊本縣知事　鈴木敬一

學校男子職員服制

學校男子職員ノ服制ハ別表ニ依ル（別表略）

昭和九年三月三十一日の朝まだき、一生一代の光榮に浴せんものと、明日から制服となるべき眞黒の標準服に身を固め、熊本驛に參集した本縣小學校教員代表者四百七十八名は、安藤水俣校長を團長とし、總務福富視學官に率ゐられて午前六時四十分臨時列車で出發した。

東京市に於て、將た御親閲場に於ての樣子は親しく之を見ることは出來なかつたが、聞く所によれば、他府縣のフロック・モーニングと打交じる其の中に、統一せる制服の美と、一絲亂れぬ

統制ある行動とは、斷然一頭地を拔きて帝都人士の眼をそばだゝしめ、文部省活動寫眞班も、特に我が熊本縣の一團を撮影したといふことである。

御親閲と制服。光榮の絲を以て不可離の關係が結びつけられ、絶好の記念として永く我が熊本縣教育界に存續するであらう。

制服よ、永久に榮光あれ。

御親閲と其の記念事業

空前の光榮

皇太子繼宮明仁親王殿下ノ御誕生ヲ奉祝センガ爲メ全國小學校教員ハ吉日ヲトシテ宮城前ニ集合シ赤子ノ奏心ヲ披瀝シテ皇室皇國ノ萬歳ヲ三唱シ次デ精神作興大會ヲ開催シテ教育家タルノ自覺ヲ喚起シ兼ネテ天地神明ニ誓ヒ協力一致以テ教育報國ノ志ヲ固メントス云々

といふ趣旨の下に、全國小學校教員精神作興大會が擧行さるゝことになつたが、畏くもこのことが天聽に達し、御親閲を賜はるべき御沙汰があつたと拜承した。實に空前の光榮であり未曾有の盛儀である。傳へ聞いた縣下六千の小學校教員は何れも感激の胸を轟かした。

拜受申込者殺到

大會は昭和九年四月三日の神武天皇祭當日と決定せられ、御親閲の次第發表せらるゝや、縣當局は直に之を縣下小學校に移牒し、本縣の割當人員たる三百四十一名を一校約一人に配當したが期日までに殺到した申込は實に五百四十二名といふ盛況であつた。そこで縣當局は却てそれを整理減員せねばならぬといふ現象を呈し、愼重審議の結果、定員を超過すること百余名なる四百七

十八名を正員と決定し其の趣を發表した。

光榮に浴する正員は三月三十日午後一時、明後日から制服となるべき黑の詰襟姿で明麗館前に集合した。安藤葦北郡水俣尋常高等小學校長を團長とし、之を率ゆる總務には福富視學官・有馬渡邊・山下の三視學、この外庶務・交渉などの係が設けられ、團の組織は整然たるものであつた各班毎に整列した一團は縣會議事堂に入つて鈴木知事から一場の訓示を受け、藤崎八旛宮に參拜し、碩學小學校で團體行動の練習や『教育の歌』の練習などがあつて一應解散した。

感激を乘せて走る

三月三十一日午前六時、春とはいへどもまだ薄ら寒い曉闇を破つて熊本驛頭に集ひどよめくもの、それはいふまでもなく我が感激の友である。行く人送る人、別辭と激勵と祝辭との交響樂を奏しながら一行は乘車する。發車直前に津幡八代郡代陽小學校長の祝電が着いた。一行を乘せた特別仕立の臨時列車は、湧き起る萬歳の聲に汽笛の音を和して六時四十分北に向つて軌り始めたこの列車には我が熊本縣教育會編輯部主任山口白陽君も、團の行動や御親閲の盛況を全會員に報道すべき使命を帶びて同乘してゐる。

聞くところによれば一行は元氣頗る旺盛、途中横濱驛で內閣總理大臣兼文部大臣齋藤實氏に邂

幸先きよし

逅し、福富視學官は一行を代表して挨拶を述べたといふ幸先よき旅行を續け、四月一日午後五時半無事東京驛に着いたさうである。御親閲の次第は拜觀しない私には分らない。幸ひ山口君が雜誌『熊本教育』に登載したのがあるから、同君の承諾を得て其の一部を次に掲ぐる。

御親閲

入場

午前十一時半、準備全く成つていよ〳〵會場たる宮場前大廣場に入場、細雨蕭條たる中に時の至るを俟つ。

見渡す數萬坪の廣庭は、自動撒水車の吹き散らす雲霧によつて洗はれ、玉砂利淨らかに濕りを吸ふて、塵埃も揮はず、天幕張り純白の玉座のあたりは、一際神々しく拜せられる。

御苑の松の綠、はた〳〵と飛交ふ白鳩、霧雨の中におぼろな皇居の御甍など何れも此世ならぬ莊嚴と淸淨の眼福である。視野を轉ずれば、早くも場內を埋めた三萬六千の大會衆は、正面、左右の兩側と、三方に分れて肅然と居流れ、各々團旗を先頭に立て、全日本の小學教員を代表する今日の光榮に面上殊に晴やかな色を湛えてゐる。

午後一時半、團員、陪觀の諸員悉く入場を終れば、東郷粟屋兩文部次官、武部普通學務局長、小學校教員聯合會長下川兵次郎氏（東京市下谷小學校長）同副會長丸山近美氏（埼玉縣浦和小學校長）その他

は玉座の前方約二十米ばかりの位置に整列、齋藤首相は兼任文相の資格を以て本大會の總裁たり、更に數歩進んで威儀を正す。

陪觀席には中島、澄田前本縣兩師範學校長、山下、飯牟禮現兩師範學校長の顔も見え、北滿教育視察團一行の滿洲服姿は特に注目を惹く。

又特別陪觀席には小山法相、足の惡い永井拓相の顔も見え、財部元海相、田中元文相等も並んでゐる。その他八字鬚の荒木前陸相、渡邊、阿部、山本等の軍事參議官、河野會計檢査院長など變つた顔ぶれもある。此頃雨は殆んど晴れ、ともすれば薄日の雲間を洩れることすらあるが冷氣はかなりに强い。

ふと、場内整理に斡旋してゐたボーイスカウツの連中が、一齊に敬禮したので、誰方かと拜すればつい筆者の近くで自動車から御降り遊ばされたのは、いつもながら朗らかな秩父宮樣である。續いて朝香宮、東久邇宮など、それ〴〵自動車を下り玉座に向つて右方の位置に列ばせられる。

玉音朗らかに

二時二十分、儀式係長栗屋文部次官の令によつて、信號喇叭が吹奏されると、三發の煙火が轟然と中天に炸裂し、同時にボーイスカウツの手によつて紅白だんだらに卷立てられた竿頭高く日の丸の大國旗がする〳〵と揭揚される。滿場肅として聲なく、唯緊張に躍る胸を必死に制するばかりである。

やがて所定の午後二時三十分遙かなる御苑の中に嘹亮たる喇叭の音響くと聞くや、幾くもなく二重

橋を出でさせ給ふ自動車鹵簿、全員最敬禮軍樂隊の奏する『君ヶ代』嚴かなる中に畏くも式場に着御、御陪乘の鈴木侍從長を始め湯淺宮相、本庄侍從武官長以下を隨へさせられ、今地上に玉歩を印し給ふた　聖上陛下の御英姿、玉體愈々御健かなるを拜せらるゝも畏き極みである。

かくて御先着の各宮殿下に御會釋の後、玉座たる臺上に上らせ給へば、齋藤彙編文相御前に進み『皇太子殿下の御降誕を奉祝し、御親閲を仰ぎ奉る』

由を奏上、全員再び最敬禮の後、號令によつて三部の各集團は一齊に約二十米前方の線まで行進すれば　聖上陛下には龍顔麗はしく之に御親閲を賜ふ。御起立のまゝ微動だにせさせたまはぬその御姿の崇高くも神々しきことよ。げにわが日本をしろしめす現人神を今咫尺の間に拜し奉つて自らはふり落つる涙の頰を傳ふもの、獨り筆者のみであらうか。續いて奉唱する『君ヶ代』の曲すら、いつか嗚咽に聲亂れ、辛うじて歌ひ終るを得たのであつた。

此時鈴木侍從長恭しく勅語を捧呈すれば、陛下には玉音いとも朗らかに讀み上げさせ給ふ。

國民道德ヲ振作シ以テ國運ノ隆昌ヲ致スハ其ノ淵源スル所實ニ小學教育ニアリ事ニ其ノ局ニ當ル

モノ夙夜奮勵努力セヨ

齋藤文相鞠躬如として御前に參進、鈴木侍從長を經て勅語を拜受し、一旦原位置に復して後再び御前に參進して奉答文を捧讀、續いて全員軍樂隊の伴奏によつて『皇太子殿下御降誕奉祝歌』を奉唱する三萬六千の大混聲コーラスは恐らく大内山の奥迄も響き透つたに相違ないと思はれる。

合唱終るや齋藤彙報文相、シルクハットの手を高くかざして『天皇陛下萬歲』を發聲すれば、場を埋むる四萬の全會衆は、悉く心肝の熱情を迸らせて、一齊に萬雷の如く唱和する。一唱、二唱、三唱あゝこの聲こそ日東帝國を永遠に光輝あらしむる國民の聲でなくて何であらうぞ。

滿眼の感涙は滂沱として更に双頰を傳ふ。

かくて、齋藤彙報文相玉座に近づき奉り

『御親閲終了』

の旨を奏上、全員最敬禮に奉送する中を、陛下には龍顏愈々御晴れやかに御會釋を賜ひつゝ御召自動車に乘御、九重の雲深き宮城へ還幸遊ばされたのであつた。

げに忘るまじきこの感激。

精神作興大會

御親閲終了後、全員はそのまゝ原位置に殘つて、全國小學校教員精神作興大會に移る。この頃降雨稍强くなつたが下川會長先づ教育勅語を奉讀し、次で宣言決議を朗讀すれば會員怒濤の如き拍手を以て贊意を表する。續いて齋藤首相、同彙報文相訓示があり、雨脚愈々繁き中に午後四時會は全く終了を告げた。

かくて全員は夫々解散したが、本縣團員は一先づ西櫻小學校に引揚げ諸般の後仕末を完了して後自由行動に入つた。

傳達式と總會

越えて六月八日、本縣知事は縣下の小學校長を召集して勅語謄本の傳達式を行ひ、翌九日には熊本市公會堂に小學校教員を集めて訓示せらるゝことになつた。そこで熊本縣教育會は從來秋季に開くを例としてゐた通常總會を特に繰上げて、九日の知事訓示の終了後直にその場所で開會することゝなつた。

その日集まる會員の數は三千五百人に近く未曾有の盛況であつた。赤星會長は言々肺腑より出づる熱辯を以て、共に誓つて洪大無邊なる聖旨に答へ奉るべきを說示し、會員も夙夜奮勵努力して聖旨の萬一に對へ奉らんことを誓ふ宣言を決議し、更に九州帝國大學教授法學博士大澤章氏の『教育に於ける權威の意義』と題する講演があつて、會衆は感奮興起の絕頂に達した。この時襄に御親閲拜受の際團長であつた葦北郡水俣小學校長安藤愛之助氏が起つて

感奮興起の絕頂

我々はこの光榮を永久に記念すべき適當なる事業を計畫したい。そして其の方法等に就ては一切を會長に一任する。

といふ動機を提出した。感激に滿ちてゐた會員一同は、安藤氏の言未だ畢らざるに急霰の如き拍手を送つて贊意を表したので、會長は之を採納した。

そこで赤星會長は、この記念事業計畫委員を福富正吉・高尾文八・澤村武雄・津幡隆・西坂良藏・安藤愛之助の諸氏及び私に委囑された。委員は數次の會合を重ね愼重審議の結果、肥後文教研究所を新設するを最も適當なりと認め、そして先年來蓄積し來つた基本金の据置期間も昭和十年九月末日で滿了し、十月以降の利子は使用し得ることになつてゐるから、それを此の意義深い記念事業費に充てたいといふことに一決した。

肥後文教研究所

委員長の報告を受けた會長は、その案につき久慈・山下兩副會長と熟議して、いよ／＼委員長報告の通りに進行することに決し、更に評議員會に諮ると、一言の異議なく滿場一致で贊成、且評議員からの希望もあつて、開所式を一周年記念日たる四月三日に擧行することとなつた。そこで昭和十年四月三日午前十時在熊の諸名士を請じ、各支會からも代表者が集まつて盛大なる開所式が行はれた。當日は縣內及び在京其の他本縣出身の諸先輩から多くの祝電が寄せられた。

開所式

然らばその肥後文教研究所は如何なる目的で設けられたのか、又、有識者は如何に之を見てゐらるゝかは、私が玆に述ぶるよりも、開所式に於ける赤星會長の式辭と、來賓總代として前熊本醫科大學長醫學博士山崎正董氏が演說された祝辭を讀めば、其の眞意が明かに分ることゝ思ふから

ら左に之を揭ぐる。

式辭

式辭

本日玆に多數來賓の御臨を得まして肥後文教研究所の開所式を擧行致しますことは私の頗る本懷とする所であります

長くも　天皇陛下夙に教育の事に御軫念あらせられ昨年四月三日宮城大前の聖域に於て特に全國小學校教員代表者を御親閱あらせられ又親しく

國民道德ヲ振作シ以テ國運ノ隆昌ヲ致スハ其ノ淵源スル所實ニ小學教育ニ在リ事ニ其ノ局ニ當ルモノ夙夜奮勵努力セヨ

との勅語を賜ひ小學教育の重んずべき旨を昭示し給ふ　聖慮深遠洵に恐懼感激に勝へざる所であります

仍て本會は此の優渥なる聖旨を奉戴し一致結束斯道の振興を期せんが爲に六月九日總會を開きましたが會衆三千五百人未會有の盛況を呈し非常なる緊張感激を以て終始しまして「職責の尊きを自覺し虔みて聖旨を奉戴し夙夜奮勵努力益々國民道德を振作し國運隆昌の基根に培ひ以て聖旨の萬一に對へ奉らんことを誓ふと共に本會改造の精神に則り其の抱負を遠大にし結束を鞏固にし一層肥後文教の精髓を發揚せんことを期する」旨を決議致しましたが更に御親閱記念として決議文末項の意義を具體化し之を教育上に反映せしめ得る事業を考案せられんことを望む趣の動機が起り滿場熱烈なる贊成により

て之を可決し其の實行に就ては總て之を會長に一任したのであります

そこで私は會員の希望に副はんが爲に若干名の委員を設け衆知を集めて研究せしめましたところ委員は期せずして肥後文教研究所を設置し光輝ある我が肥後文教の精髄を發揚し以て本縣教育の振興を期したいといふことに一致したる旨の答申を得たのであります　私も固より之は御親閲記念事業として最も適當なるものであると考へまして夫々の機關に諮り愈々之を設くることに決定したのであります

熟々考へまするに去る昭和五年十月我が熊本縣教育會は教育勅語御下賜四十周年記念事業として擧縣一致を以て組織の改造を敢行し私は改造後最初の會長として就任致しましたが爾來茲に五年の歳を閲し其の間會員の自奮自勵並に各位及び一般識者の支援と時勢の推移とは相俟つて改造の三大目的中教權の確立、爲政者の移動により動もすれば生じ易き教育界の不安の解消に就ては漸次其の成果を收めつゝありと信じますが改造終局の理想たる縣當局、教育家、有識者の三者が一致協力して公明著實なる輿論を作興し以て肥後教育是を樹立することが出來なければ本會の改造は龍を畫いて點睛を缺くといふことになりますからして此の點に就ては私は夙夜考慮を廻らし只管其の時機到來の促進に努めてゐたのであります　教育家、有識者の方々も定めて御同樣でありましたこと、思ひます併しながら之は極めて容易ならぬ仕事でありまして決して一朝一夕に出來上るものではありません時の力を俟ち孜々として準備工作を怠らず一歩一歩に進めて行く外に其の途は無いものと考へてゐた次第であります

果せる哉昨年の總會に於ける會員總意の要望は全く本會改造の精神と一致しまして肥後文教の精髄を

發揚すると共に延いては教育是樹立の域に進まんとするものであると認めました　幸にも之に要する經費は改造當時より會員が蓄積を開始しました基本金が既に拾六萬圓に達するの好成績を示し本年九月には既に五ケ年の据置期間も滿了しますから是より生ずる利子の一部を以て之に充てますならば兩兩極めて意義深きものであるとし先月評議員會の決議を經ましたから御親閲第一回記念日たる本日の吉辰をトし此の開所式を擧行する次第であります　即ち此の肥後文教研究所が所謂天の時人の和を得て目出度茲に生れ出でましたことは洵に欣快の至りでありますが事の茲に至りましたことに就ては種種の原因もありませうが特に六々會員其の他有識者各位が從來熱心なる支援と激勵とを賜はりましたことが與りて大に力あることを考へまして私は茲に深甚なる謝意を表するものであります

惟ふに私共は肥後文教と稱して或る一種の矜持を持つて居るのであります　それは縣民が齊しく教育縣熊本を以て自ら任ずるのも恐らくは之あるが爲めであらうと想像致します　さて然らば肥後文教とは何ぞやと問はれましても之を具體的に擧げ得ることは困難な問題であります　固より識者間には充分の默會があり認識があり理解があり直に之を指摘することが出來ませうが多數の人々には程度の差こそあれ漠然として潜在するのみではないかと思はれます　其の各人に潜在する概念を喚起し其の內包を闡明し或る程度まで之を具體化し少くとも教育家たるものは能く其の精髄を把握し之を教育上に活用し青年子弟をして我が祖先の心臟の鼓動を聽くことを得しむる樣にするのが即ち今回設けました肥後文教研究所の任務であり使命であります

然るに單に肥後文教と申しましても其の内容は極めて複雜なもので申すまでもなく肥後といふ文化領域を通じて發生したる日本文化であります

而して肥後古來の文化を綜合大成したものが所謂實層の文化で此の實層文化が近世肥後文化の基調をなしてゐるものと考へます　更に又横の關係より見ますれば相良文化あり天草文化ありといふ有樣で今日言ふ所の肥後文化は其の形式に於て内容に於て實に多種多樣の色彩に富んでゐるのでありますから之等を研究し具體化することは頗る意義深く且つ極めて興趣多き事業であります

本研究所は斯の如き大事業の實動の中心となり鄉土の歴史肥後文教を構成する具體的事實竝に關係ある文獻等を研究すると共に爲政者、有識者、教育家等の批判認識に聽き之を綜合彙類して或る指導精神に歸一しようといふ遠大なる希望と抱負とを有するものでありまして之が自ら時機の熟することを得ば即ち肥後の教育是となり本會改造の眞の目的を達成することを思念するものでありますから希くば微衷を諒とせられ今後出來るだけの御指導御援助を御願ひ致す次第であります

以上本所設立の趣旨を述べて式辭と致します

昭和十年四月三日　　熊本縣教育會長　赤星典太

祝辭

山崎博士祝辭

熊本縣教育會は、今回、昨年の本月本日、宮城大前に於て催された全國小學校教員國民精神作興大

會に際し、長くも御親閲を拜受し、優渥なる勅語を賜はりたる光榮を永久に記念すべく、新たに肥後文教研究所を設置し、我が肥後文教の傳統を研究調査し、之を國民教育の上に活用し、以て本縣教育の振興を期せらるゝことになりましたのは、其の筈ながら、眞に機宜に適したる、此の上もない美舉で、私共が常に肥後の教育に關して渴望して居た、しかもその緊要のものゝ一つが達せられたのであります。實に御同慶の至りに堪へませぬ。

承はれば、本教育會は、此の研究所の經費に、本會基本財産利子約七千圓の一部を充てられるとの事であります。將來は段々增額さるゝさうだが、現在の額は、此の程開催せられた新興熊本大博覽會が、その經費として七十萬圓を投じたるに比較すると、基本財産利子全體でも、その百分の一に達せぬのに、其の一部と云ふことであれば、その規模の大小と經費の多寡とに於ては大變な懸隔があるが、しかし、其の意義に至りてはいづれが淺いか、深いかどうとも云ひ得ないのであります。本研究所は英語の、Little and good で山椒の樣に小粒でもヒリヒリとした處があります。醫者の治療に使用するかの「ラヂウム」は目にも見えぬ程に小さいものでも、それより發射する光線は、癌腫の如き恐るべき惡性腫瘍の、身體の内部に潜んで居るものでも燒き盡します。又その「ラヂウム」の小塊の紛失した時、之を搜すべき裝置によれば、その放射しつゝある光線によつて、かなり遠方からでも、その所在を知ることが出來ます。此の研究所も、たとひ其の規模は小さくても之より發する力强き光線は必ずや有識者の視聽をひき、又世道人心を荼毒し、思想を惡化せしめんとする何者をも燒き盡すであ

らうことを思ふ時、眞に人寰を强うするものがあり、私共は本教育會の此の事業を祝福すると共に本會に對して深甚の敬意と多大の感謝を捧ぐるものであります。

古來我が熊本は、教育縣であると、他から云はれ、自らもさう信じて居ますが、昔はイザ知らず近時に於ても名實相副うて居るでありませうか。五百年以前には溯りませぬが、かの菊池氏時代に於ては、世は刈菰の亂れに亂れし只中に於て、武時以下の諸將は、兵馬倥偬の間にも、心を儒佛の學に潛め、爲邦、重朝の代に至りては教育を一國に普及せしめ、名教を千載に維持せんとして、文明四年には孔子堂を建て、釋奠の禮を行ひ、一藩の將士を集めて聖學を講究し、其の嚮ふ所を知らしめたので文運燦然として耀き、菊池の鄕は東肥文學の淵叢たるは勿論日本唯一の學問地と稱せられました。當時日本第一流の學者で、彼れの學流は薩藩文教の源流をなし鹿兒島の武士道は彼れの學風によつて起つたと稱せらるゝ、かの桂庵禪師も、この菊池に來つて、薩摩に行く迄約一ケ年滯留した位でありました。

次に加藤氏時代は、藤公の治世期間が頗る短かつた上に着任後築城土工等の民治國防に忙しく、教學の普及に力を竭す遑がなかつた、それでも流石は一世の賢君で、那波道圓、僧一鵬等の學者を招聘優遇しなどして、決して文教を怠にすることはなかつたのであります。

次で細川氏時代に至つては、忠利公入國以來文教の上に心を注がれ、有名なる學者も多く出てゐますが、重賢公の代に於ける教學の振興は、肥後の文教史上眞に劃期的であります。公は國を興すは學

を興すにありと云はれて當時財政の窮迫せるにも拘らず、文武教育の機關として時習館及び東西兩樹を、醫學教育の機關として再春館を建設し、學制を整へ、文教の興隆に力められた爲に、それ等の教育機關を中心として文教の氣運全藩に横溢したばかりでなく、他藩より笈を負うて來り學ぶ者踵を接し、他藩にして範を此の館樹にとりたるものも亦少くありませぬ。兩館は百十有餘年間繼續し、その間幾多の偉材輩出し、肥後教學の興隆に對しては申す迄もなく、日本文化の進展に寄與したことも甚だ多い。細川氏時代の文教は、日本一と云へば或は溢美かも知れませぬが、九州一であつたことは確で、當時九州文化の中心は實に肥後でありました。

明治初年に至り、時の知事公は天下の大勢を達觀し、歐米の長所を採りて文化を進めんが爲に、時習館を壘置きて熊本洋學校を開き西洋醫學を興さんが爲には再春館を壘置きて古城醫學所を設けられたが、明治五年學制の發布によりて、全國の學校すべて廢され、更に新學制により立直すことになつた結果、兩學校の生命も僅かに數年間であつたに拘らず、明治の文化史上に燦然光輝を放たしめ、全國的に有名な人物及び醫家をも多數輩出せしめました。

維新以來天下統一の政治が布かれ、從つて教育も亦上記の新學制で統一さるゝやうになつてからは肥後の地方的個性、ことに文教の特性も漸次薄らぎ行く觀がありました。それでも私のはじめて熊本に來ました明治三十四五年頃は、尙ほ縣民一般に教育を尊重し、質實剛健の氣風は儼存し、諸學校に獨特の校風ありて、如何にも教育縣であると首肯せしめました。

然るに私は、大正五年名古屋に轉任し、十ケ年の星霜を經て再び熊本に歸つて來ましたが、其の間肥後の教育には多少變化を來して居て、反つて非教育地と云はれてゐた名古屋の教育よりも、或る點に於ては劣つて居るのを目擊しました。それで私は無躾にも、ある公會の席上で、熊本の人達は、教育地と云ふ座蒲團の上に胡座をかいて居睡りをして居らるゝではないかと云つたことがあります。それを聞いて、あまりヒドイと憤慨された方もあつたが、さう云はれても仕方がないと首肯された方も少くなかつた。私は、其の後熊本の教育につきては心ひそかに憂慮してゐましたが、熊本縣教育會は此に見る所あり、昭和五年に至りて、當時の會の實狀に鑑み、大改造を斷行し、基本金蓄積に着手し赤星氏を會長に推戴して、大に爲す所あらんとせられました。私共は之を見て、深く其の機宜に適したるを喜び、本縣教育會の將來を祝福すると共に、大なる期待を以て會の活動を眺めて居ました。然るに爾來數年、本會によりてなされたる努力の跡には見るべきもの少くなかつたが、果して會の改造の精神及び抱負が着々貫徹されたか、特に縣當局、教育家、有識者の三者が打つて一丸となつて擧縣一致の輿論を作興して所謂肥後教育是を樹立すると云ふに至りては、我々の要望を充たす何物があつたか、聊か疑なき能はずでありました。

然るに、昨年六月九日、市公會堂に於て、本教育會總會は三千五百の會員集まり、實に稀に見る緊張そのものゝ如き中に開かれました。その際決議されたる宣言書は福富視學官によりて音吐朗々讀み上げられ、我々の耳孕を貫きましたが、その中には

由來本縣教育は光輝ある傳統を有し、天下の教育縣を以て自ら任ず。茲に吾等は本會改造の精神に則り、其の抱負を遠大にして結束を鞏固にし、一層肥後文教の精神を發揚せむことを期す

と云ふ文字がありました。これは私共の本縣教育につきて、夙に抱懷し或は杞憂せる所と全く相一致しますし、又その會合席上に於ける赤星會長の告辭も、熱あり力ありて、私共の意を强うするものがありましたから、私共は更に又教育會諸君の熱意と誠實に信賴して大に期待する所があつたのであります。

果せる哉、本教育會は、今回、私共の期待に背かず、右宣言の實行に着手せられました。本會は是迄とても、私共が周圍からヤキモキした以上に、其の抱負の貫徹に向つて進まれたかつたでありませうが、裸體で道中はなりませぬ。經費支出の途がなくては、いかに抱負ありと雖もそれを實現することは困難であつたでありませう。されば、本會は、今回いよ〳〵其の基本財産の利子を使ひ得るやうになるや否や、猛然として肥後文教研究所を開設し、改造當時に宣明せられた抱負を着々貫徹さるゝことになりました。私共はいよ〳〵我意を得たるものとして、覺えず快哉を叫んだのであります。

方今我國人心の弛緩頹廢は實に寒心すべきものがあります。之を作興するには一に教育の力によらねばなりませぬ。故に上は皇室より下は一般國民に至るまで、教育に期待する者頗る大なるに拘らず現今教育界には、他の方面に生じてだに大に忌むべき不祥事件が、却て踵を接して續出するの感あるは、眞に慨歎に堪へませぬ。此の際天下の教育縣と稱せらるゝ此の地にあるものは、何人と雖も特に

心を教育の上に注がねばなりませぬ、否進んで、その文教をして愈々倍々光輝あらしめねばなりませぬ。横井小楠の詩にも

神知靈覺湧クコト泉ノ如シ。　作意ヲ用ヒズ自然ニ附ス。　前世當世更ニ後世。　三世ヲ貫通シテ皇天ニ對フ。

と云ふのがありますが、我々は天賦の靈知を以て前世に繼ぎ、今世に盡し、更に來世を開かねばなりませぬ。光輝ある傳統を有する肥後の文教も、前人より之を受け繼いだ我等は、之に益々光輝を添へ更に之を後人に讓らねばならぬのであります。近時は、熊本をして或は產業都市、或は商工都市、或は觀光都市たらしめんとして努力してゐる。これは都市の發展上大に奬勵すべきは勿論であるが、私は『產業』『商工』『觀光』を光輝ある傳統を有する『文教』と對等の位置に置くことすら少々イヤな氣がするのに、『文教』がこれ等のために片隅におしよせられる樣のことがあつたら、それはたしかに不快であります。文教の振興、教學の興隆と云つても、矢張手ブラや裸體では出來るものではありませぬから、『產業』『商工』又は『觀光』を奬勵して縣、市を富まして、その財源を以て『文教』を培ふと云ふ立前にありたいと思ふ。長い過去の歷史から云つても、環境から云つても本縣人の氣質から云つても、肥後は何處までも『文教』を地方的個性として長養發揮したいと思ふのであります。

本會が今度設立された此の研究所にては、追々肥後の教育是を樹立して、肥後人士の欟ふべき方向を示さんとして居らるゝ眞に有意義のことであります。菊池氏時代に於て、かの菊池氏の一族は隨分

多數であつたが、一人として心得違ひの者なく、皆名利の念を超越して、身を鴻毛の輕きに比し、王事に奮鬪して忠節を抽んでたのを見ますと、菊池時代の教育是が何であつたかゞ窺ひ知られます。加藤氏時代に於ては、其の文教の普及は見られなかつたにせよ、論語を愛讀した藤公が、その泰伯篇の託孤寄命の章卽ち　以て六尺の孤を託すべく、以て百里の命を寄すべし、大節に臨みて奪ふ可からず君子の人か君子の人なり

に感奮激勵し、以て豐家の遺孤を庇保したその清風高節は加藤氏時代の教育是ではありますまいか

細川氏時代には、靈感公は、時習館教授の秋山玉山を召されて

汝は國家の大工殿じやが、外に賴む事とてはなし、我がまつばりの若き者共を導きくれるには一所に橋をかけぬ樣にして向ふの河岸に渡してくれよ、川上の者は川上の橋を渡り、川下の者は川下の橋を渡り行かば、其の者共廻り道なしに才能をなすべし、とにもかくにも、河向の孝悌忠信の道にさへ橋をかけてもらへば吾用に立つべし、其の橋の掛所は、汝が心にあるべし

と仰せられてゐるが、これはとりも直さず、細川氏時代の教育是でありませう。以上の如く考へ來れば、菊池氏時代より細川氏時代に至る肥後の教育是は、ある者を以て一貫して居るやうであります今後肥後の教育是を定むるに於ては、大に之を鑑みる必要があると思ふのであります。私共は大なる期待を以て本研究所諸君の愼重なる研究を冀ふ次第であります。

終りに臨み、本教育會が昭和五年の改造の精神に則り、遠大なる抱負を實現し、肥後文教の眞髓を

發揮せられると共に、縣民の思想善導の中心機關たらん事を熱望してやみませぬ。聊か所懷を述べて祝辭に代へます。

誰を迎へるか

開所式は芽出度擧行されたが、研究の實動に當るべき人として誰を迎へるか。その人物の詮衡も前記七名の計畫委員に委囑されて、詮衡委員會が開かれた。その時委員一同は恰も申合せたやうに異口同音に、本縣鄕土史研究界の權威である平野氏を推薦した。併しこちらは望んでゐても、果して同氏の承諾を得らるゝか否かといふことに就ては、委員一同尠からず懸念してゐた。

平野氏

いよ〳〵基本金據置期間滿了の九月末も間近くなつた或る日、私は會長の代理として、平野氏を市外田迎村の自宅に訪ひ、細かに事情を述べて就任を懇請した。すると同氏も本縣教育のため決起して其の任に當らうといふ内諾を得て喜んで歸つた。其の後更に赤星會長と平野氏との會見があつて同氏の就任は確定した。

昭和十年十月一日、肥後文教研究所は平野氏を主任として實動を開始した。同氏は明治三十九年東京帝國大學文科大學國文科卒業後、暫く岡山・福岡兩縣の中學校に奉職し、それより本縣に

歸り中學・師範・女學校などで教育の任に當ること十數年、其の傍ら本縣鄕土史の研究を重ね、『熊本市史』『肥後史談』などの名著があり、先年公職を退いて今は專ら肥後文教の研究に餘念なき人である。この人が主任となつた以上は、十分にその目的を達成するであらうことは、我も人も齊しく信賴し期待するところである。平野主任の就任と同時に本多敏夫氏が書記に任命された同氏は數年の間多良木高等女學校に奉職してゐた經驗があり、特に圖書・文學に趣味をもつ人であるから、本所の事務に當るには實にはまり役である。

目的は遠大

肥後文教研究所設置の目的は實に遠大である。隨つてその爲すべき事業も一朝一夕で目鼻のつくやうな、そんな簡單なものではない。所謂籌すに時日を以てせねばならぬ。幾年かの後には必ずや肥後文教の精華が闡明發揚せられ、これを基礎として本縣教育是確立の域に進み、縣教育の振興上至大なる効果を齎すべきを信ずる。

わすられむ時しのべとぞ濱千鳥
ゆくへもしらぬあとをとゞむる

古今和歌集

教育生活三十年　終

附錄

旅行記五篇

目次

山陰旅ものがたり（大正八年）一
本渡行き（昭和五年）一九
下田遊記（昭和八年）三四
沖縄紀行（昭和十年）四六
鹿島詣で（昭和十年）八〇

附錄

山陰旅ものがたり

（大正八年）

城崎溫泉

八重垣つくる出雲の國へと志し、學校長・町村長打ちまぜて二十數名と共に汽車中の人となり人吉驛を出發したのは五月十七日の夜、もつと詳しく言へば十八日の午前零時を過ぐる僅に十分月明かな夜であつた。

途中は略して直に播但線。名高い白鷺城を左に見て北へ北へと進む。それは丁度熊本城を左に見て走る宮地線に乘つた心地がする。生野に着いた。向ふの高い山の頂から黃色の煙が濛々として上る。あれは精錬所の煙だ。生野は曾遊の地、忘れもせぬ明治四十一年の十月、新聞で始めて

戊申詔書を拜讀したのは生野町の旅館であつたといふ思出多き地、何となく懐かしい。松茸の多かつた事や、宿屋の婆さんが『あなた此の町の學校にお出でなさる先生樣なら下宿にして上げませう。その方が安上りで結構でせう。』と親切に言つて呉れた事などはまだ記憶に新しい。あの婆さん大分年をとつて居たが今も元氣だらうか、それとも既に亡き人の數に入つたらうかなど、一昔前の事に思を走せて居る間に汽車も走りて和田山驛を過ぎて居る。玄武岩で有名な但馬の玄武洞を手に取るが如く右に見て汽車は城崎に止る。今夜は此處に泊る。

言はずとも知れた事、山陰第一の溫泉は城崎である。宿屋の櫛比・手摺の手拭・浴衣の人。溫泉町の氣分を遺憾なく發揮して居る。木の香未だ失せぬ新築の一間に招ぜられ浴衣に着替えるが早いか直に『地藏の湯』に行く。それは連日の汚れと旅の疲れを洗ひ流すばかりでなく、早く湯に入らねば何となく義務が完了されない樣な氣持がしたからである。湧出口を見ないから、はつきりさうとは言へないが純透明ではないらしい。湯槽は町並の地平線よりも二三尺切下げに洗場よりも、猶數尺の深さがある。勝手の分らぬ浴客は這入る時に踏み外してドブン、アツと言はせる。それは踏段の狹いのと一つには浴槽が案外深いからである。浴客は隨分多い。浴客は六つあ

るとの事だが構造は同じ型。お湯には這入つたし、氣はのんびりとなる。先夜來借越しになつて居るせいか、ぐつすり寢入つて目覺めた時はもう日が高い。今朝は昔やんごとなき或る后の宮の御召になつた事があるとかで『御所の湯』と名のついて居るのに一浴して、初夏の朝氣分一層すがすがしく鳥取へ向ふ。

鳥取へ

中國山脈を横斷して居たので、右も左も山ばかりであつたのが段々開けて行く、何となく心持がよい。地圖を出して見るともう日本海が見える時分。ちらり。山と山の間から藍色の一坪ばかりのが見えた。あれが日本海ではないのかと思つて居ると今度は可なり廣い藍色が見えた。愈々だと思ふ内に水や空、空や水、果てしも知れぬ大海原が眼前に展開されて居る。山の眺めに飽いて居た眼は此の一眸千里の青海原に六つの眼球筋を最大高度に緊張せしめた。風靜かなりし爲め鞋鞜岩を嚙む浪の音は聞えないが、難大な壯嚴な感じが胸にぴしりとこたへた。汽車はもう西へ西へと行く。宿の主人から教はつた樣に、鐙驛から三つ目の墜道から出ると直ぐ有名な餘部(アマルベ)の高

架鐵橋である。餘部の村は百三十六呎の下に小さく赤瓦の屋根を並べて居る。長さは一千十九呎あるとかで暫くの間は宙に飛んで居る氣持がする。途中岩美驛に下車して日本海岸の一漁村田後村に立寄り、村長から漁村經營の一般を聽いて夕方鳥取市に着き、新因幡屋に埃だらけの靴をぬぐ。

鳥取市は舊池田氏の城下山陰道屈指の都會だと謂はれて居る。東北に久松城址を背負つて居る工合はよいが、町は極めて寂しい火の消えた處の樣に見える。唯舊城下であるのと、縣廳所在地といふことだけで現狀を保つて居るらしい。

翌日市內の遷喬小學校を見る。校長は未だ不惑の年に達しないらしい若手、聞けば三年ばかり前、附屬小學校から拔擢されて此の椅子を占めたとのこと。『東に群馬西に鳥取』とは我が國現時に於る小學校體育の兩大關だとは、前から雜誌なり人の話なりで見聞して居たので、此の學校は其の大關と謂はるゝ鳥取縣の體操の代表者として見たい積りで來たが、實際は豫想以上であつた。初めに見たのが橫川といふ年の頃二十三か四の女訓導、凜々しい中に溢るゝばかりの愛情のある先生、子供は尋常三年、三年とはいへまだ二年の拔殼がやつと取れたばかりなのに、步調と

いひ態度といひ堂々たるもので、體操も遊戲も極めて活潑に規律正しくやつて除けた手際は實に鮮かなものである。それから又六年の女兒、此の校創作の白い運動服甲斐々々しく要領を得た體操は實に素晴らしいものであつた。何しろ日本で一か二といはれる程あつて、此の校の體操はものになつて居ると見受けた。

此の學校で體操以外に珍らしい事が一つある。それは四十五年勤續の女先生榎並訓導の居られる事である。同氏は十四才の時授業生とやらいふ名目で本校に教鞭を執ることゝなり、爾來四十五年一日の如く孜々として勉めて居るとのこと。校長の話によると縣下教員の勤續年數を調べて見て、此の女先生が一番長いとの事である。好奇心といふと失禮だが授業を見たいと思つて其の先生の教室に入る。受持は尋常一年の女子、教科は國語讀み方、教材はツルトキツネ、莞爾として從容逼らず、着々と授業が進む所は實に手に入つたもの、袖のさばきしとやかに机間巡視などやられる姿を後から見ては、是が五十九のお婆さんとはどうしても受取れぬ位、それもその筈、此の先生は決して年寄だからといつて若い者のすることをせずには濟まさぬとのこと、職員の體操演習があれば自分も必ず加つて、手を擧げ足を出して若い者同樣、運動會の職員競走にも襷十

字にあやなしてスタートに立たれるとの事である。聞けば長男は京都の醫學校を卒業して、今研究科在學中であるから、其人が開業し、先生も六十一才の還曆を迎へて後、潔よく教職を退くといふ話。應接室には四十年勤續祝賀會記念の等身大の寫眞が掲げてある。

仇打で名高い荒木又右衛門を市内玄忠寺の墓前に弔ひ急ぎ足で停車場に驅けつけ米子へ向ふ。

御來屋の古跡

中國の雄伯耆の大山は天氣の都合ではつきりは見えなかつたが、船上山を左に見て汽車は米子に停る。此處に下りて一泊す。米子町は鳥取縣の西端、右に夜見が濱、左に中海の絶景をかざす半島の附根。そして最も將來ある町、而も此の附近は土地開け沃野連り、子供の時から想像して居た山陰とは全く別物の感じがする。境線の分岐點ではあるし、將來陰陽連絡の第一歩は先づ此の米子を中心として始まるだらうとは誰も推定するに難くない事である。米子は實に活々として居る。將來を有して居る。鳥取市とは比べものにはならぬ。

翌朝は汽車で、もと來た道を引き返し、其の名も床しい御來屋驛に下車す。驛前の道を左に取

り行くこと丁餘の所に元弘帝御着船所の記念碑がある。直ぐ其の後の海岸に一坪ばかりの岩がある。此の岩こそ元弘の昔後醍醐天皇が隱岐の島より名和長年に奉ぜられ、やつとの事に本土の海岸に着御遊ばされ、御腰を掛けさせ給ひしといふ『御腰掛の岩』である。近くは此の記念碑との岩る見、雲煙渺茫の遠くに隱岐の島山を望む。身は今埠頭に立ち思ひは元弘の昔に馳せ、低回顧望感慨無量。去りて名和神社に詣づ。

別格官幣社名和神社は元弘の忠臣名和長年を祀る。所在は名和村の一丘陵の中腹、明治十一年の創建で境内は長年の生地、社前數丁の兩側植うるに櫻の木を以てす。鬱蒼として枝を交へ陽春の候には花の墜道をなすといふ。忠臣の社前に山櫻實に相應しい。宮の構へは宏大といふ程でもないが白木造りの神々しいお宮、七百年の昔山陰忠臣の英靈陸離として八絃を照すの感がある。

宮を出でゝ附近の養良補習學校を見る。織機十數臺を並べ專門家の指導の下に前垂掛の生徒が一心に機を織つて居る。染色の教室もあれば洗濯室の備へもある。男子には農業實習地は勿論農業教授には少もし差支ない設備至れり盡せりとも謂ふべきか、一種職業學校の觀がある。此の附近の補習教育は實に徹底して居る。本氣でやつて居る。從つて成績も大に見るべきものが多い。

校長から考古學上の話を聽き、又古器物數百點を見せて貰つた。熱心なそして造詣深い篤學の士、第一師範の角田先生と一緒に熊本縣の古蹟を調べた事もあるといふ話も承つた。校を辭して愈出雲の國へ、歴史の國へ。

松江

淀江驛から西へ行く汽車に乘れば、歌で名高い安來節一名出雲節の本場でもあらうと思はれる安來の驛を過ぎ、中海を右に見て廣い平野をひた走りに走りて松江市に着いたのは午後の三時すぎ。

先發の坂本兎田村長から『少し取込み中で』と斷られたのを無理に賴んだといふ話を聞きながら、一先づ腰を望湖樓といふ宿屋に下ろす。此の宿は名詮自稱、宍道湖の大半を一眸の下に集め得る景色のよい館である。時間を經濟的に消費したいとあつて、澁茶に喉を濕して町内の見物を兼ね縣廳へ行く。

展望開濶、山紫水明、松江市はほんとに氣に入つた。宍道湖と中海を相通ずる大橋川に架した

大橋は、古風な欄干式で延長七十七間とか、何時の間にか感傷的な雰圍氣の中に取り込められた自分は、詩的な橋を詩的に渡つて北へ行くと、町の様子が大分違ふ。後で聞けば橋南は重に商家で、橋北は官衙學校で占めてゐるとのこと。えらい構への縣廳へ入つて見る。中々立派なもの、廊下續きに國會議事堂を縮小した様な縣會議場などは大いに振つてゐる。用を濟してお隣の物産陳列場をのぞく。算盤・樂燒・八雲塗・瑪瑙細工などは目を引くが、其の他は大したこともなかつた。

松江城、一名千鳥城の城趾は今公園になつてゐる。この城は慶長年間堀尾吉晴、能義郡富田城をこゝに移し、經營五年にして落成したもので、城濠は緩くめぐり、石壁十丈、青松高く蒼樹を抽んで、天守閣は今猶巍然として雲表に聳え當市の一美觀であるのみならず、宍道湖も此の城の爲に一層の風致を增してゐる。五層樓上に昇れば松江の全市は申すも愚か、左手に大山の雄姿を望み、右手に湖畔の風景雙眸の裡に收め得る處、拙い筆では到底盡し難い。松江は實に美しい。清い峻烈なセンチメンタルな氣分がひし〳〵と胸に迫る。

歸りに何か記念の品をと瑪瑙細工屋をのぞけば實に立派なものばかり。特に青瑪瑙は天下一品

神代の古より製玉の技が連綿として傳はつてゐるとのことであるが、値段も中々張つたもの、欲しいものばかりの中から帶止とかんざしを求めて宿に歸る。今夜は慰勞かた〳〵一行懇親のため小宴が開かれた。思ひの外賑合つて出雲名物の安來節も聞いた。

嫁入り

夕食を濟して欄に凭り飽かぬ眺めにあこがれてゐると、何處からともなく明笛の美音が、涼しく湖の彼方の靄の中へ消えて行く。何といふ美しさであらう。優美を通り越して、神々しい嚴かな、そして柔かな濕ひのある美中の美。

寢床に這入らうとすると、女中が來て『お嫁入りです。』といふ。二三名と共に出て見れば玄關には數本の青竹の杖と、十足ばかりの草鞋が並べてある。宿を斷られたのも無理はない。今夜この宿の愛孃が一生一代のお嫁入り、家內中上を下への大騷ぎである。

『まだ時間があります。』といはれても、好機逸すべからず。望んでも容易に得られぬ此の機會、古い國、神の國、分けて緣を結ぶの神樣が鎭座ます此の出雲の國のお嫁入りの樣子や如何に

睡くても疲れても、これだけは見逃してはならぬ。一應室に歸つて時の到るを待つ。

夜の十一時とも覺しき頃になれば、のゝしる聲の喧しきに、さてはと我等一行中の有志十人ばかりが、玄關橫の階段に居並んで見てゐると、十四五人の若者は簞笥、長持、挾箱などを肩にして物々しく並んでゐる。荷宰領ともいふべき一人は袴に草履、定紋打つたる古風の提灯の柄を、白扇と共に右手に握りしめ何彼と指圖して忙しい。暫くして用意整へりと思つたのか、朗かな丸い張りのある聲で

さらば行きます皆さんさよな
今度來るときや客で來る

と面白い節で歌ひ終るとエイ〳〵の掛聲勇ましく順次に荷物は門外へ運び出された。

荷物が出たから花嫁のお出でも餘り暇どるまじとの話、睡たい目をこすりながら待てど中々のこと。仲人らしい人の心づくしのお茶も飲み飽き待ちあぐんで居ると、どうやらそれらしい氣配がする。今度こそはと浴衣の衣紋繕ひて見てあれば、年の頃十八か十九の嫁御寮、上から下まで白裝束、顏も白く塗りたてたれば、それこそ純白の裝ひ、唯黑いのは髮の毛と帶止め一つ。うつ

むいて玄關にたゝずめば、母なる人はあれやこれやと心づけ、晴れやかな顏付で或は右に或は左に首をかしげて見入る親心、さもありぬべしと涙ぐむ。慾を言へば筥迫を一つ持たせたかつたのと、あらずもがなと思ひしは車に乘る時茶色のコートを無理に不恰好に着せつけたのであつた。

豫定の人が豫定の車に乘ると、嫁御寮は無言のまゝ殘れるものゝ『御機嫌よう。』の歡送裡に極めて靜かに、護謨輪の軋るかすかな響を殘して愈々新たなる我家を指して行つた。我等は思はず萬歲を唱へて祝つた。行く所はそもいづこ。迎へる人や誰、我全く之を知らずといへども、一河の流れ一樹の蔭、今宵圖らずも君が門出を君が生家に送る。多少の緣。健かに幸多かれかし。睦じく過せかし。

湖水渡り

秋鹿(アイカ)行きの船は午前八時に出るとのこと、急いで支度を濟まし大橋の袂に行き船に乘る。船は客を三十人位しか乘せぬ小蒸氣船、石油發動機で進行し始める。だん〳〵中程に出ると左手に嫁が島を望む。嫁が島とは如何なる人の名づけしにや誠にふさはしい。湖中の小嶼で袖が浦に相對

し、周圍は來待石を駢列して、波浪の浸蝕を防いであるさうだが、遠く望めば湖上に一つの線を引いた樣に見えて、今二三寸も增水せば流れ失せさうな風情、併しその上に數株の松と石の鳥居が、極めて配置よく陣取つてゐる眺めは又格別の趣、所謂瀟洒たる風景は實に宍道湖の點睛である。發動機の音につれて船は東北に進む。水波渺茫として盡きざれども荒波一つ立つではない、しつとりした落付いた眺め、自分ながら畫中の人となりすましてゐると、美しい聲が潺々たる漣の音に和して流れて行く。歌の主はと顧みれば同船の客、こは面白しと耳を欹てゝ聽く。歌の文句は

宍道湖水を鏡に見立て
雪で化粧する出雲富士

仙臺の『さんさ時雨』、球磨の六調子と共通な或る旋律を持つ歌曲で、たしかに出雲氣分、湖水氣分が產んだ優美な古雅な俚謠である。聽きながら見るともなしに後を見返れば、富士そつくりの伯耆大山は霞の裾に綿帽子、優しい內に氣節ある凜とした英姿を、思ひ切つて晴れ渡つた青空の中天に現はしてゐる。湖水眞に鏡の如し、山と水、水と山、繪か歌か、美といはんか詩といは

んか、眞に之れ絶景。

遙かの向ふに鷗かと疑はれし幾つかの帆掛船は今吾が乘る船と摺れ違ひに走つてゐる。舊式の帆をかけて左手緩かに帆綱とる船頭が、煙管片手に鼻歌で胡座かいた其の樣は實に天下泰平、出來ることなら自分もあんな帆掛船で、此の湖を渡つて見たいと彌が上にも慾が出た。

一時間以上も經つて秋鹿の港に着き、艀船に擁せられて陸に上り直に學校に行く。校長の姓は福原、碧雲と號し、特に國學の造詣深く、過ぎし大正四年文部省が御即位の大禮奉祝歌を全國に募集した時、氏は應募して二等の榮冠を得たといふ名譽ある人、この村の人で此の校に奉職すること既に二十年近く、德化普く鄕黨に及び、村民齊しく校長を德としてゐるとは役場の人達の詐らぬ話。道理で小學校・補習學校・青年團・處女會の各方面とも中々の成績を收めてゐるらしい。この人に歷史又は農業に關する數種の著書があるのは、敢て不思議ではない。島根縣の補習教育は一層徹底してゐる樣に見受けた。

歸航の纜を解きしは蘆の若葉の夕風にそよぐ頃なりしと記憶する。

大社詣で

朝霧が湖の全面をかすめて松江市が未だ全く眠から覺めぬ頃、思出多き宿を出て汽車に乘る。暫く湖畔を走りて宍道驛に着く。此處で輕便線に乘り換へて南へ走り大東驛で降りて海潮村へ赴く。この村は內務省から表彰された模範村だけあつて、總ての事が整頓されてゐる。素盞嗚尊、稻田姫命を祀る須賀神社も此の村にある。その昔素盞嗚尊が八岐大蛇を斬つて明眸星を欺く稻田姫を娶り、我が心淸々しと宣ひ、宮居を此の地に定め給ひし時、彩雲立騰つたので『八雲立つ出雲八重垣つまごめに、八重垣つくるこの八重垣を』とよませ給へりと言ひ傳へられ、その宮の名を須賀と言ふは淸々しより起つたものだと聞いて是非參詣したかつたが、時間のゆとりのない悲しさに、又の御緣とあきらめて元の道を引きかへす。

宍道・庄原・直江の驛を過ぎて斐伊川を渡る。古の簸の川である。あまり深くはない。白い砂がざら〳〵して、降りて遊んだら氣持がよささうであるが、この川上に大蛇が居て手名椎・足名椎の翁媼が稻田姫を擁して目を泣き腫したかと思ふと何となくぞつとする。いやそれは遠い遠い

昔のことだ。

この附近は所謂籔川平原で中々廣い。農家も裕で或る部落は四十五戸中、倉を持たぬは僅かに四五戸だとは、お隣りの人の話である。家の北と東とに防風林を植ゑ込み、それが棟より高く、而もそれを奇麗に摘みつけてあるので、丁度小さな島が澤山浮んでゐる樣にも見える。祖先傳來の家と梓、それがよく折合つてゐる。かうなると我が家といふものが一層懷しくなつてくるだらうなどゝ思ひに耽るうちに出雲今市を過ぐ。左の小高い丘の上に女子師範の校舍が見える。師範四年の時、法制を敎へて下さつた森山辰之助先生は、今此の校長でゐられるが御伺ひする暇もない。

大社驛に着くと、袴を着けて紫地に屋號を白く染め拔いた小旗を持つ宿屋の客引きが澤山並んで、客を呼ぶ有樣は伊勢そつくりである。丸一旅館竹野屋といふ永い名の宿に着き、疲れた足を思ふ存分踏み延ばして寢る。

主人の注意で朝飯を濟して直ぐに大社に詣づ。神門通りを過ぎ宇迦橋を渡れば本邦第一と稱ふる高さ七十五尺、出雲大社と書いた大扁額を掲げた鐵筋コンクリート造りの大鳥居がある。之を

過ぎて小坂を下り、老松にさしばさまれて翠色滴る參道を行けば靑銅の大華表がある。この華表の內こそ即ち官幣大社なる大國主命を奉祀する出雲大社の神域である。後には老松鬱蒼たる八雲山を負うて境內廣濶、老松古杉天に冲する所三千年の昔を偲ばせ、社殿宏壯偉大、神威赫燿自ら襟を正す。昔は宮殿の高さ三十二丈といふ宏大無比であつたものを、後世十六丈の宮制となり後齊明天皇の時更に八丈を正殿式とし、所謂大社造りとて他のお宮とは其の趣を異にしてゐる。

お宮の前を左に取り橋を渡り千家國造館に至る。更に大社敎の本部に至れば神殿の神々しき前に坐らせられ、神樂があり御酒など戴いて元の橋をかへる。左手に小さい祠、長屋建ての樣な社が澤山並んでゐる。これは他國では神無月、出雲の神有月に日本國中の神樣達が本社に御集合なさつて色々の御相談をなし給ふ時の御宿である。

美しい淸水で手水を使ひ漱ぎ、八足門の前で參拜を終へて拜殿に上る。神宮三四人で神樂を奏すれば之に和して白衣緋袴の可愛らしい巫女が振る鈴の音は、太古の響を含んで何となく神嚴の感に打たる。土器で神酒を戴き神米を紙に包んで拜殿を下り寶物館などを見る。

稻佐の濱に行く。德富健次郎著の『死の蔭に』に、『太古高天原の御使二人が劍を砂に突き立て

〻大國主に打向ひ、國を渡すか、渡さぬか、返答如何にと高飛車に出で、どつかと計りあぐらをかいた稻佐の濱が此である。否？然？の濱、やがて稻佐の濱だ』と書いてある。澎湃たる濤は岸に韃！韃！と打ち寄する。此の海は此の濤は、遙か向ふの朝鮮に續いてゐる。一衣帶水とは言へまいが、海續きのお隣りは昔の新羅、今の慶尙道、神代からあの國と交際があつたといふ話は萬更うそではあるまい。

休日であつたが、せめて校舍だけなりともと思つて杵築町小學校に行く。校長の案內で校舍を一巡し施設の一般を聽く。構造が頑丈で大きなところは、大社のある町の學校として誠にふさはしい。大社の森は後に見える。

伊勢にも參拜した。熱田神宮にも詣でた。遠くは奧州一の宮壇竈神社にも參拜した私は、是非一度は大社へもとの念願玆に叶ふた其の上に、古い國歷史の國に旬日を送ることが出來、淸々しい善い氣持で或る大きなみやげを持つて火の國の古巢に歸つた。

（終）

本渡行き

（昭和五年）

本渡へ行くのである。それは明三十一日から二日間に亘つて開かるゝ、天草郡教育支會の總會の御模樣拜見の爲に。

際崎に着いたのが午後三時半、四時出帆の本渡直行の琴平丸には、もう四五の客が甲板のベンチを占めてゐる。永野幸時君の姿も見える。同君は二師附屬時代の同僚、この三月葦北田浦の首席から拔擢されて天草維和の校長となつた人で、ロイド眼鏡も校長らしい輝きを見せてゐる。仲光君の噂をすれば影とやら、何時の間にか傍に坐つて挨拶をしてゐる。一師を卒業して直ぐ維和の學校に奉職旣に四年目、子供時代の茶目振りを知つてゐる私も、七八年ぶりに逢つて堂々たる先生振りには、ちよつとびつくりした。同校の村崎君其の外女先生も二三人あつて、一人旅の筈であつたのが大連れとなり、永野君が三角驛から仕入れたといふ大きな枇杷を御馳走になりつゝ船は南へ南へと進む。

天草支廳長さんが『此の景色は天下一だ。』と褒められたといふ山上に聳ゆる維和の新築校舍を遙かに望んで行く手に、二隻の發動機船が相前後して進んで行く。これこそ數年前から競爭して今に妥協しない九汽と個人經營の合津、大浦通ひの船である。前者は料金一錢で、後者は『お思召し』の無賃同樣ださうで、私が聞いてからさへ二三年にはなると記憶する。雙方大した損害であらう。何とか話合がつきさうなものだと他人の疝氣を頭痛にやんで柳浦を過ぐ。

話にも景色にも飽いた私は、折鞄の中から『此一戰』を取り出して讀む。日露戰爭が濟んで滿二十五年、東京は言はずもがな、熊本でも二十七日には祝賀會やら催し物などがあつた。一度讀んだ本ではあるが、二十五年記念で更に感興を新たにした私は、今又此の本を讀んで肉の躍るを覺ゆる。著者水野廣德氏の文章は體驗を基礎としてゐるだけ妙味と力がある。

六時に着くべかりし筈のが三十分遲れて六時半に大矢崎に着いた。道理でいつもよりも船脚が少し遲いと思つた。

自動車で本渡町に着いて、昨年一度泊つたことのある茶碗屋の玄關前に下車して見ると、赤緒の下駄や女持の蝙蝠傘が澤山ある。宿のおかみさんは合宿ならばよろしいといふが、主人は澁面

作つて謝絕の意を表してゐる。無理に相談する必要もなく、其の足で喜久屋に行つたら、女中とおかみさんが快く迎へて呉れて嬉しかつた。實は松下君と加賀山君には來意を告ぐべき筈だが、今夜是非せねばならぬ持越の仕事があるのと、一つには開會前主催者側の多忙は充分推察されるので、御邪魔してはとの氣兼ねから、失禮とは承知しながら本渡の小學校に電話したばかりで仕事に取りかゝり、十二時近く眠につく。

◇

朝寢坊の私は何處の宿に泊つてもなす樣に、前夜寢がけに女中に『明朝は七時に起して呉れ』と賴んで置いたが、今朝はどうしたのか、女中から起される前に目がさめた。併し東側の丸窓からもう朝日の光が眩しい程さし込んでゐる。時計を見たらまだ六時半。今一息寢ようかとも思つたが、思ひ切つて起き上り讀みさしの『此一戰』を讀む。

朝飯の最中に電話のベルが鳴る。松下君から昨夜無斷投宿をさん〳〵になじられて、やつと箸を取ると又電話。今度は加賀山君である。要件は松下君同樣で、最後に『人が惡い』と一喝し、何分の沙汰あるまで其處一寸も動くべからずとの嚴命である。暫くすると兩君の旨を受けた本多

君が迎ひに見えたから、一緒に會場たる本渡小學校へ行く。

本渡小學校は今は大分縣事務官の九谷新藏氏が町長時代に大規模に擴張新築したもので、縣內稀に見る立派なものである。すぐ休憩室に入ると、支會長である天草支廳長の小坂事務官を始め來賓としては本多少將・寺本天中・盧野本渡高女の兩校長・大村本渡町長・八田郡醫師會長・岡部商工會長・宮崎神職會長・江九日・田口福日・吉見みくにの各新聞記者其他の町村長などで室も狹きを感ずる有樣、特に私の心を强うしたのは郡教育界の先達、吉田・宮崎・增田などの諸氏が遠方から態々來會せられてゐることである。近時縣の內外に名聲を馳せてゐる天草教育の基礎は、此の人達によつて築かれたことを思うて尊敬の念一入なるを覺ゆ。

午前九時、振鈴と共に加賀山副會長に伴はれて會場に行くと、あの廣い講堂に一ぱい、而も整然として六百にあまる會員がずらりと列んでゐる。緊張の氣堂に滿つ。

東方遙拜・國歌合唱・勅語奉讀の順序に、いと嚴肅に進行して縣教育會長の訓辭に至る。會長訓辭の持合せがないので其の旨司會者たる副會長に斷ると、持合せがなければ個人としてよいから一言述べよとのこと、そこでほんの一言を述べた。

次が支會長の告辭である。小坂會長は先づ教育の概論からして教育進展の爲めに努力を促し、本年三月末の教育異動の大體方針を述べ、教育費を說いて教育者の省察を求め、日露開戰當時の御前會議の模樣より國民の覺悟に及び、更に教育者特に本郡教員として進むべき方途を諄々として或は諭し或は誡め、引例古今東西に亘り說く所理路整然、實に至れり盡せりである。會員は齊しく耳を欹てゝ傾聽してゐる。正に教育の大演說である。告辭の梗概は請うて雜誌『熊本教育』に揭ぐることにした。

それが濟むと表彰式に移り、教育功勞者として池田御領村長・園田一町田村長・藤波大宮地校醫・二十個年勤續者として長尾深海校長・野口宮地校長・石井大道校長・錦井樋島校長・宮崎櫨宇土校長・十個年無缺勤者として赤藤二間戶校准訓導の諸氏の功績を表彰し、大村本渡町長の祝辭、園田村長の答辭があつて會員談話に入る。

會員の發表は次きの題目と順序とで進んで行つたが、特に感じたのは發表者の總べてが皆發表要項を謄寫して、前以て會員全部に配付してあつたことである。それが一枚紙のばかりでなくて一人分十數枚の多きに達してゐるのもある。それを手にした私は其の眞面目さに先づ敬意を表す

る。どこでもよく見受けることであるが、會員發表の場合に所定の時間が來て話が濟まないと『まだ言ふべきことは澤山あるが、時間がないので是でやめる。』といつて壇を下るものが多い。ところでどんなことを言ふべき筈であつたかは聽いてゐる者には少しも分らない。けれども、かうして要領を刷物にして配つて置けば、發表の時間は不足しても、言はんと欲する所は大概窺はれる。これは話す人にも聽くものにもまことに結構な用意である。

指定題

小學校　最も苦心せる學級經營の經驗談　上津浦校訓導　平島喜久雄
補習學校　我が町村の實情に即したる實習地の經營方案　本村農公校教諭　緒方政彦

發表順

小學校指定題　今津校訓導　貝川秀松
補習學校指定題　河内校訓導　久保田エイ子
國史教育實際の一面　大江校訓導　西田芳人
小學校指定題　御領中國校教諭　吉田耕逸
同
補習學校指定題

同　久玉校訓導　藤村イク
小學校指定題　牛深校訓導　浦壁安男
同　楠甫校長　續光雄
補習學校指定題　富津實公校教諭　兵藤末喜
小學校指定題　上村校訓導　川上ミツ
低學年讀方教授の實際　宮田校訓導　島野黨
初學年に於ける假名指導に就て　本渡校訓導　小川涼
我が校學級經營の目標　富岡校長　山下五八郎

發表は次ぎから次ぎへと進む。中々立派なもの。併しいくら立派なお話でも、それが永く續くと飽きが來るのは人情の常である。會場に幾分倦怠の色が見えかゝつたのを洞察した司會者は、突如として飛び入り五分間演說を許した。

其の第一席を承つたのが福岡下浦校長である。今年拔擢せられて校長となつた新進氣鋭の士、ペスタロツチ式の容貌で言々皆肺腑より出で、聽く人を動かさずんば止まない熱がある。言ふ所は女子美術教育の必要で、而かも措辭巧に辯じ立てたから、生氣の色俄に會員の面持に現はる。

私は曾て師範訓導時代に堀川視學に招かれて、天草一圓を十日掛りで授業して廻つたことがある坂瀬川校でも尋一の讀方と尋五の算術の授業をしたとき、其の尋五の實力のあるのには、ほとほと感心したが、其の擔任教師は當年の福岡訓導であつた。それ以來深く印象づけられた同君の發表を聽いて實に愉快であつた。第二席が歴史教育觀、第三席童話研究會の紹介などで再び豫定の會員談話に歸つた。五分間の飛入演說、これはたしかに時に取つての妙策、一服の清凉劑であつたに違ひない。

中食時に私は獨りで校舍内外を一巡した。どこの教室もよく整頓されて一絲亂れぬ所は、たしかに松下校長學校經營の一端が窺はれ、平素の樣子も偲ばれてうれしく感じた。

會員發表がまだ四名殘つてゐるので再開後は直にそれが始まつた。最後に本郡の大校長山下五八郎君は學校經營に就て所信ある經驗を發表した。其の言ふことも誠によかつたが、私が更に感じたのは校長自ら陣頭に立つて範を後進に示す勇氣と氣慨と眞面目さである。深甚なる敬意を表する。

日程は講演に進んだ。講師は先頃來任の天草中學校長寺本直喜氏である『我が國民性考察の一

端』と題し歐米各國の國民性を述べ、我が國・我が縣の民性と比較して結論、會員一同の裨益する所蓋し大なるものがあつたらう。

次に加賀山副會長は、本年の努力點とする學校經營表彰に就ての計畫及び之に對する會員の奮起を促し、續いて閉會の辭を述べて第一日の總會は何等の支障なく本當の意味の盛會を以て終了した。

閉會の少し前に私は次ぎの案内狀を受取つた。

本會終了後本校作法室に於て『女子師範同窓會』を開催いたしますから、何卒御臨席下さいませ。誠によい機會で御座います

尙　志岐校長宮崎先生も富岡首席西村先生も加賀山先生も御出席下さることになつてゐます

加賀山君と共に作法室の入口に差掛かると夥しい拍手に驚いて室内を見廻せば、もう四十路の坂を越したかと思はれる奥樣や、今年卒業の若々しい女先生達が四十人ばかり方形に、ずらりと並らんでおられる。幹事役の寺本みち子夫人（舊姓影山、寺本天中校長夫人）や、本渡校の小川涼子さんなどが何かとお世話なさる。見渡した所、私が女師奉職時代の卒業生は今日は生憎一人

も居ない。けれども同窓會といふ名目のお蔭で何となしに始めから打寛いで何のわだかまりもない。幹事の開會の辭があつて順番に自己紹介・餘興・お菓子など十年昔の女師作法室で何度も出席した時の會その儘の姿である。時代は寸時の停滯もなく進んで行くのに、こればかりは少しも進展の跡を見ない。併し考へて見ると進まぬ所、變らぬ所に價値がある。これがモダン化して仕舞つたら、それこそ困つたことになると思ふ。近い所は其の日歸宅せねばならぬので、一時間半ばかりで女師附の應援歌を合唱してお開きになつた。本渡で女師同窓會に出ようとは思ひ設けぬことであつた。

此の時分から久しぶりに雨がぽつり〳〵と降り出した。明日の體育會に降られてはと心配するのは、會の幹部ばかりではなかつたらう。

◇

今日は總會の第二日で全日を體育會に充てゝある。昨夜の心配は全く無駄になつて日本晴れの快晴、旅館の前の靴屋は朝早くからユニホーム着けた先生達で大賑合である。

朝食を濟まして會場たる天草中學校々庭に行く。男子も女子も輕裝して見るからに勇ましい。

八時開會、福岡君の號令で全員整列、昨年縣教育會主催の縣下教員體育大會に一等賞を贏ち得て、潮風になぶらせて持ち歸つた優勝旗は、輝く朝日に映えて目覺むるばかり。小坂會長の開會の辭、本多少將と私が祝辭を述べ、加賀山副會長から諸注意があつて後、優勝旗を先頭に押し立てゝ場内一巡、元の位置に着いて合同體操、それから各部に分れて運動競技に移つた。

個人競技・團體競技・男女の合同體操等細かに書き立てたら際限がないから玆には略するが、當日はまことに規律整然勇壯活潑、たしかに天草健兒の意氣を充分に發揮した會であつた。

午餐を松下校長の住宅で御馳走になつた。會の幹部も來賓も一緒に。其の時亡友堀田龜太郎君の未亡人と末の令孃にお目にかゝつた。長男の太郎君は今年天中を優秀な成績で卒業して大東文化學院に入學したとのこと、思へば堀田君が佐伊津校長で多くの人の囑望を一身に集めて居る時私は校長住宅に招かれて行つたことがある。それから一週間も經たぬ或る夜、同君は腦溢血症に襲はれて一言の遺言もなく忽然として逝いて仕舞つた。それからもう十二年になる。遺された三人の子女を夫々今日まで育て上げた未亡人の苦勞は決して一方ではなかつたらうなど思ひ廻せば何時とはなしに眼がかすんで來る。亡友の面影彷彿として往來するを覺ゆる。

午前に比して午後は一層の緊張、照りつける初夏の日光も物かはと勇み立つ戰士の姿はまことに凜々しい。今や戰ひ熟して各部會勝敗の數既に定まらんとする時、私は辭して歸途に着いた。

午後三時半發合津行の自動車は、本渡の瀨戸の開閉橋を渡つて北へ進む。

私の養父が死んでから、今年で丁度十年になる。墓は今津村の合津にある。天草出張の度毎に『今度は、今度は。』と思はぬことはないが、どうしてもそれが出來なかつた。今度こそは墓參をせねばと今合津へ向つて行くのである。

下浦を過ぎ、栖本で自動車を乘り換へ、河内校の門前でパンクしたが、それもすぐ修繕が出來て敎良木を通つて合津へ着いたのが午後六時すぎ、乘合自動車としては車體もよく動搖も少なかつた。直ぐ園田君の宅に行つたが、麥收納の眞最中である。惡い時に來たなと思つたけれども仕方がない、今日は舊曆五月五日で端午の節句、お茶と共に出された粽や木の葉に包んだ麥饅頭は又となくうまい。

暫くして闕伽桶の水を提げて墓地に行く。香花を捧げて額づき家族の現狀を報告すれば、あり し昔の事ども走馬燈の如く往來する。立つてあたりを眺むれば七年前建てた石碑の陰の部分はも

う少々靑くなりかけた。早いものだ、五年振りの墓參を濟まして、大きな債務でも果した樣にすがすがしくなる。

園田君と別れて四五の家に挨拶に行く、別れる時園田君から『今夜の食事は宅に用意して置くから』と何度も繰返されたから、必ず參りますと堅い約束をして別れた。二三の家を濟ましてお寺へ行く途中藤澤彌彥氏に出逢つた。久濶を謝すると『今夜是非宅に。』との御厚意、お寺に行き本尊や位牌に參拜して庫裡に行けば、方丈も此處で夕食をとのお話、間もなく藤澤氏が來て今からすぐ宅に行かうと勸める。方丈は留める藤澤氏は勸める。そこへ園田君が來て食事の用意が出來たから歸れといふ。どちらにどうと斷じ兼ねる。さあどうしよう。體は一つで仕方はない。困つたものだ。否困るとは贅澤な言ひ分。こんな困り方は何時でもよい。三人に厚意を感謝して今夜の身の振り方を三人の協議に任せた。遂に藤澤氏のお宅へ行くことに相談が纏つて方丈と共に行く。こんなに多くの人々から優遇されるのも皆祖先のお蔭であるとしみ〴〵感じた。

藤澤氏は當村の人、若くして東京に遊學し志を得て熊本に開業してゐたが、村民の要望もだし難く歸村開業してから既に十幾年間、仁術を施して信望を集めてゐる國手である。子孫繁昌、家

運隆盛、患者踵をついで來るといふ發展ぶり。

にこやかな奥樣に迎へられて客間に通れば木の香新らしい十疊の間、方丈の案內で診察室・手術室・藥局・待合室などを拜見する。その構へ堂々として勝手よく那部には珍らしい程の醫院、而もそれの殆んど全部が新築である。客間に歸ると浴室へ案內される。今夕沸かしたのを私の爲めに全部拔いて新湯とされた歡待には恐縮した。

一浴して浴衣がけになる。心身共に寬いで來る。御馳走が出る。話がはづむ。主人はあまり飲まないが、こちらは相當きこしめす。御夫婦の心からなるもてなしに時の移るを忘れて話し込む。曰く村產業進展策、曰く晩稻栽培、曰く古物掘り出し。ふと氣付いて時計を見れば十一時を過ぐる十五分、立ち上つて自分の服に着換へようとすると、今夜は此處に泊れと留めらる。譯を述べやつと許されてお寺に歸つた時はもう午前になつてゐた。

◇

ごーん、ごーん。夢に遙かに鐘の音を聞く。鐘の音は段々に近づく。はつと起き上つた時はもう梵鐘の音は止んで、かん、かんと響く半鐘の音に變つてゐた。ねむたい眼をこすり乍ら洗面もそこ〳〵に御堂へ行く。あたりは暗く寂として聲なし。それも道理でまだ午前四時である。方丈を始め三人の坊さんが讀みあげるお經の聲は、朝霧を破つて四方へ散つて行く。和して叩く鐘・太鼓の響は一層の莊嚴さを加へる。佛前に額づく私はそれこそ眞の無念無想の境涯にある。『集むる所の功德は天德院寶嚴祖聯居士』といふ聲に、はつと我に歸つて祖先の冥福を祈つた。藤澤氏の切なるおすゝめを無下に斷つて此のお寺に泊つたのは、此の朝のお勤めに參りたいばかりであつた。お經が濟むと御堂も庫裡も雨戶があけ放たれた。併し未だ夜は明けぬ。每朝此のおつとめをする坊さん達の元氣なのには、朝寢坊の私は少からず感心して早起はよいものだと思つた。

朝飯の御馳走を受けてから學校へ行つた。もう授業が始まつてゐる。佐々木校長始め皆の先生にお目にかゝつて學校を辭し、役場に敬意を表して海岸の七福屋に少憩、十時發の發動機船が來たからそれに乘る。前に言つた『お思召の船』である。佐々木校長・方丈・園田君其の他に見送られて四十分足らずて際崎着、汽車に乘り換へて熊本に着き、明麗館で二三の事務を見て歸り、老母に墓參の話をしたら大變喜んで呉れた。（昭和五年六月三日記）

下田遊記

（昭和八年）

午前九時五十分沼津驛に下車した私は、驛前に客を待つてゐる三島町行きの電車に乘り換へたそれは年來憧れの地、下田港に行つて幕末開國の史蹟を訪ねんが爲である。

電車は駿豆鐵道の沼津線であるが、今頃容易に見られない程の舊式で小型な極めてお粗末なものである。東京を西に距る僅かな地點、而も沼津といへば相當開えた都會だのに、之は又何とした事かと思はれた。程なく動き出したが牛歩遲々として動搖も激しい。其の上單線と來てゐるから二三ケ所に行合ひを待ち合せねばならぬ。急ぐ旅には間遠しい。

程なく黃瀨川附近を通る。治承四年蛭ケ小島に流されて臥薪嘗膽の二十餘年を送つた賴朝が北條時政の介添によつて欣然として起ち、平家と一戰を試みんとした時、遠く秀衡の館に寄寓して是も同じく時の到るを待つてゐた義經と、物心ついてから初めての對面に共に相擁して泣き、父義朝の憤死以來一族四散の積る恨みに涙を拂つて語り合つたといふ劇的な記念の土地である。若

し賴朝が此の時の心持をいつまでも忘れなかつたならば、恐らくは源氏の世はあゝまで短くて悲慘な末路には逢著しなかつたであらう。

搖られ搖られて三島町に着いた。其の附近を流れてゐる小川の水の淨らかなこと。針を落しても直ぐ分りさうに澄み切つて勢よく流れてゐる。この水こそ米山甚句などで唄はれてゐる樣に『富士の高根に雪が降つたり積んだり流れたりして、三島女郎衆の手水べにかね化粧水夜明けの醉ざまし』となるのであらう。まことに綺麗な水である。

線路は町の裏を通つてゐるから、此の町の簇華振りは見ることは出來なかつた。併し此處は其の昔東海道五十三次三島の宿であつて、浪曲などで

『やい三ピン。二本差して居やがつて、馬が嫌えだとぬかしやがるか。』

と馬喰の丑五郎が言ひがゝりの啖呵を切つて、遂に詫證文を捲き上げたといふ所謂神崎與五郎東下りの一節を生んだ所であることなどを思ひながら、修善寺行の電車に乘り換へる。

今度の電車は東京の省線電車に少しも劣らぬ立派な物、乘心地もよければ速力も充分。同じ會社經營の物でありながら本線と支線とは斯くも大きな違ひがあるものか。車は威勢よく南へ進む

進む。左手に餘り高くはないが桑の葉の間から頑丈な煙突が二三本見え隱れする。これこそ幕末の英傑江川太郎左衞門が苦心力闘の結果、耐火煉瓦を製造して反射爐を建造し、大砲をこしらへたといふ日本文化史上忘るべからざる偉業の記念物である。

それのみならず此の軌道沿線は頗る史蹟に富んでゐる。一世の風雲兒北條早雲が武威を揮つた韮山城を始め、彼の風前の燈火たりし頼朝が池禪尼の情によつて、やつと一命を救はれて流された蛭ケ小島や、孤影飄然として全國を行脚してよく民情を視察した最明寺入道時頼の墓など、源氏・北條氏關係の史蹟が到る所にある。今でも此の附近に醸造される酒の名も之に因んで、『酒ハ源氏』の廣告が著しく目をひく。もし暇を得てゆつくり此の邊を視察したら、さぞ興味深きことであらう。

間もなく修善寺驛の終點に着く。修善寺溫泉は西の方十五町自動車賃二十錢の近くにある。先年鍬守安太郎君がこゝの校長時代熊本に歸省した時一度遊びに來給へと言つたこともあるが、今は同君も靜岡市外の學校に轉任してゐるし、頼家や範頼の墓も弔ひたかつたけれども時間の餘裕がないので、下田へ直行のバスに乘り移る。東海自動車會社が伊豆一圓に交通網を敷いて經營し

てゐるだけあつて、高級バスで車體も奇麗だし動搖も少い。特に尋ねさへすれば妙齡の女車掌が沿道の事物を齒切れよく說明もして呉れる。

◇

いよ〳〵上り三里、下り三里の天城の嶮を超えねばならぬ。言ふまでもなく天城山は伊豆山彙の盟主で、天城諸峯中最も高い萬三郎嶽は海拔四千六百尺、第四紀噴出の一火山で數多の側火山を有し中央火口が湖となつて八丁池と呼ばれてゐるさうな、車は緩勾配を威勢よく上る。湯ケ島溫泉を過ぐれば廣袤一萬五千町歩の天城御料林に入る。杉・檜・樅・檪などの巨木が、すくすくと伸びて限りなき鬱林をなして居る。この天城山中の巨木の大密生林を眺めた私は、身延山の大森林と思ひ合せて林產日本の偉大さをつく〴〵感じた。更に密生する針葉樹林の間から所々に顏を出してゐる楓の新綠は何とも言へぬ風情がある。秋の紅葉の眺めは又一入ならんなど考へつゝ進む內に、急に冷氣を覺えて來た。聞けば此のあたりは水生地といふ所で天城山中で最も氣溫の低い所で、今にも此所からは天然氷を賣出してゐるとのこと。天然氷は人造氷に比ぶれば比較にならぬ程おいしいとは同乘客の話。

路傍に段々畑がある。よく見れば小石が並べられて其の上を清水がさら〳〵と流れてゐる。そしてそれに山葵が青々と茂り合つてゐる。畑とは言はないで山葵澤といふさうな。沼津や靜岡の驛で販賣してゐる山葵漬の原料となるのであらう。

上り上つて行く自動車はトンネル口に差しかゝつて一時停車して樣子を窺つてゐる。これが天城山頂の大トンネルで海拔二千七百尺、田方・賀茂兩郡の境界をなす天城峠である。四十年前の工事としては定めて難工事であつたらう。隧道內の道幅が行き合ふ自動車を交はすだけの廣さが無いので、先方の樣子を見定めてから發車する。隧道を出るとこれから道は下り坂になつて愈々奧伊豆の展望が刻々に開けて行く。車は氣持よく走り續けて湯ヶ野溫泉に着いた。

此處は伊豆半島東海岸に出る交通の要路であるから暫く停車し乘客に二三の異動が行はれた。それから又上り坂になつたが間もなく下りとなり、稻生澤川に沿うて進み、唐人お吉が五十歲で投身し、數奇なる運命の幕を閉ぢた『お吉が淵』を左に眺めながら進めばピラミッド型に聳えた下田富士と、裸婦の仰臥するに似た寢姿山が眼前に顯はれ、午後二時頃小奇麗な下田町に着き平野屋旅館の一室に腰を下した。

◇

宿から貰つた市街地圖に、女中から聞いた道順を書き入れて直ぐに出掛けた。夕方まで一巡するのには、ゆつくり休息してゐる譯には行かぬ。

第一に了仙寺に行く。門前に賀茂郡教育會の建設に係る日米條約締結の舊趾たるを示す石碑を見て感興大いに湧く。本堂に上つて當時の狀況を想像追懷し、お吉乘用の駕などを見、轉じて境內にある武山閣に入る。こゝには澤山の佛像や、石器時代の遺物、ペルリが國際談判中用ひたといふ曲彔・皿・コップ・お吉の盃洗などが所狹きまでに並べてある。續いて別館に這入つたがこゝの內容は省略する。

了仙寺を出でゝ長樂寺に行く。安政二年ハリスと林大學頭との間に日米條約批准交換の跡として有名な寺。彼の大學頭が外人が腰掛けてゐるのに日本人が坐つて對面しては、國威を傷けるものとして疊十數枚を重ねて其の上に坐り、日本人のまけじ魂を發揮したのも此のあたりであつたらうなど考へつゝ寺內隈なく見て廻つた。露使プチヤチンと川路聖謨とによつて日露條約を締結したのも此の寺であるとのこと。

それから大工町を小川に沿うて下り下田公園に上る。一名城山公園ともいひ、北條の臣清水上野守が豊臣の水軍と戰つた鵜島城址である。天守閣の址から千古の老松を透して大平洋の滄溟を展望することも出來、眼を轉ずれば脚下に下田灣・下田町を俯瞰して、まことに眺めの良い所である。下りがけに我が國寫眞界の鼻祖下岡蓮杖の碑の前を通り海岸に出でゝペルリ上陸の地に到る。上陸地といつても唯一本の松があるばかりで、こゝらの人に聞かねば通りがゝりでは氣付かぬ所である。こんな由緒ある地點には標本でも建てゝ置いたら多くの人の爲になるだらうに。

◇

日暮までには、もう餘すところ僅に一時間と少しである。玉泉寺は町から十五六町も離れた柿崎にある。外の所は割愛しても此の寺だけは是非とも見ねばならぬ。自動車を探しても勝手不案内で見當らぬ。汗を拭き〳〵小走りで急ぐ。

柿崎に着いた。通りから少し左へ這入ると御堂の銅葺きの屋根が見える。『不許葷酒入山門』『安政年間日本最初米國領事館』としてある二つの石碑の間を通り石段を上れば、右に米國總領事タウンゼント、ハリスの記念碑があり、左に屠牛供養の塔がある。前者は安政三年八月六日初

めて大日本帝國の此の一角に領事旗を揭げた其の地點に、澁澤子爵・駐日米國大使などが建設した碑で、前面は英文で建碑の趣意や、ハリスの日誌の一節が記され、裏面には和文で澁澤子爵の撰に成る當年の事情とハリスの苦衷を叙してある。後者はハリス等の食用に充てんが爲めに牛を佛手柑の木に繫いで之を屠殺した即ち我が國最初の屠牛所の其の跡に塔を建てたもので、高楠順次郎博士撰文を銅板に刻したものを塡め込んだある。

寺僧に案内を乞うて本堂内を一巡する。佛壇の向つて右が通譯ヒュースケンの居間、左がハリスの居間で共に八疊である。ヒュースケンの居間であつた室に、ハリスが用ひたナイフ・パイプコツプ・鋏・其の他當時の住職であつた眉毛和尚手記の見聞記・吉田松陰の着衣などがある。

當時佛壇は庫裡に移されて、二人の居間を除く他の室は悉く事務室や應接室に使用されたとのことで、本堂にはストーブの附屬品などが大切に保存されてある。

屋外に出でゝ本堂の左側の小高き所にある米國軍人五人の墓を弔ひ、更に庭前で寺僧の說明を聞き低徊顧望去る能はざるの感あるも、まだ見ねばならぬ所が殘つてゐるから、程近き辨天島へと急ぐ。

辨天島は陸地から僅かに數歩の間にある。コンクリートの道とも橋とも言へるのを越えて渡る周圍四五十間もあらうかと思はれる小さな島。全島白色の脆い砂岩である。頂上には二かゝへも、ある眞柏や槇が生ひ茂つてゐる。島に似合ふた小さな祠は辨財天を祀つてある。社前から左に廻り水蝕作用による洞穴を通り抜けて島を一周することが出來る。

此の渺たる一小島こそ、安政元年三月彼の吉田松陰が金子重輔と共に國家百年の大計を志し、國禁を犯して、渡米の機を窺つた所と傳へられてゐる。

かくすればかくなるものと知りながら
やむに止まれぬ大和魂

親思ふ心にまさる親心
今日のおとづれ何ときくらむ

など思ひ浮べて感慨轉た無量。

沖の方を見れば其の昔黑船が七隻並んで下田港を威壓してゐたといふ地點に、七百噸ぐらゐの汽船が二隻碇泊して黑い煙を吐いてゐる。當時を偲ぶには誂へ向きの情景である。

◇

辨天島を辭した私は下田通ひのバスを待合せかた〳〵道ばたの小店の前に佇んだ。店には繪はがきもあれば寫眞師の看板もかけてある。主人は毎日下田から此處まで通つて遊覽者の需めに應ずる寫眞師である。一言二言交はすうちに心易くなつて、お吉が領事館に行く時一應ハリスの都合を伺ふ爲にいつも待合せたといふ當時ヒュースケンの馬丁であつた新左衞門の宅、ハリスの馬丁の家なども案內して呉れた。そして其の途中『こゝの十間ばかりの道が當時の道其の儘で、これから寺に通ずる數十間の道は先月匡救土木事業で跡方もなく改修された。交通上便利ではあらうが、史蹟の一部を破壞したのは實に惜しい。』と言つた。私も實に同感である。世の人の心すべきことである。

自動車も來ず、寫眞師と語りながら下田へ歸る。今私が往復する道は自動車が通ふ程よい道になつてゐるが、此の道が出來たのは十數年前のことで、ハリス在住の時代は道は無くて渚づたひに往來したものだとのこと、お吉が下田から駕に搖られて、後では徒步で時には跣足になつたりして通つたり、或はやけ酒に醉ひ伏してゐた事のあるのも矢張り砂濱であつたらしい。今も道に

沿うて其の砂濱が長く續いてゐる。

下田町の寶福寺はお吉の菩提寺である。山門を入れば右にお吉の墓がある。これは土地の有志村松春水・俳優松蔦などが先年分骨して此處に建立したもので、立派なものである。香煙縷々として暮色迫る寺の境內に嚴肅味を加へてゐる。墓の前に出店が二軒ある。手拭・羊羹・飴其の他數品をひさいでゐるが悉くお吉の名を冠してゐる。更に寫眞師に伴はれて境內のほんの隅に行くと、大きな公孫樹の下に、見るかげもない小さな墓がある。これがほんとうのお吉の墓である。

美貌に禍されて數奇なる運命に弄ばれ『唐人お吉』と侮蔑の異名を受けて土地の人に指彈され、不遇流轉の五十年、遂に稻生澤川の淵に投じたお吉も、沒後三十年にして初めて知己を得た。劇となり曲となり或は歌となつて津々浦々まで膾炙さるゝ樣になり、彼のハリスの感情を軟らげ日本の對米關係を圓滑有利に導いた隱れたる力が漸く認めらるゝに至つた。今ではお吉のお蔭で飯を食つて行く人が幾人あるか分らない。

昭和八年五月二十三日のたそがれどき、墓前に立ちて故人の心事を忖度追想すれば一掬の涙又禁じ難く、ひとへに冥福を祈つて寺を辭す。歸りがけに記念の爲に手拭數筋を需めた。

女として第一の貞操も捨て、日本婦人としての矜恃も顧みず、唯物質に眩惑され、倫落の女としてさげすまれた一女性の眞事實を世に紹介したお吉の恩人は當地の醫師で特志家の村松春水氏である。寺から歸りがけに同氏の居宅の前を過ぎ、餘所ながら敬意を表し寫眞師と別れて旅館に歸り着いたのは七時過ぎ。一浴して新調の浴衣に着替へた。

私は是まで多くの旅館に泊つたが、どこに行つても私に丁度良い長さの浴衣を着たことはない殆んど總てが短くて氣持ちが惡い。併し是も自分が寸延びであるから、誰に訴へようもなくてあきらめてゐた。ところが此の宿は私の爲にこしらへたのかの樣に長くて着心地がよい。不思議に思つて女中に訊いたら『それは着丈八寸のものです。こゝには時々外人さんがお出でになりますから、何時でも長いものを四五枚は用意してあります。まだ九寸のもあります。』と答へた。

早朝から汽車・電車・自動車に搖られ、午後は大急ぎで駈け廻つたので、さつきからひもじい思をしてゐた所に、新鮮な名物の鰹の刺身と來てゐるから堪らない。數椀の飯を平げて、靜かな下田町の一夜を安らかに過した。（昭和八年五月二十七日歸來直に）

沖繩紀行

（昭和十年）

出發

昨日の午後から急に惡寒を催し、夕方には三十七度八分の熱發、一晩中淺い眠りに夢ばかり見て、この分ならばと懸念したが、惡るくなれば鹿兒島から引返すことに腹をきめて起床そこ〳〵に旅裝を整へた。

たゞの時でさへ朝の酒はいやだのに今日は五月五日、菖蒲酒は熱のある口には苦くて當てられない。しるしばかりに唇をつけ、粽も食べず唯僅かに一椀の飯をお茶で流し込んで出發した。途中風の藥を求めて熊本驛に着けば、既に西坂山鹿・長野宇土の兩校長は大きなトランクを提げて待つてゐる。有住・藤本・津田・大槻の諸君が早朝わざ〳〵見送られたのは感謝に堪へない。

午前七時三十分發車。宇土驛に至れば西本宇土郡教育支會理事を初め、宇土小學校職員の盛んな見送り、西本理事が差出す一尺立方程の一包は、一行を犒ふための小袖餅である。由來この小袖餅と縣教育會との間には深い因緣が結ばれてゐる。佐藤新吾君から始まつて加賀山興定君、次で現在の長野校長に及び、其の間幾度か小袖餅の御馳走を受け、それが又いつも何かの瑞兆を齎してゐる。御幣をかつぐ譯ではないが、私はこれまでの吉例を思ひ起し早速それを頂戴した。朝飯の少かつたせいか、いつもに增してうまい。二見驛を過ぎる頃佐藤幹事からの電報を手にし、有り難く拜見した。

汽車が佐敷に着けば、有馬視學が外國行にでも持ちさうな特大のトランクにバンドまで掛けて持ち込んだのを見た三人は相見て微笑した。水俣で增田大野が乘り込んで愈々勢揃ひが出來た。併し其の時分から私は惡寒を覺ゆること甚しく、スプリングの襟を立てゝも猶寒い。

鹿兒島に着いたのは午後一時すぎ、五時の出帆までには四時間もある。いつもなら鹿兒島縣教育會の敬天寮に厄介になるところだが、今日は日曜だから、それに邪魔するのも心なきわざ、棧橋附近の柴山旅館に腰を下して晝食を濟ます。私は早速女中に賴んで厚い蒲團を被つて寢た。熱は依然七八分もあらうが惡寒はとれた。小袖餅の御利益もあるだらうし、三十八時間も船內で靜

養すれば治るだらうとの豫感もあり、四時すぎ宿を出て船に乘り込んだ。

◇

船は二千噸の開城丸、一昨年沖繩行の時も此の船であつた。乘り込んですぐ見覺えのあるボーイに出逢つた。向ふも覺えてゐて、私が病氣だからといつたら、初め這入り込んだ船室よりも廣い、五つベッドのある隣の部屋に替へて呉れた。ボーイは平岡實君といひ、よく尺八を吹く人であつた。私は後で尺八を聽かせよといつて和服に着換へて寢床に着いた。暫くしてから平岡君は毛布を二枚も增して呉れた。

湖水の如く靜かな錦江灣を南へ進む船の甲板から、近くは城山・櫻島、遠くは秀麗な開聞岳の風光も眺めたいが、靜養第一の寢床の中にあつては何も見えぬ。もう日も暮れたらしい。今まで甲板に出てゐた人達が室に歸つて來た。次第に靜かになる。唯スクリュウの音のみ規則正しく響いてゐる時。平岡君の尺八が聞え出した。曲目は分らないが、もう素人の域は脫してゐる樣に思ふ。私は子供の時から尺八は大すきである。よく

琉球におじやるなら　草鞋はいておじやれ

琉球は石原小石原

なども吹いてゐた。併し私は先年千葉縣の成田不動さんの公園で、不遇に泣く男の吹くのを聞いてから、尺八の音が一種の哀調を帶びて聞える樣になつたのをどうすることもできぬ。それでも今夜は平岡君が私を慰める爲に吹いて呉れる樣にも思はれて嬉しく聞きながら、いつとはなしに深い眠に入つた。

眼が覺めた時は、もう丸い船窓から朝日がさしてゐる。起き上ると熱も全くとれて氣分も爽快である。洗面を濟ましてあたりを見渡しながら、よく晴れた朝の海から、髮の毛をなぶる樣に吹いて來る潮風を吸ひ込む心地は何ともいへない。有名な七島灘も過ぎ海面は鹽の水のやうに靜かである。

◇

正午すぎ船は奄美大島の名瀨港に錨を下した。向ふから來る艀艇に白い大きな風呂敷包を持つ十數の女は、いづれも名產の大島紬をひさぐ爲に、この船に乘り込む人達である。

出帆は三時だとのことであるから、一行五人は名瀨町見物と、暫くでも船の退屈から免れる爲に上陸した。名瀨町は大島郡の中心地で人口二萬餘と聞く。北の一方が海に臨んで他の三方は山に圍繞せられてゐる。大島紬同業組合事務所の前を通り、甲板から赤い煉瓦建の十字架の聳え立つのが見え、誰にもすぐそれとうなづかるゝ教會に行つたが、建物ばかりで人影一つない。先年來新聞などで、こゝの教會や女學校のことなど隨分問題となつてゐたが、先頃宣教師なども全部引揚げたさうである。支廳通りから二三の重もな町々を素通りして船に引返すと、今先き乘り込んだ紬賣の女達はまだ盛んに押賣りをしてゐる。

午後三時、船は再び錨を拔いて一路沖繩へと向ふ。船が名瀨灣口を出ようとする時、平岡君が電報を持つて來た。見れば沖繩縣教育會主事島袋源一郎君からのもので

一ロヘイアンヲイノル　一カウナンメイカミナサマヘヨロシク」シマ

としてある。宿の部屋割などで各縣からの實人員を知りたいのであらう。だが、こちらでは、それらしい人とは思ひながらも、何縣が何名かは確に分らぬ。事務長に聞いても、はつきりしない。そこで事務長が氣をきかして、聯合教育會行きの人を一等室食堂に集まつて貰つて茶話會で

も開いたら、人數も分るし顏見知りにもなるだらうとのことであつたから、之れ幸ひとそのやうに賴んだ。

暫くして一行の顏が揃ふ。コーヒーとお菓子さへ出してある。そこで自己紹介が行はれ、事務長から沖繩の話などがあり、私は各縣の人數をたしかめて島袋主事へ返電を出した。船は南へと進む。空は快く晴れて一片の雲なく、海は紺碧藍の如くにして波極めて靜かである。一體に春の海は靜であるとはいへ、今日のやうなことは滅多にあるまい。愉快な航海である。やがて大島の連山を見送りながら夜に入る。

朝飯を濟まして甲板に出ると、左手に蜿蜒四十里の沖繩本島が横はつてゐる。それに見とれてゐる間に船は次第に陸地に近づき、隆起珊瑚礁の斷巖上に儼立してゐる官幣小社波上宮が朝日に輝いて拜まれる。何といふ綺麗な景色だらう。私は多くを知らないが、港の入口のこんなに美しい所は、さう澤山はあるまいと思ふ。

◇

船は忽ち針路を左へ左へと轉じ、右に四百年前倭寇撃退の爲に築いたヤラザ森城、左に三重城

を眺めつゝ、兩古壘の間を那覇港へ進入する。右方丘上に巍然たる二基の鐵塔は、中央氣象臺沖繩支臺の無線電信塔である。町が見える。南國情緒豊かな屋根瓦の眞赤なのに感興が湧く。

さあ、上陸だと部屋を出ようと、すると有馬視學は怪訝な顏付で頻りに物を探す振舞である。何事ならんと尋ねて見ると、こは如何に、乘船券を紛失したとのこと、人はぞろ〳〵甲板に出て行くのにこちらは行かれぬ。御當人はポケット・囊口は言ふに及ばずトランク・カバンの隅々まで探しても無い。四人も手傳つて毛布をはぐるやら、枕の下を探すやらしても矢張り無い。機關の方では呼子を合圖に一進一退、船を棧橋に近づける氣配でさわめいてゐる。もうは仕方がない四人のものが保證人となつて無賃乘船でないことを證明して、事務長に嘆願するより外に途はあるまいと相談をまとめて室を出ようとした。其の途端、今一度とベッドの下をのぞけば、今先きまでマッチの空箱と見過した青いもの、それが即ち先刻から懸命に探した乘船券である。一同爆笑して急いで出た。

序に一言附け加へて置かう。先年私が八代郡松高小學校の講堂落成式に參列しての歸るさ、これも縣官として臨席の有馬視學と同行して熊本驛に差しかゝる頃、同視學の切符がない。遂に改

札口で理由を述べて驛長室に至り、仕方なしに乘車賃を仕拂ひ、ホット一服しようとして煙草入をあけたら、チラリと赤いものが落ちた、それが即ち切符であつたことがある。

有馬視學は私と同行さへすれば切符を失ふから、其の原因私にありと横車を押さうとするが、それは天道樣が御承知なさるまい。

◇

船は規模廣大な棧橋に横付けした。澤山の出迎への人達が並んでゐる。中には琉球絣に扱き帶の前結び、漆黑な髮をクル〳〵卷いて銀のかんざしで留めてゐる婦人、兩手に黑々と入れ墨をしてゐる老婦人も見受ける。

紫に白で『沖繩縣』と染抜いた旗を兩手で擴げてニコニコしてゐるのが島袋主事。棧橋と甲板から幾度か目禮を交した。その島袋主事の後には十幾人の紳士が並んでゐる。恐らくは教育會關係の人達であらう。其の中に一人金ピカの制服嚴めしき警視の姿も見える。

船と棧橋とが一つの梯子で繫がれた。出迎の人達が上つて來る。甲板は一しきり挨拶の渦が卷く。警視の人も來た。此の人は我等の師範同窓生、一行の長野宇土の同級生で、在學中から特に

親交を續けて來たとのことは出發前から聞いてゐる。

一同船を下れば沖繩縣學務部長で教育會長たる福光正義氏、學務課長で副會長たる平野薫氏を始め、視學や校長などの人々が早朝にも拘らず態々出迎へて下さつた。棧橋の廣場で一應の挨拶が交換され、一行は直に旅館寶來館に落ち付く。

庭前の赤い花の佛桑花・大谷渡り・福木などが珍らしい。

第一日

今度の沖繩行きは、沖繩縣教育會主催で那覇市に於て開かるゝ第十六回九州沖繩八縣聯合教育會に出席する爲である。

少憩の後會場たる昭和會館に行く。昭和會館は沖繩縣教育會館で、三年前に新築したもの、二階建の明るい氣持のよい建物であるが、それよりも何よりも推賞したいのは附近の眺望である。海水が深く彎入してゐる其の岸に聳えてゐて、對岸の綠、姿態のよい松林、其の下に並ぶ赤い屋根、左手に見える岬、右手に連なる橋、景色のよい教育會館としては全國一であらう。

會議が始まる。地元教育會長の福元學務部長が議長席に着き、沖繩縣知事・帝國教育會長の祝辭があつて議事に入る。第一號議案の『義務教育費國庫負擔の建議』を皮切りに幾つもの重要な教育問題が、或はスラリと或は議論百出で進行する。議長の進行振りは極めて鮮かなものである

午前十時半會議を閉ぢて見學に移る。こゝでちよつと申したいことは、我等一行見學の案内役であり、且、到る所での說明役を務めるのが、我が島袋主事である。同君の案内と說明とは今度ばかりでなく、苟も足を沖繩縣に入れた政府の要人・知名の人が本縣を視察する際は、きまりきつて島袋君が說明役を承ること玆に年あり、縣の歷史・故事來歷・傳說俚諺はいはずもがな、動植物に鑛物に其の造詣極めて深く、鄕土史に於ては縣下第一人者として定評あり、沖繩善行美談沖繩歷史・沖繩の傳說・沖繩案内など幾多の著書があり、孰れも數版を重ねてゐるの盛況、搗てゝ加へて言語明晰、音色勇美、而も繁簡宜しきを得て聽く者をして倦ましめざる話術の妙、當に天下一品として一行の感嘆措く能はざりし所である。この紀行文にも同君の著に成る『沖繩案内』から拜借した文句が尠くないのを斷つて置く。

先づ第一に波上宮に參拜する。宮は船から眺めた樣に海岸に突出した斷崖の上に建てられ、本

宮は伊弉冊尊、相殿は左に速玉男尊、右に事解男尊の三神を拜祀してある。一同恭しく神前にぬかづく。代表者が奉る玉串も榊にあらで榕樹の枝、戴く神酒も芳醇鼻をつく泡盛であるのに沖繩らしい感を深くする。寶物を拜觀し沖繩朝日新聞社のカメラに納まつた後、眞言宗第一の巨刹護國寺・本縣唯一の天滿宮・ペッテルハイム記念碑・明治七年臺灣征伐の因をなした臺灣遭難者の墓・天尊廟・天滿宮などを巡り、それより首里市に赴き、市立女子工藝學校に着く。

◇

この學校は一昨年の暮に行つた時までは首里城内にあつたが、今は城外に移轉新築して木の香まだ失せやらぬ裁縫教室に請ぜられて、首里市長招待の琉球料理の晝餐を戴く。黄檗宗の普茶料理に似た料理で、黑塗のお椀に盛つた飯におかずを乘せ、それに汁をかけて食ふ。あつさりしてうまい。名物の泡盛や、特産のお菓子なども頂戴した後、校内を一巡して成績品や生徒の實習を視察した。

此處を辭して桃原農園に行く。本縣産の植物は勿論のこと、臺灣・南洋あたりから取寄せた多くの熱帶植物を栽培してある。こんなものが大好きな私はなか〳〵足が進まぬ。二三日ゆつくり

見たらと思ふても詮なきこと、後髮ひかるゝ思ひで出た。始めて見た觀音竹の花は今猶眼の前にちらつく。

それから尙侯爵邸を拜觀する。さすがは琉球國王の邸宅で、古代杉の一枚戸、螺殼でこしらへた硝子代用の窓、さては高尙典雅な庭造り、大廣間後方の室に陳列してある路次樂・御座樂の諸器具を始め陶器・漆器などを觀て琉球藝術の一端を偲び、今でなら魔法瓶とも言ふべき湯のさめぬ樣にこしらへた漆器の中から出るお茶や、花ボールといふお菓子などを頂戴して師範學校に行き、講堂で『唐手』を見る。

唐手とは何ぞや。曰く身に寸鐵を帶びず、平時に於ては心膽を練り、急に際しては身を護るの術なり。即ち多くの場合肉彈を以て敵を倒す事を原則とす。然りと雖も機に臨み變に應じ器物を併用すること亦無きに非ず。とは其の時貰つた刷り物の文句である。

初め二年生十數名の團體練習、それから個人の練習、器具使用、板割などがあつた。見る人をして自ら襟を正さしめ、且つ悚然たらしむるものがある。七分板三枚を重ねたのを、一擊まつ二つに割つたのを見た一行は、唯呆氣にとられるばかりであつた。唐手を練習する時は眞裸である

そして型の練習が主で仕合はない。もし仕合をすれば、それこそ劍道なら眞劍勝負と同じで、敵を斃さねばならぬことになるからであるさうな。

◇

講堂の玄關で松田秀憲・川畑篤郎の兩君に逢つた。松田君は本縣社會教育主事補右田榮熊君の令兄、熊師卒業後は八代郡に奉職してゐた關係から舊知の人、川畑君は八代の產、私が代陽小學校に奉職してゐた時同校在學中であつたから、これも固よりよく知つてゐる人である。兩君とも沖繩縣女子師範學校に奉職して、松田君は手工を、川畑君は教育を擔任してゐるとのこと。久闊を叙して共に圓覺寺の古刹に彫刻其の他を視察し、大きなアコウの木の欝蒼として晝猶暗き密林の中を通つて首里城に向ふ。

丘陵の上に築かれた東西二百二十五間・南北百五十間・面積一萬九千坪の城廓、爪先あがりに上ると守禮門の所に出る。支那式を加味した城の正門である。それから四時清冽な水の湧く『瑞泉』の前を過ぎ、又上つて正殿前の大廣場に出た。

正殿は唐破風の實に規模宏大な堂々たる建物である。正殿の南側には日本式で慶長後薩摩の使

臣を歡待する目的で建られた南殿、北側には純支那風で冊封使歡待の爲に設けられた北殿とが相對峙してゐる。琉球國王が薩摩と支那との間にあつて、どちらの機嫌も損はずに數百年間王家を維持した苦衷の程が察せられる。正殿は先年既に破壞せられんとしたのを、伊東工學博士の盡力で改修され、縣社沖繩神社の拜殿となつてゐる。

沖繩神社に參拜し、正殿を背景に記念撮影をなしてから、後方の高臺に上つて城の內外を俯瞰する。首里市は一眸の下に收まる。市內には樹木が多くて、森都熊本市も之には及ばざること遠しである。新綠の中に赤い屋根、繪にかいた樣に美しい。

首里市は人口二萬ではあるが、舊都として又教育の中心地として一種の風格を備へてゐる。脚下の數十戸は悉く泡盛製造を業とし、泡盛の本場が即ち此處だと聞いて城を出で、首里至聖廟に參拜した。

體の工合はよくなつたやうだが、旅にあつて第一の禁物は病氣である。幸ひ增田君の親戚にお醫者さんがゐられるとのことで、同君と同行して上之藏町濱松病院に行つた。濱松さんは親切なお方で精細に診察して下さつたが別に異狀はない。唯咽喉が少し腫れてゐるばかりだと散藥と含

嗽劑とを下さつた。信頼するお醫者さんから異狀なしと言はれて安心し、急に元氣づいたやうである。

宿に歸り一浴して三杉樓に於ける那覇市長の招宴に行く。市長不在の爲め、當間助役から丁重な歡迎の辭に次いで一行代表者の謝辭が濟むと、島袋主事の說明つきで、沖繩獨特の三献料理が出る。三献料理とはまことに丁寧なもので、お膳が三度出て、料理も一々異つてゐる。

第一のお膳には三品の料理が載せてある。酢漬にした刺身はうまかつた。料理ばかりで酒はない。一の膳を引いた後に第二の膳が出た。これには澤山の皿や椀や、壺に數々の料理が並べられ飯もついてゐる。併し酒はまだ出ない。私の樣な下戸には持つて來いの料理で、早速御飯を頂戴し、下戸萬歳であるが、之に反して左利きの連中は變な顏付で、お義理に箸を動かしてゐるように見えた。

腹は出來た。後はどうでもよいと高をくゝつてゐると、二献が引かれていよ〳〵三献。今度は盃もついてゐれば酎家（チョカ又はチュカ＝泡盛の入れてある茶瓶の平つたいもの）も出る。左利きの連中喜色漸く現はる。三献は普通の會席膳で之にも色々の料理が並べてある。中し後れた

が二献に出た豚の角煮はほんとうにうまかつた。

酒が出たら踊りも出た。琴・三味線と歌に合せて踊る。歌は聞いてすぐ分るものもあれば、分らぬものも尠くない。絣の着物の廣袖仕立に帶を前に結んだ其の儘の姿で踊るのもあれば、目も映ゆるばかりの衣裳に、絹張五色の奇麗な笠をかぶつて踊るのもある。其の孰れにしても、必ず紫の鉢卷だけは忘れないで、其の兩端は長く腰のあたりまで下がつてゐる。

十時過ぎ會場を出て、門前に客待ちしてゐる人力車に乘つた。曾て支那の蘇州で人力車に乘り問題を起さうとした時の事など思ひつゝ宿に歸る。那覇市には人力車が多い。町の到る處に客待ちの車が幾臺づゝか並んでゐる。市內は大抵十錢均一で至極便利である。

第二日

午前九時から昭和會館で前日に引續き開會。視學待遇向上の建議などは、時既に遲しとて滿場一致可決、其の他の問題もスラ〳〵と進行し、最後に熊本縣及び沖繩縣から提出した『沖繩縣ニ官立水產專門學校ヲ設置セラレンコトヲ其ノ筋ニ建議スルノ件』は、國家的見地から言つても、

又三府四十三縣中、官立學校の一つもないのは、此の沖繩縣ばかりといふことからしても、教育の機會均等、沖繩縣の文化向上の點から言つても異論のあらう筈がなく可決した。沖繩縣では先年來縣獨自の立場で屢々建議もし要望もして來たのが、今度八縣聯合教育會で之を可決したことに就ては、縣民諸君も大いに喜んでゐるやうであつた。

午前中で議題は全部議了したので、昭和會館内の鄕土參考館を見る。こゝは沖繩縣教育會が數年前から年額壹千圓位づゝを費して、琉球文化を物語る書畫・圖書・教科書・織物・陶器・漆器衣服其の他の器具を蒐集陳列して小博物館の觀を呈してゐる。教育會の事業としては、まことに結構な思ひ付で、私はうらやましく思ふた。我が熊本でも一日も早く、品物が散逸せない内に何とか方途を講じ、行く〳〵は博物館を建てる樣なことは出來ないものか。

一同車を聯ねて、舜天王以下琉球歷代の王廟である崇元寺に行つた。石造建築としては其の形容の整つてゐる點に於て稀に見るものであると、伊東工學博士が推賞したといふ見るからに頑丈なもの。廟前に一禮して、そこに聳えてゐるヤラブの樹の實を三つ持ち歸つて私の庭に植ゑて置いた。芽をふくか知らん。

それより那覇孔子廟に向ふ。聖廟は久米町の東部にあり、建築は總べて唐風で丹泥を塗り、相隣つて明倫堂や啓聖廟が附設されてゐる。正殿の中央には孔子の坐像を安んじ、左右に四賢の立像を配し祀つてある。私は先年佐賀縣多久の聖廟に參拜したことがあるが、廟の結構などは此の那覇聖廟とは大分其の趣を異にしてゐる。廟内にお茶などを出して慇懃に歡待して呉れた崇聖會の方々に謝意を表して出で、途中縣の工業指導所に立寄り、こゝから東方小一里の所にある尙侯爵家の別邸識名園に至る。

識名園は室町時代の庭園法に準據せるものといはれ、心字形の鑑池を中心として奥床しき殿閣があり、幾つかの冊封使の題額が揭げられ、美しき芝生・築山・風雅な八角堂・古風な支那式の石橋・石燈籠などの配置は實に心地よく、又南隅の物見臺からの眺望もよいが、更に此の園を築造するに當りて一つの大いなる苦心は、園内孰れの地點からも海が見えぬやうにして、冊封使に『琉球も廣い處だ。』といふ感じを持たせることにあつたとのことである。

こゝで島尻郡教育部會接待の中食の御馳走に預る。食後の果物として出たバナナは、熊本あたりで見る臺灣産のそれとは違つて、小さくて短い沖繩産であるが、其の味は臺灣産よりうまかつ

た。

◇

庭園を一巡して糸滿町に向ふ。那覇からは三里强の南で馬鐵も敷設してある。小祿村を過ぎて右に水田、左に畠のある道を自動車で一直線に進む。稻はもう出穗期で、所謂蠟燭立ちになつてゐる。たしか六月末に一度收穫し七月に又田植があつて、十月の初めに二度目の米が取れるさうな。

糸滿町の入口にある白銀堂の前で車を降りて小祠に詣づ。白銀堂に關する傳說は面白い。その材料を島袋主事が得意の話術で說明するのだから猶更面白く聞える。それから町に出て、すぐ裏通りの海岸にある長さ三間幅三尺の刳舟を見た。こゝの人達は此の小さな船に一命を托して縣內の島々は勿論、四國・九州・九十九里ケ濱を始めとし、遠くは南洋方面にまでも活動するとのことである。

町を巡つて小高い物見臺に上つて町內を一覽する。一萬二千の人達が住む頑丈な家が行儀よく並んで、有福な空氣が漂うてゐる。それから小學校の榕樹の下に設けられた休憩場で、お茶やビ

ールを飲みながら此の町の說明や白銀堂の琵琶歌を聞く。

糸滿町に就ては書くべき多くの材料がある。併し紙面に制限があるから迚もそれは出來ぬ。唯其の一二を記すれば、此の町は漁業地として有名な町であるが、それにも增して經濟學者・社會學者の間に著名な事實が存在する。それは即ち糸滿の財產制度である。即ち一家族內に於ても各人共の財產を私有することである。夫と妻とは財產を異にし、子女も兩親と財產を別にし、長子が結婚しても嫁の財產は又それ自身嫁のものとして獨立するのである。そしてそれには職業の關係上、又は永い傳統の力などで、さうした方が都合がよいと思はれたからであらうと、うなづかるゝ點がある。從つて未婚の女子なども大抵は四五百圓、多いのは千圓以上の貯蓄があるさうなそれは皆娘さん達が、魚貝を那覇若くは附近の町村に販賣して得た利益の集積である。

島袋氏の說に從へば、嫁の選擇には概して貯金の多きを以て標準とする。其の理由は、蓄積の多いのは第一體格强健・第二勤勉・第三儉素だからであるといふ。多くの地方で何よりも先づ問題になる貞操問題は、此の町の娘さん達には論ずる必要はない。それは此の町の婦人の貞操堅固なことは世既に定評があり、自他共に許してゐることであるから。